

10-572

31-486

樞密院顧問官 伯爵東久世通禧君題辭
平安神宮宮司 子爵日野西光善君題辭

京都府護民局長 須古織之助君跋
子爵秋元興朝君辭



京都出版協會編纂

繪畫部主任

營業部主任

編輯部主任

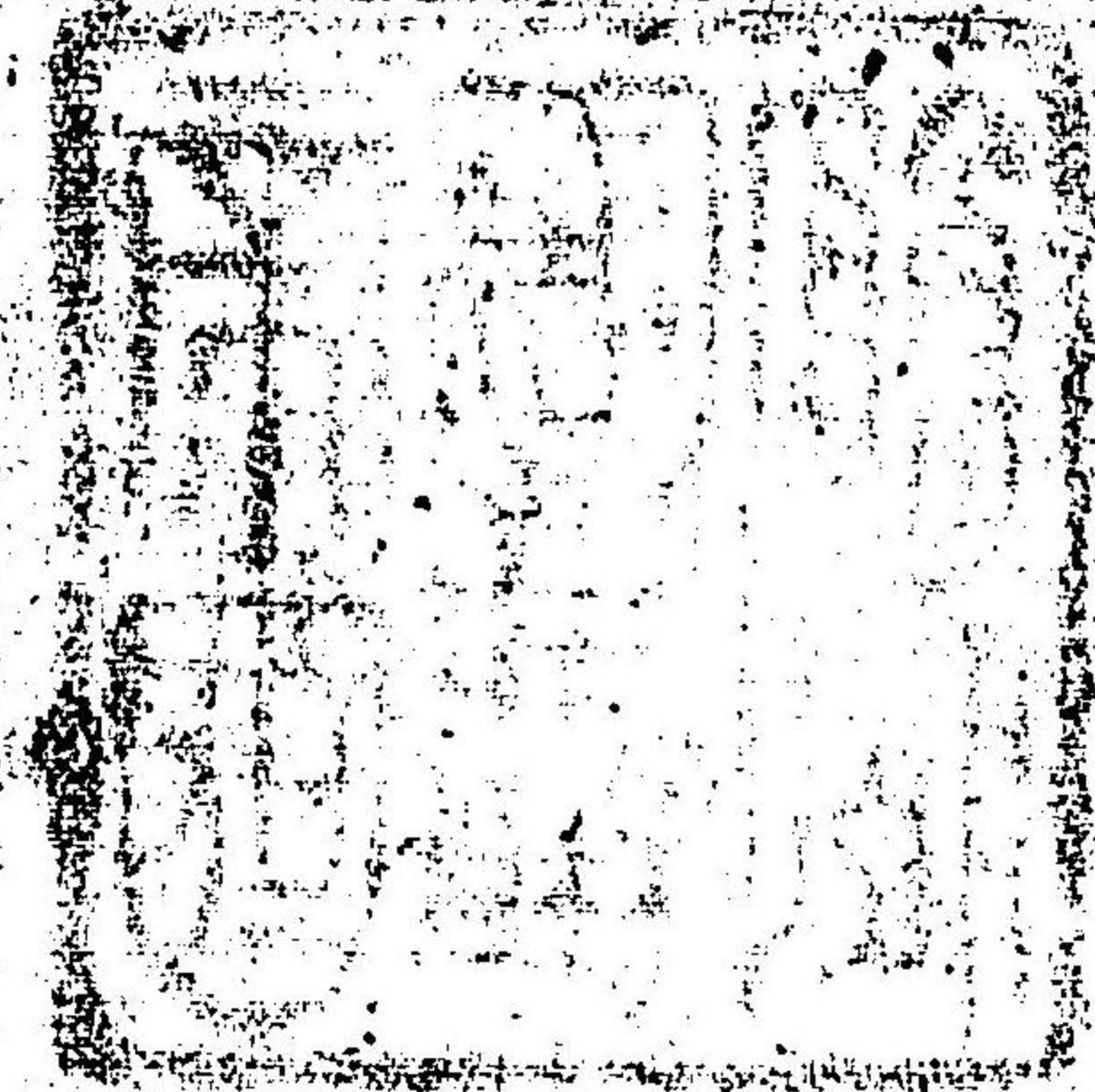
山中岳南
今村楓
梅本虎水

紀之京都

天之卷



日
新
新
又



白 條 又

顯世記之京都
卷首

竹直



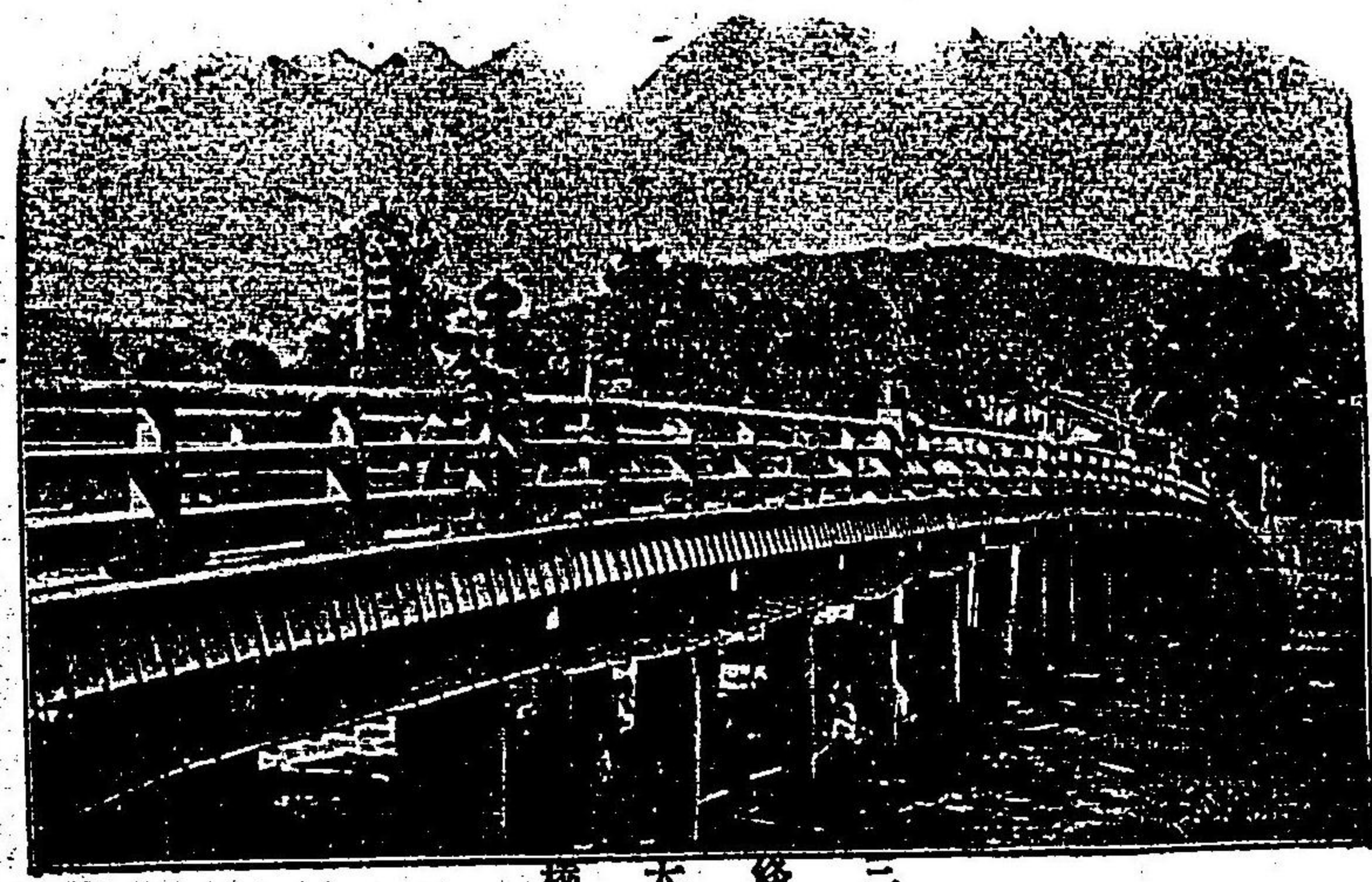
あきみから
きりぎりす
いんげん乃
いんげん乃
きりぎりすの
きりぎりす
きりぎりす

あきみから
きりぎりす
いんげん乃
いんげん乃
きりぎりすの
きりぎりす
きりぎりす

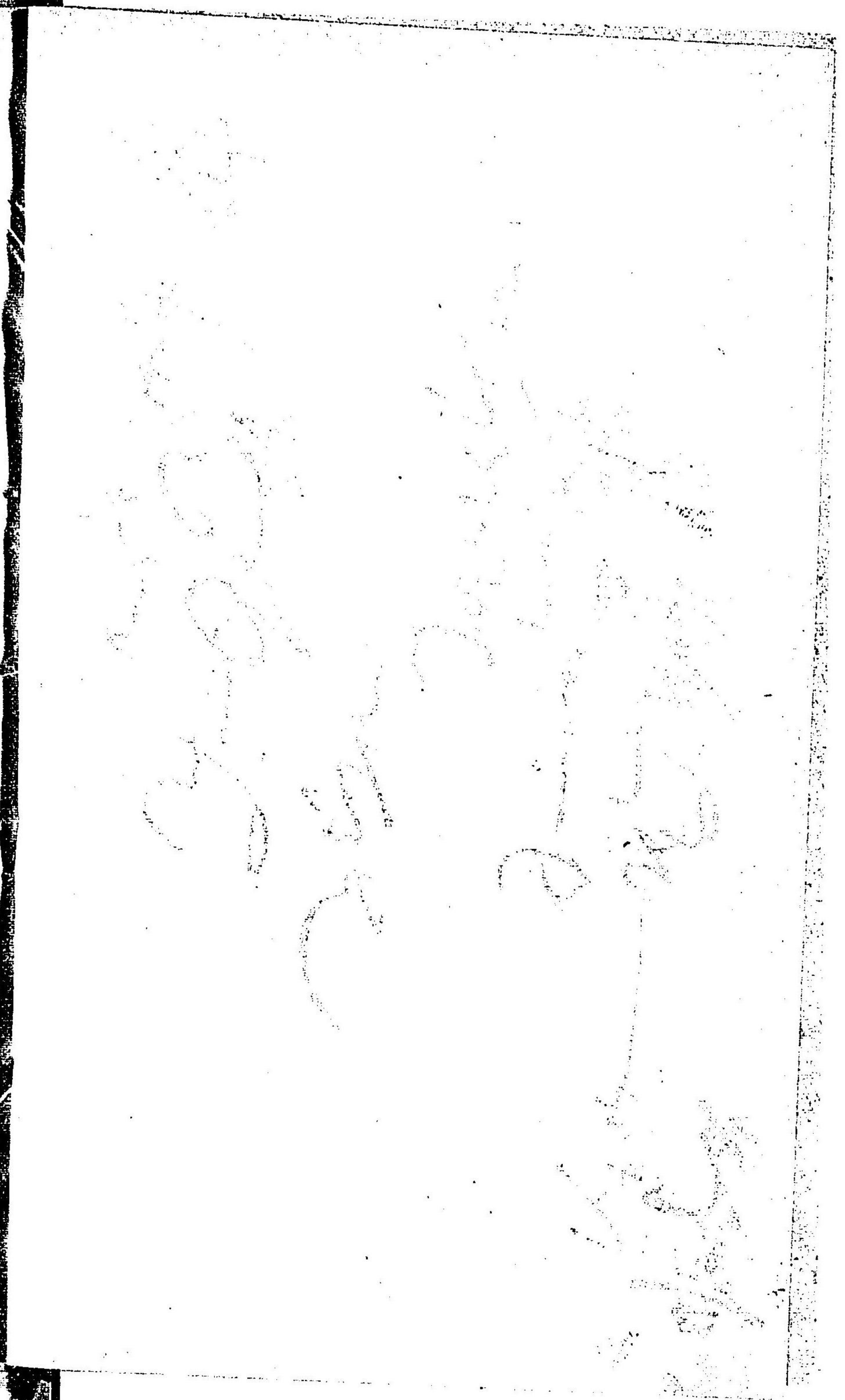
社神茂加上
KAMIGAMO-JINSHA

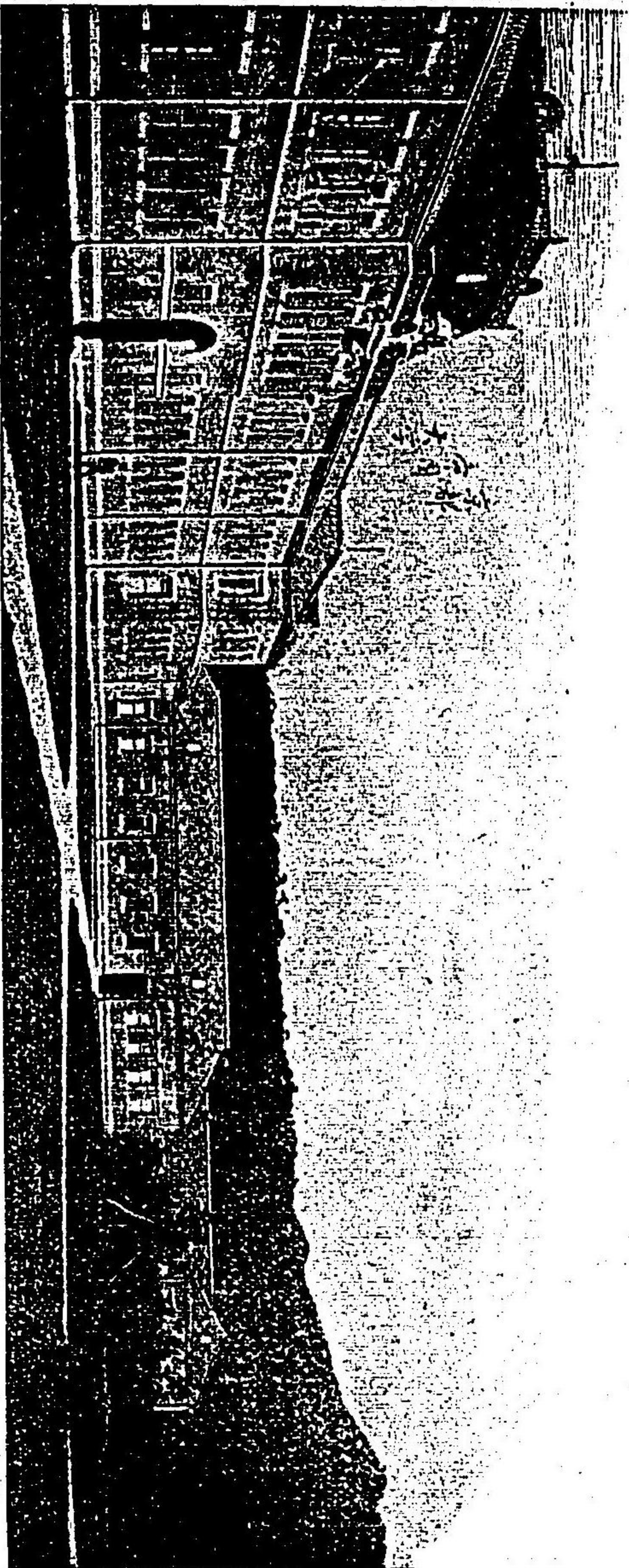


社神茂加下
SHIMOGAMO-JINSHA

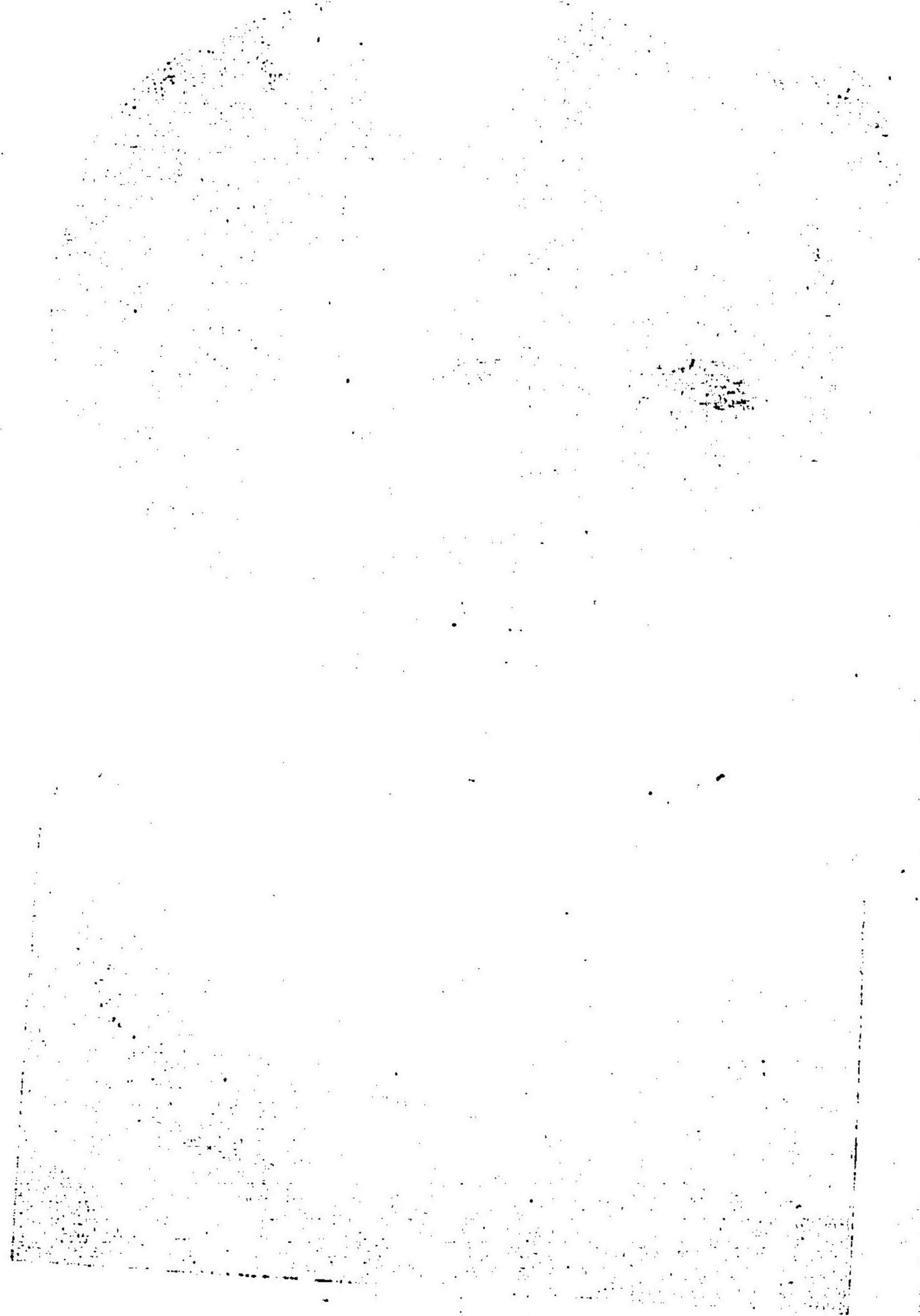


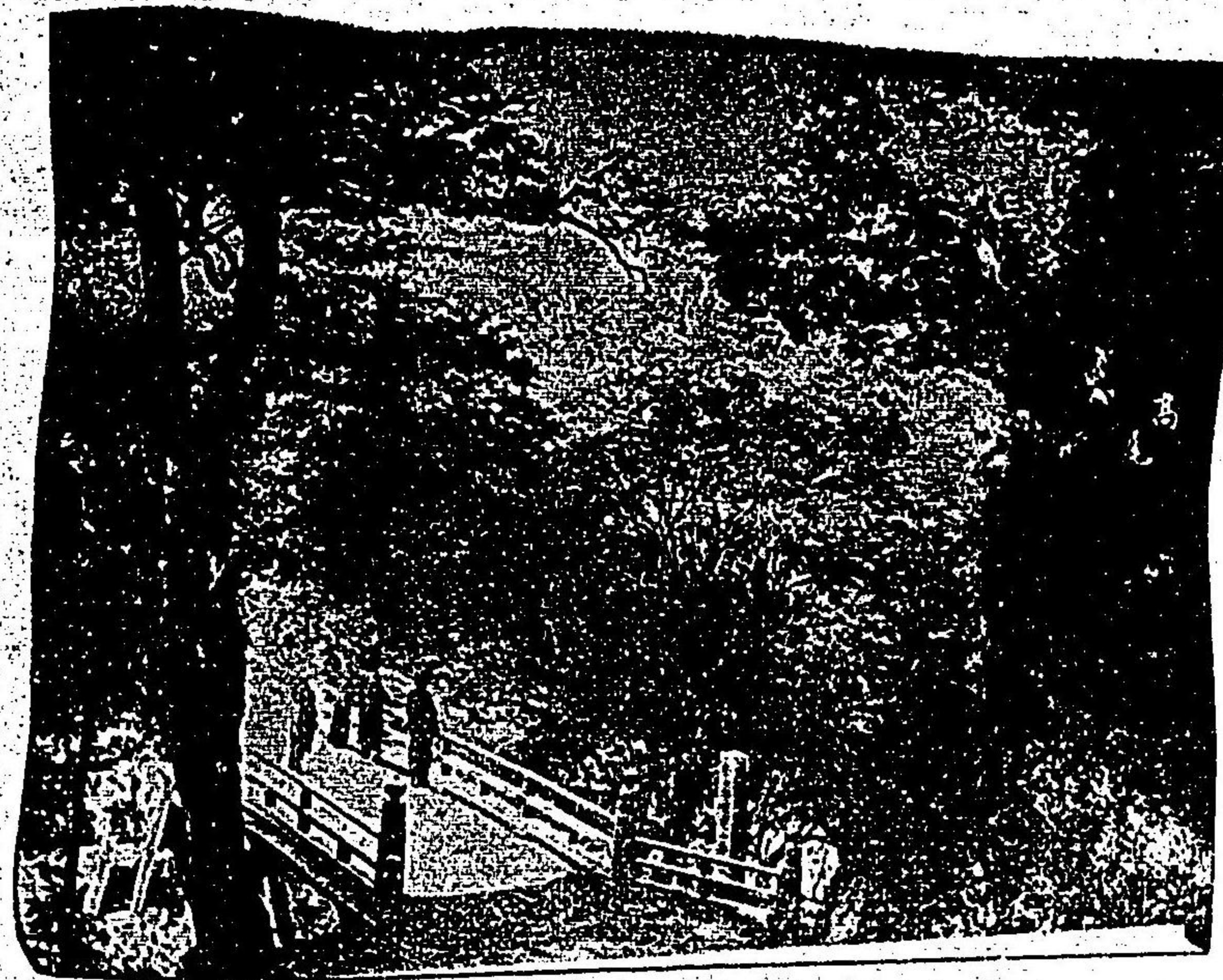
橋天條三
SANJYO-OHASHI



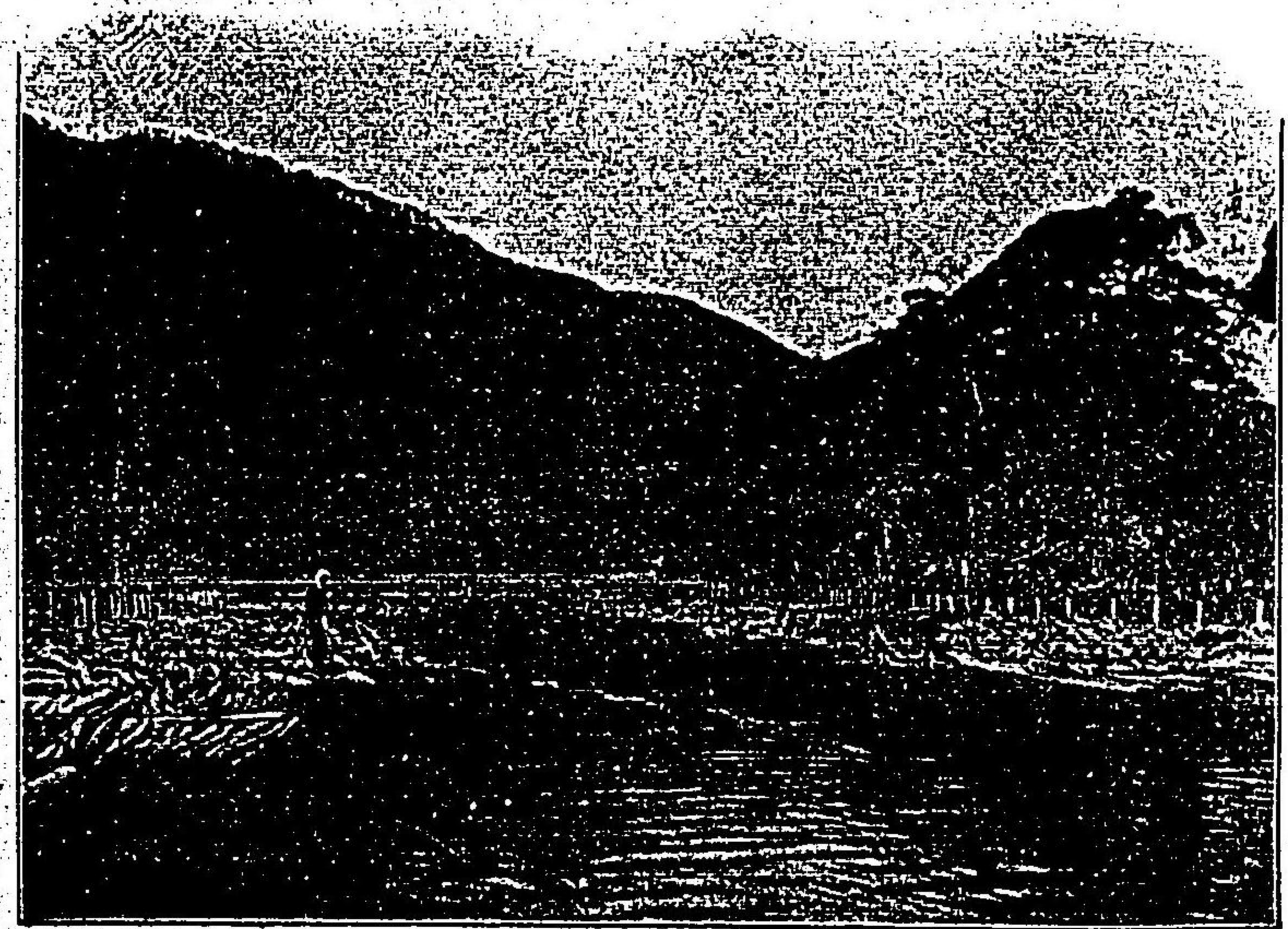


京 都 帝 國 大 學
KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY

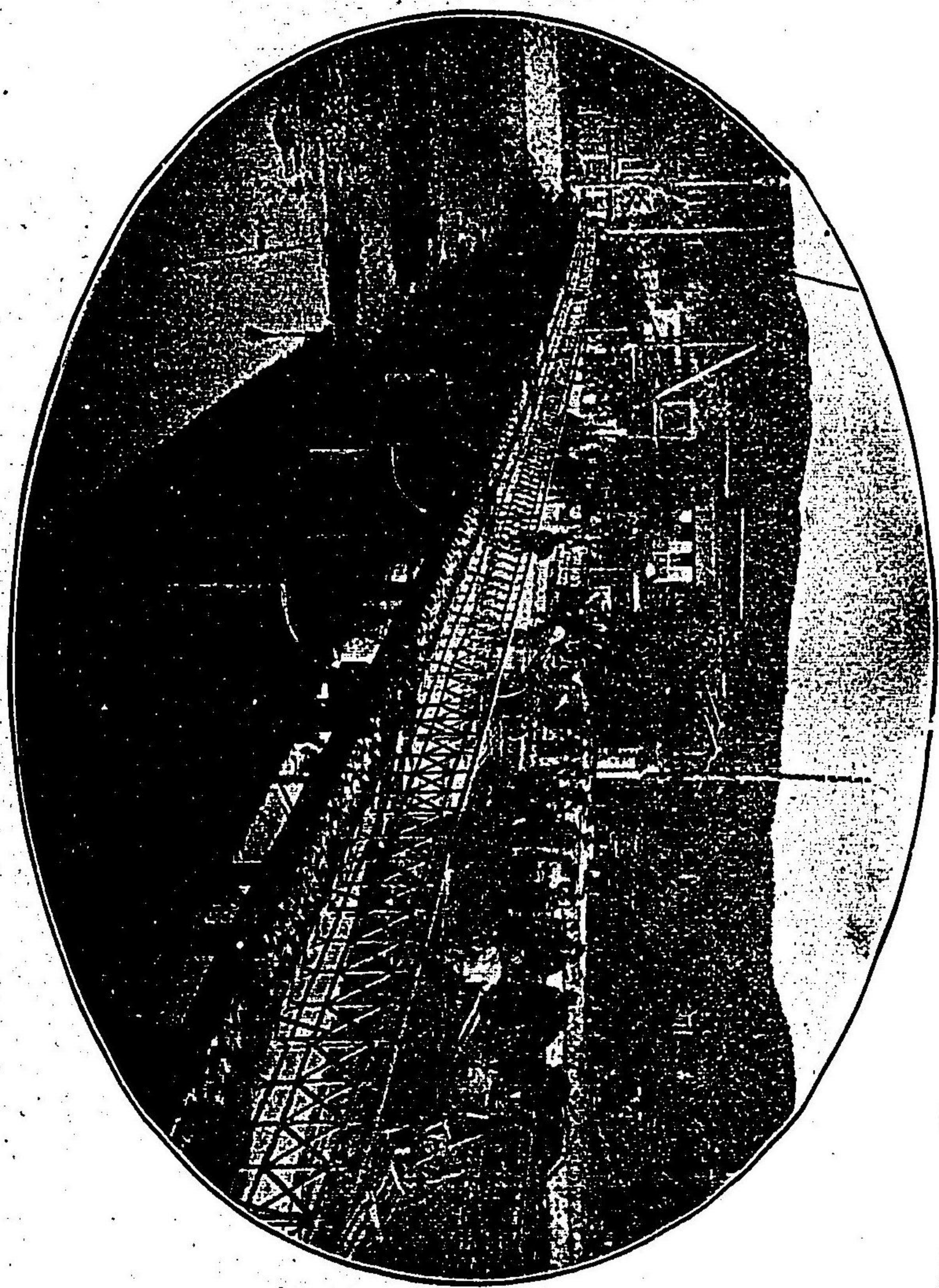




雄 高
TAKAO



山 嵐
ARASHIYAMA



橋 大 條 四
SHIJO-OHASHI

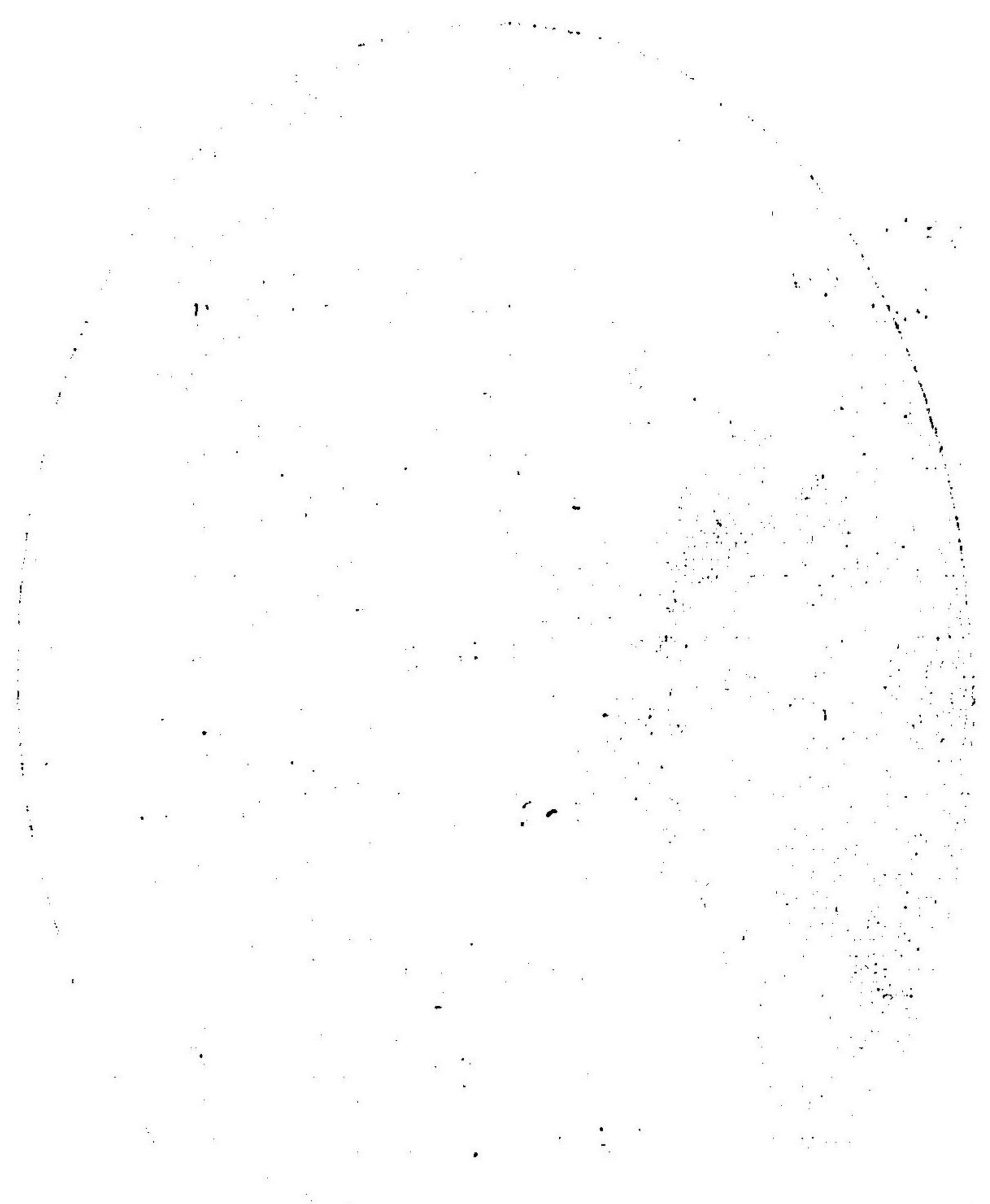


JAPAN

ARAKI



宮 殿 後 二
NIFYO PALACE





文藝倶楽部美人投票に第二等に當撰したる京都第一流の美女なり

子 富 田 高 地 新 園 紙

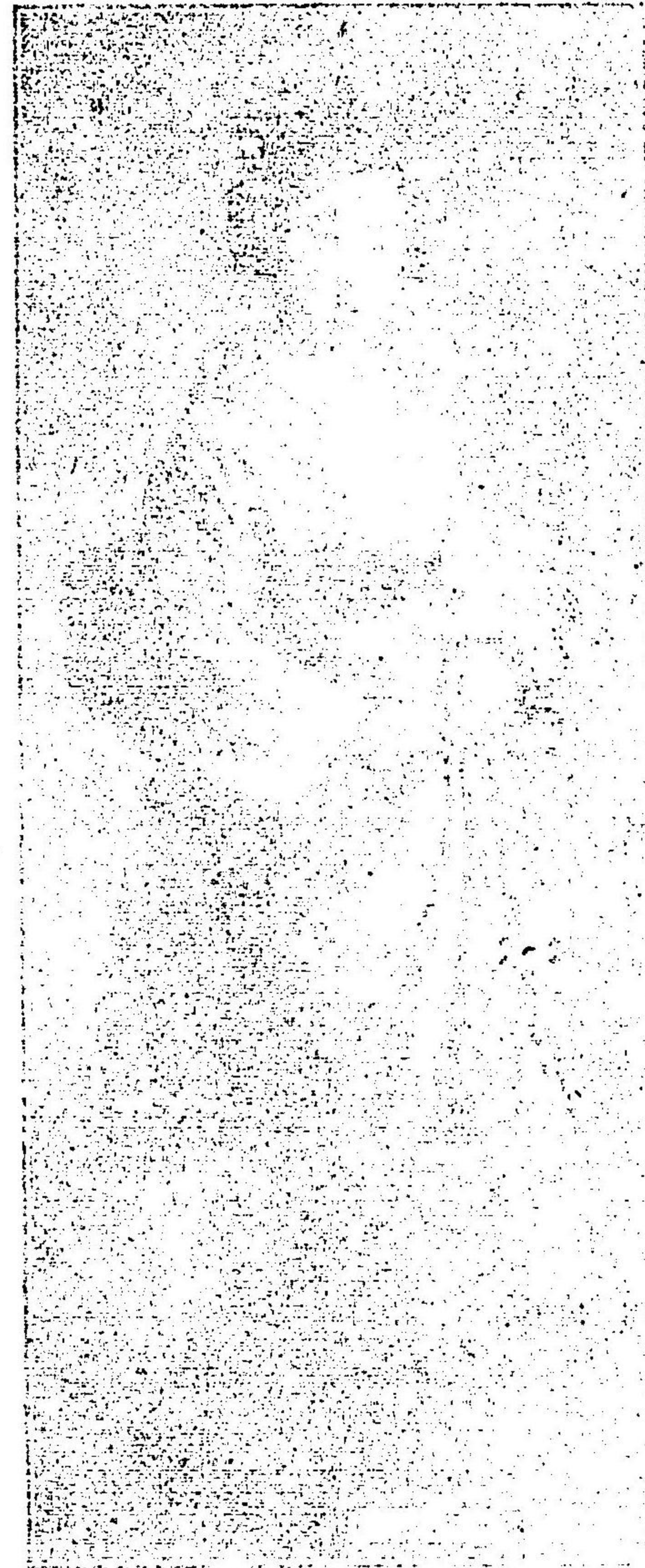
TAKATA TOMIKO



谷 大 西
NISHIOTANI

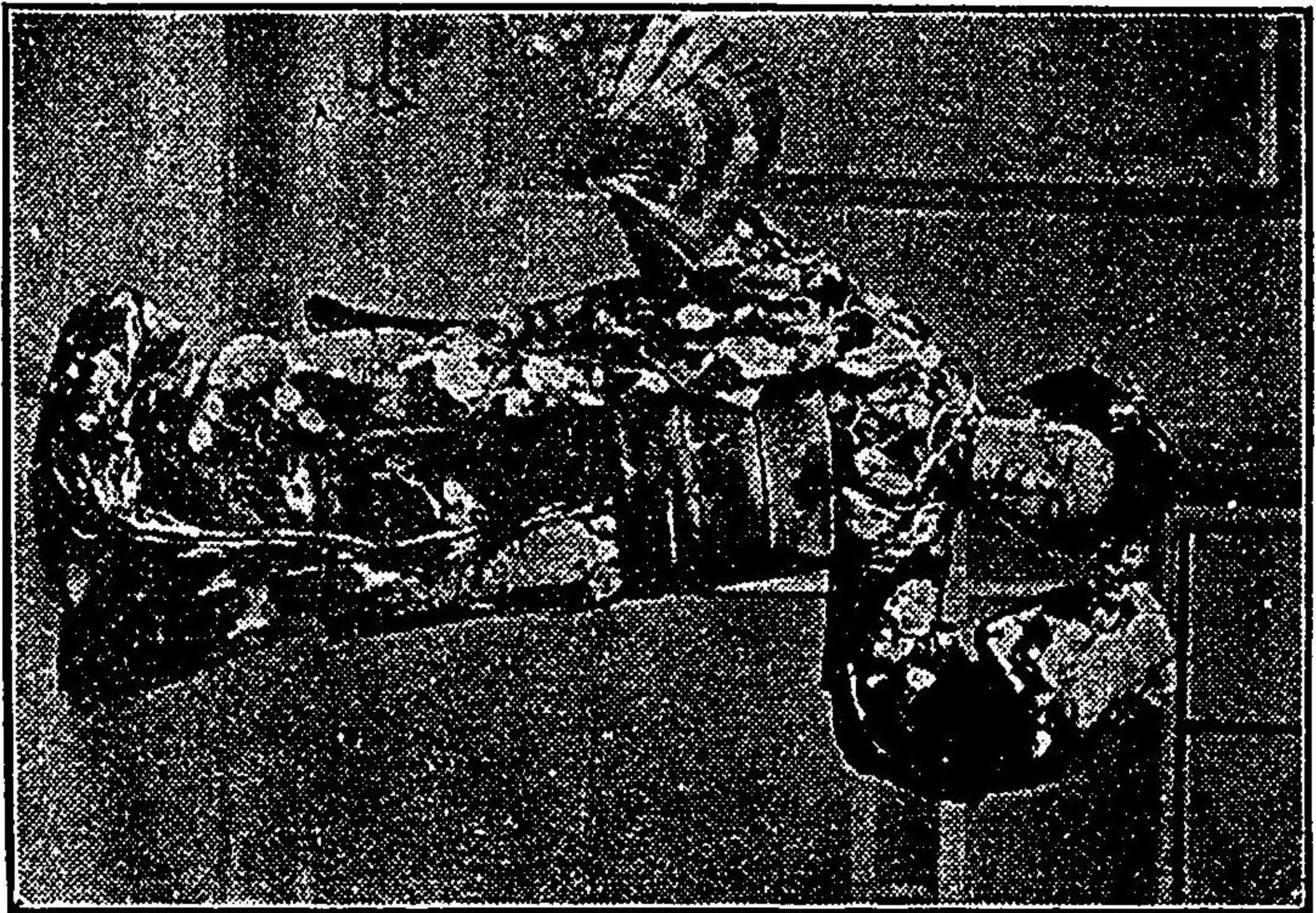


橋 天 通
TSUTEN



THE AMERICAN

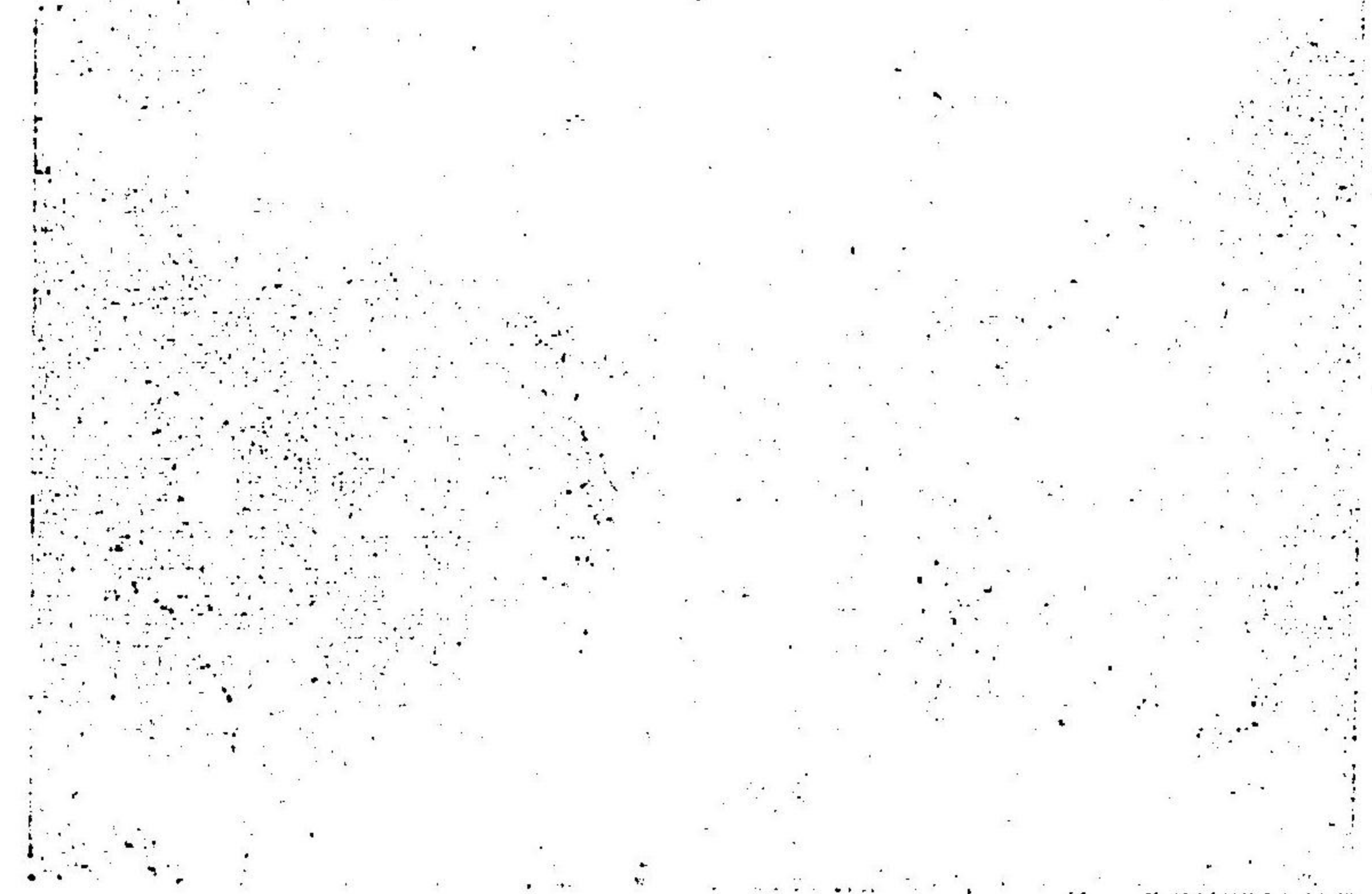
PHOTOGRAPHY

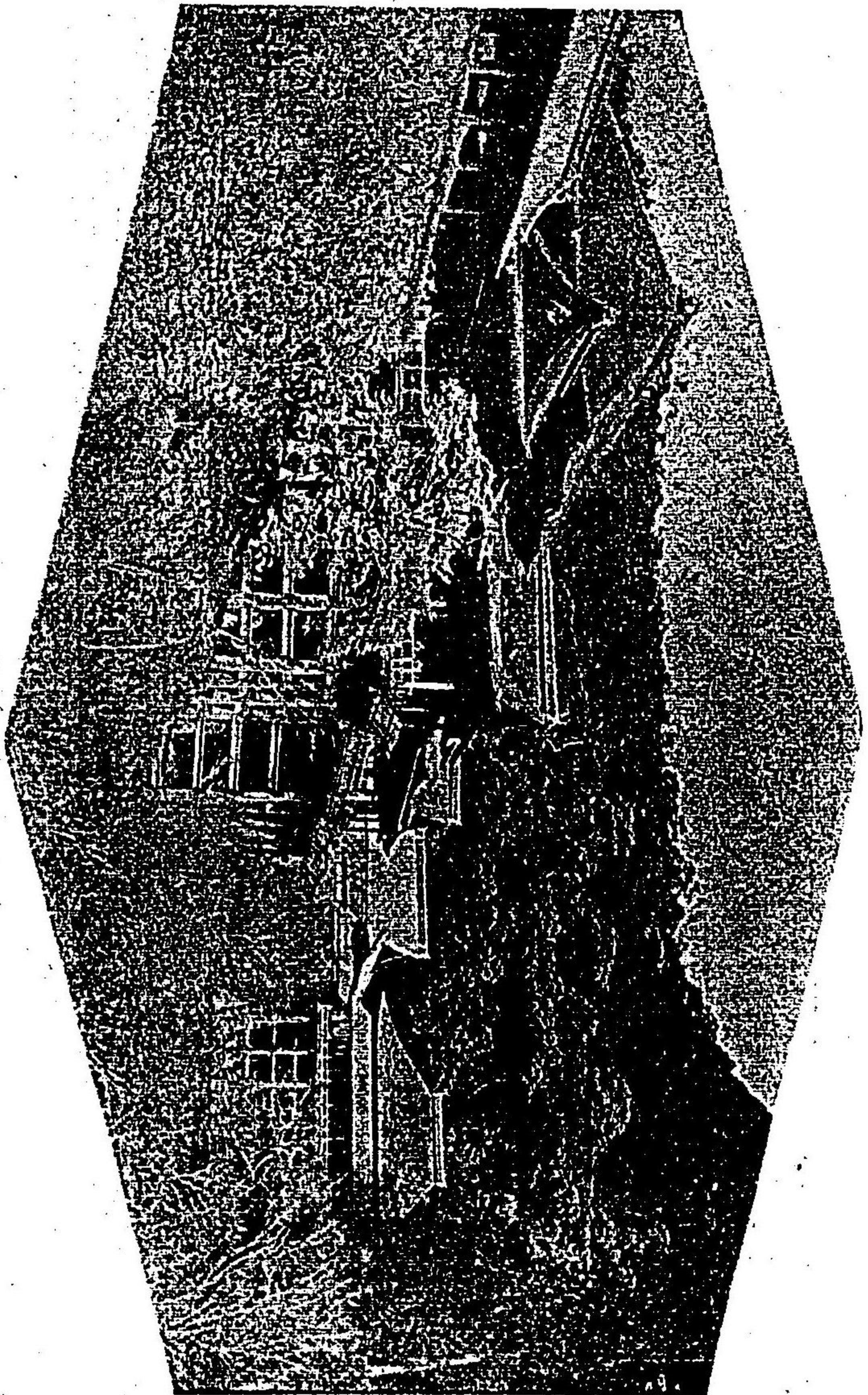


彌 吉 町 斗 先
KICHITYA

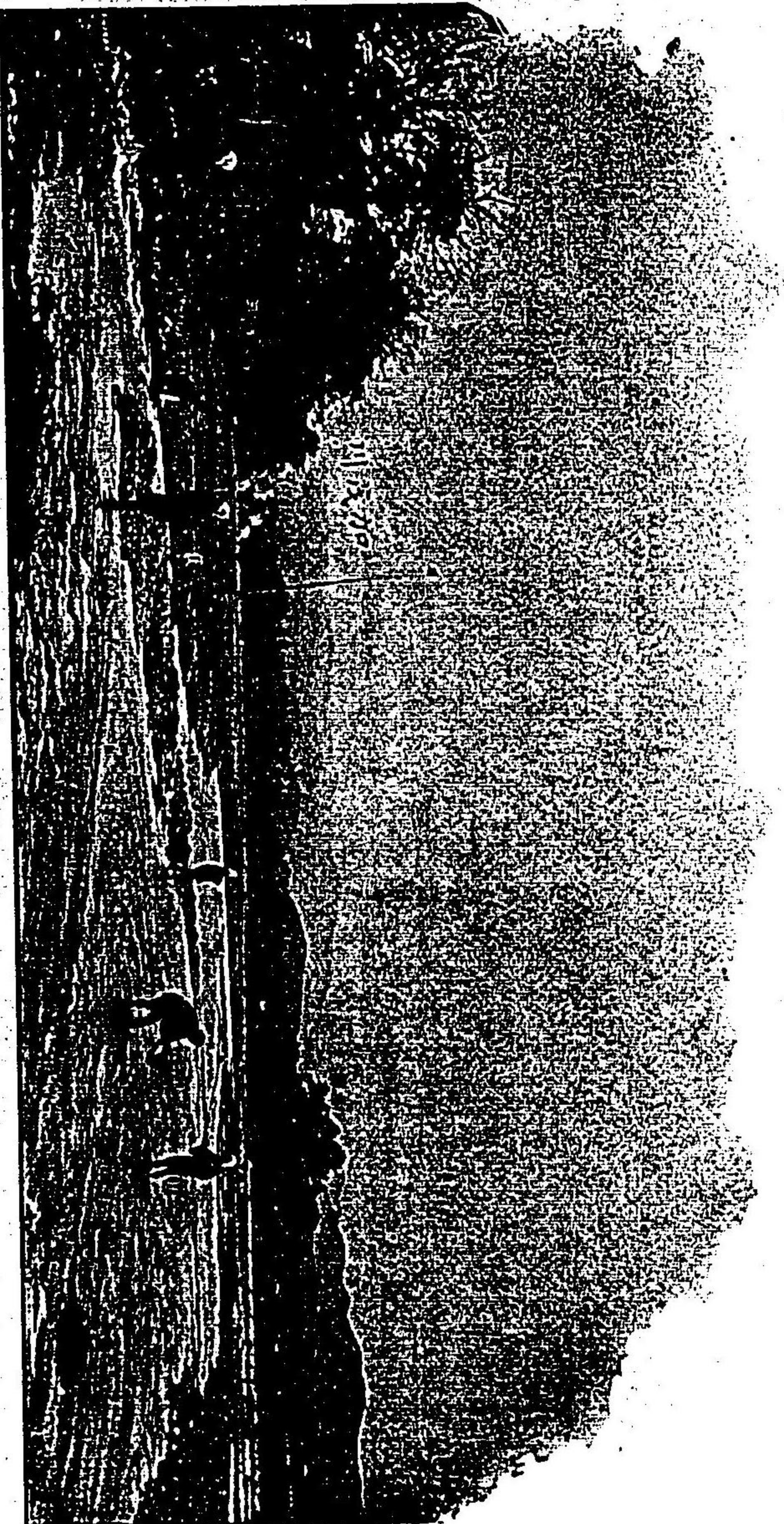


寺 願 南
NANZENJI

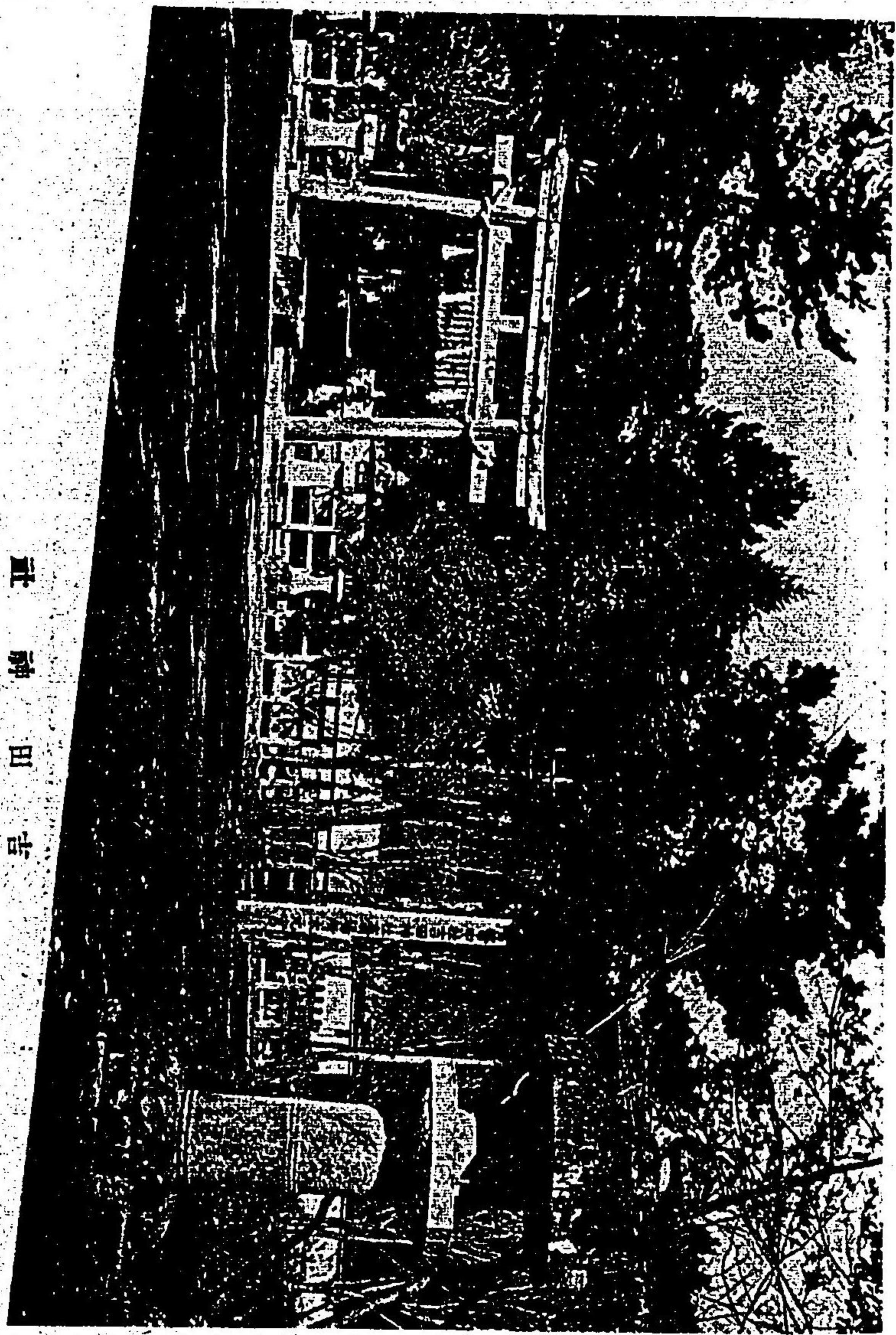




寺 水 清
KIYOMIZUDERA



川 茂 加
KAMOGAWA

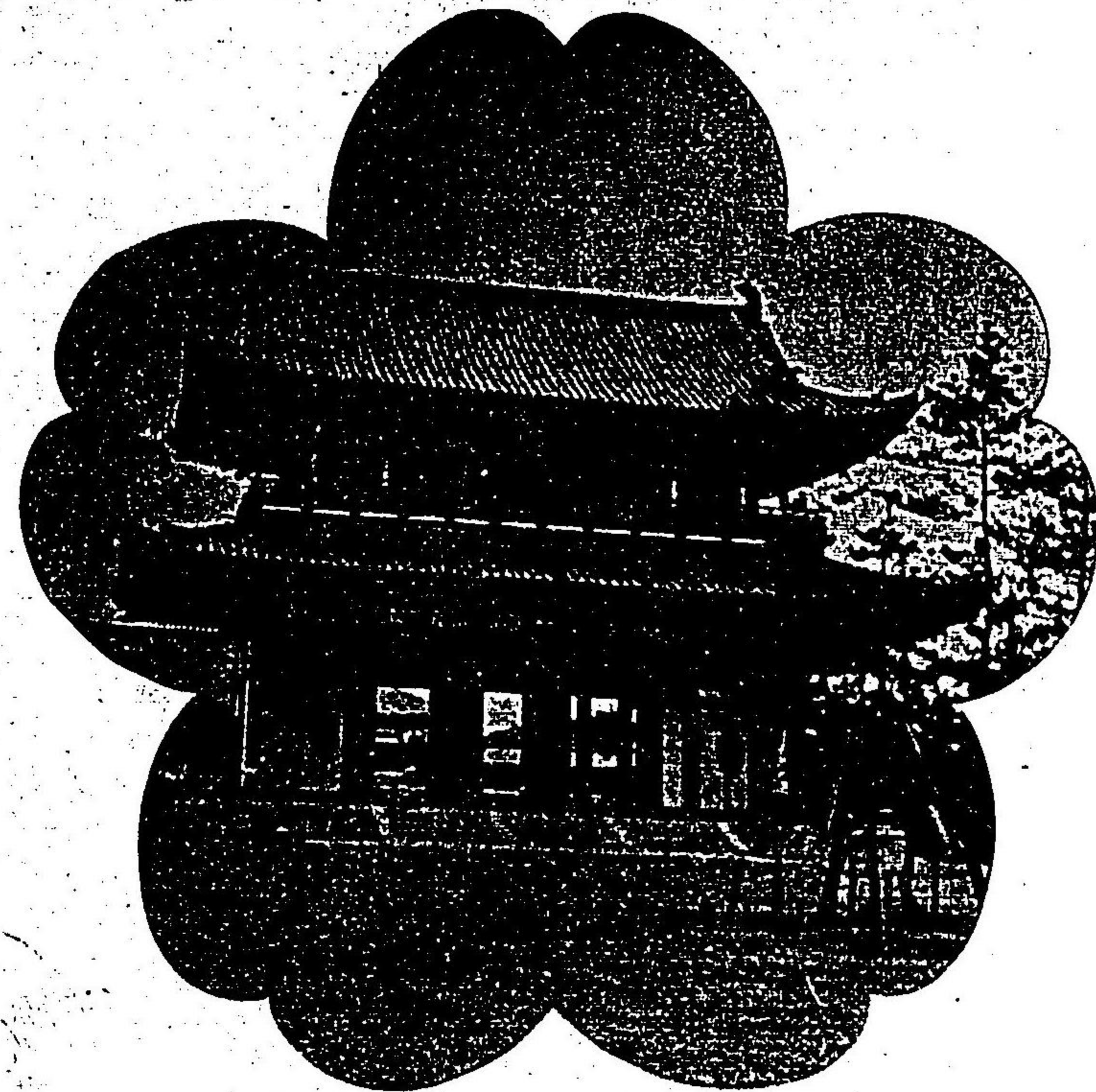


吉田神社
YOSHIDA JINSHA

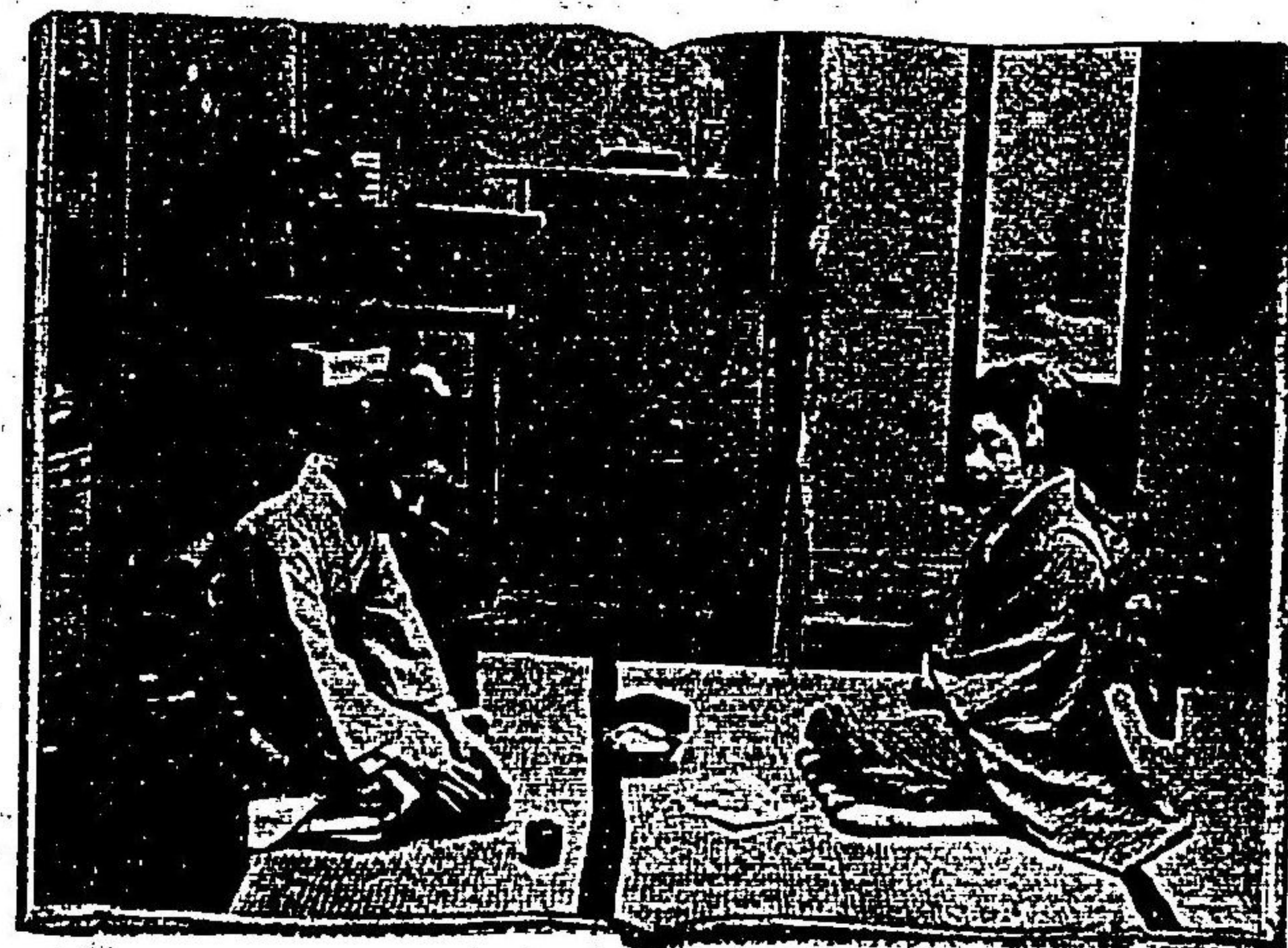


Y A S E 人

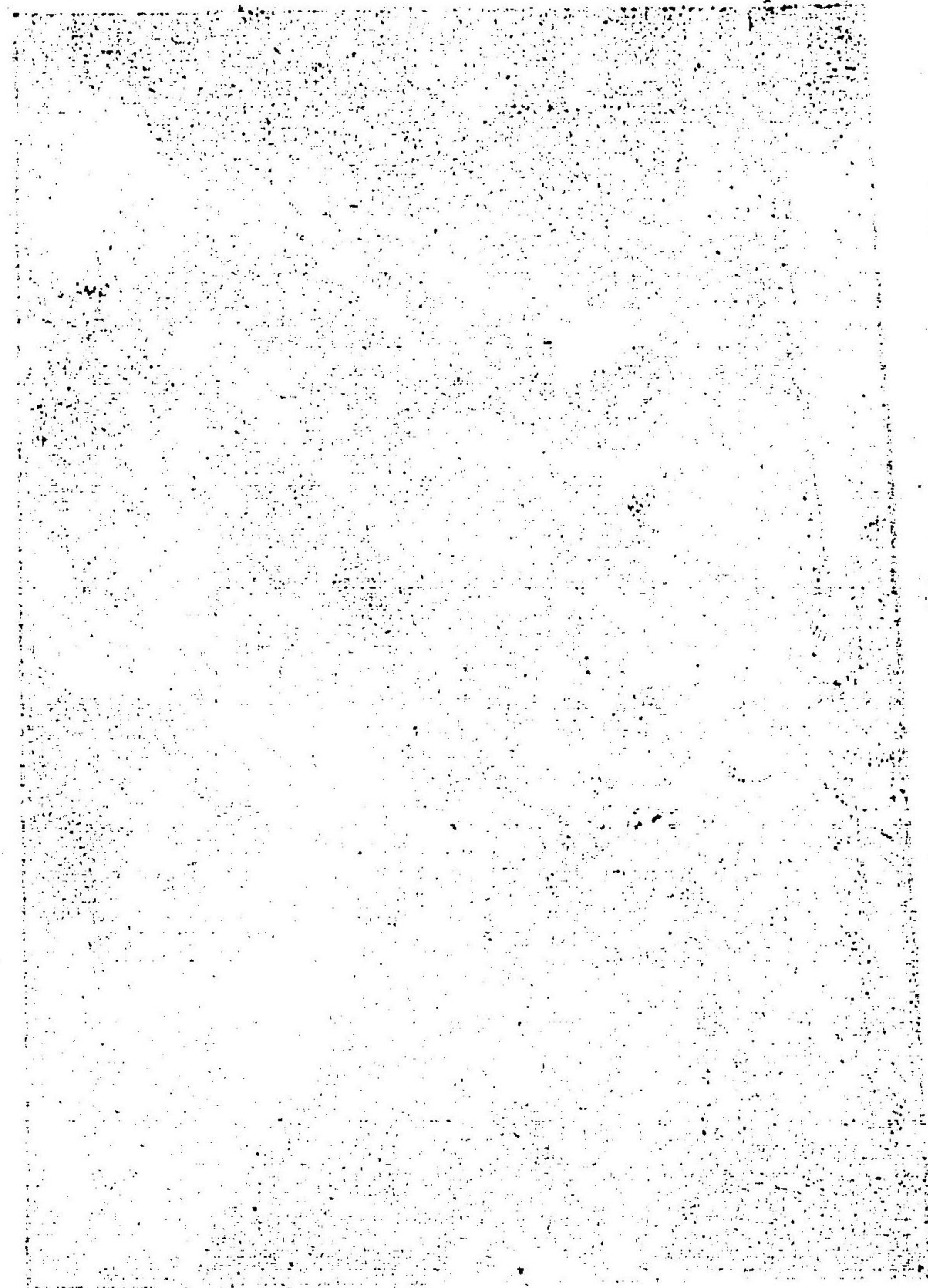




宮 神 安 平
HEIAN-JINGU



湯 の 茶



●本誌繪畫の挿畫に就て一言す

大極殿	池田桂仙君	保津川	前田玉英女史
祇園會	奥田天門君	舞妓姿	幸野西湖君
陸奥名産櫻濱	奥谷秋石君	納涼	三宅吳曉君
雪の清水	大江真起君	橋街所見	河村缸外君
鴨ノ競馬	南廣學君	如意ヶ嶽	河村曼舟君
壬生狂言	廣瀬舜田君	稻荷山	吉谷清墨君
三條大橋	森雄山君	梅尾眞景	森春岳君
笠	山田耕雲君		

右の原圖を當協會繪畫部主任今村楓陵擔任して縮寫又は引寫したれども紙幅に制限せられ又印刷に至急を要せしより或は其眞圖を誤りたるものなきにしも非ず是は當協會の責任にして筆者に關せざることを諒せられよ

其他諸大家の揮毫せられたるもの多く其内を寫眞版と爲さん計畫なりしも發刊期日切迫と雨天續きの爲り製版完全ならざるより地の巻に之れを掲載することとせり

本誌原圖は七拾種以上の多きに達し何れも傑作に成れるものゝみなれば不日原圖其儘なる色彩を施し日本紙に印刷して特志者に頒たんとす

◎圓山附近……………五六

△東大谷△雙林寺△長樂寺△將軍塚△圓山公園

◎粟田附近……………五八

△知恩院△法尾谷△青蓮院△植髮堂△粟田庚申堂△光秀の首塚△白川橋△粟田神社△都ホテル

◎岡崎附近……………六三

△平安神宮△時代祭△武徳殿△美術館△博覽會△市立商品陳列所△府立圖書館△相輪塚△動物園△黒谷△眞如堂

◎南願寺附近……………六七

△インクライン△南願寺△永觀堂△若王子

◎吉田附近……………七三

△吉田神社△卜部家齋場△宗忠神社

◎鹿ヶ谷附近……………七四

△靈隱寺△安樂寺△法然院△如法ヶ嶽△談合谷△銀閣寺

◎田中村附近……………七七

△百萬遍△千榮寺

◎下鴨附近……………七八

△下鴨神社△鐘淵紡績會社工場△都築合名會社△奇

◎寺町頭附近……………七九

△阿彌陀寺△本滿寺△本願寺△清淨華院△盧山寺

△梨木神社△府立療病院

◎荒神橋附近……………八一

△京都植物株式會社△木綿晒場

◎吉田町附近……………八二

△醫科大學△第一中學校△帝國大學△第三高等學校△高等工藝學校△美術工藝學校

◎聖護院附近……………八二

△聖護院△大學病院△熊野神社△準提觀世音

◎東丸太町……………八四

△絹絲紡績會社△天理教會河原町分教會

◎川崎水ヶ下附近……………八五

△川崎警察署△京都稅務監督局△北垣男爵銅像

◎仁王門通……………八六

△頂妙寺△寂光寺

◎古川町附近……………八七

△帝國製糸會社△滿尾稻荷△要法寺

◎三條大橋附近……………八八

△三條大橋△澄王法林寺△繩手貸座敷

◎祇園町附近……………八九

△祇園町△都踊△目病地蔵尊

◎四條大橋……………九三

◎宮川町……………九四

◎五條大橋……………九四

◎先斗町附近……………九七

△下木屋町△西石垣△先斗町△瑞泉寺△上木屋町

◎寺町通附近……………一〇〇

△三本木△下御靈神社△行願寺△京都裁判所△妙滿寺△京都市議事堂△本能寺△矢田地蔵尊

◎新京極附近……………一〇六

△新京極△誓願寺△誠心院△蛤藥師△安樂寺△錦天神△金蓮寺△染殿地蔵

◎三條通……………一一七

△六角堂△空也寺△二條城△神良苑

◎四條以西……………一二七

△京都綿糸會社△王生寺

◎島原……………一二九

◎東寺附近……………一三〇

△東寺△羅城門城趾△六孫王神社△稻荷御旅所△不動堂

◎本派本願寺附近……………一三三

△總會所△眞宗信徒生命保險會社△本派本願寺△興正寺

◎本國寺附近……………一三五

△本國寺△加藤清正妾の墓△醜ヶ井

◎松原通附近……………一三七

△天使神社△菅大臣神社△玉津島神社△因幡藥師△佛光寺△下村大丸

◎寺町附近……………一四三

△御形堂△淨國寺△聖光寺△神宮教會支所△大雲院

◎錦附近……………一四三

△錦ノ店△取引所△四條御旅町

◎京の四季……………一六〇

◎諸官衙……………一六一

◎京の紅葉……………一六三

◎名所職……………一六六

△市部府會議員△市會議員△商業會議所議員

- ◎京の藝妓……………一六八
- ◎塞の河原の辨……………一六九
- ◎各組合事務所……………一七〇
- ◎京都の雪……………池邊義象……………一七三
- ◎官私公市立學校……………一七八
- ◎三位入道の舊趾……………星 銀……………一八五
- ◎京都史談……………子爵秋元興朝……………一八七



葉志嘉記

春は花いざ見にごんせ東山、そろ／＼とお上りさんの影、東山附近に
 現はれんとする時、二十世紀の京都は産聲高く洛陽の空に舞ひ上つた
 世は早や櫻の噂に上りて色香争ふ丸山の夜櫻や、さては祇園花街に物
 言ふ花の都踊り、チャンチキチンの祇園囃しは世にも響きて都の繁昌
 を、打をさむる鼓の音や先斗町、鴨川踊りに近く春の名残をといめて
 夏ざり来れば、高瀬川柳堤をエンヤラホーと曳き上る高瀬舟の掛聲、
 さては金魚賣りの聲まで身にだるき睡りをさそふ真晝中、東山の緑り
 を分け入る若王子畔の瀧は夏を他所なる幽他仙境、夕涼みは四條河原
 北山風の涼風に羅衣の袂をなぶらせての散策もヨイ／＼ヨイサ、三伏
 の暑さも知らぬ怡樂の郷も應て氷茶店の掛床几に秋風立ちそむれば、
 世は早や松茸の香にぞ移りて茸狩りの催ふしも時の興、さつと村
 時雨のひと撫でに染め出たす東山、峯の梢は唐錦、實に柳櫻の春の眺

めにも、いやまさる山姫が装ひは都をかざる秋の錦とや見た、色ながら愛ても吹くからの木枯しに散りての後は蕭條たる冬の眺め、昨日の時雨は雪と結んで大路行く下駄の音も霜にさゆる師走空、ア、寒やと思ひを積る一と歳の圓山あたり雪見酒、明けて嬉しき御代の春、げに二十世紀の京都は御代太平と謳はれて世界の人を寄り集ふとな舞。

岳南道人記す

二十世紀の京都の始めに

山島の尾の長々と王城の地に大平を極めたる其昔を問はず、車馬織るが如き、今の京都を見るに、日本の公園地として、また世界の遊覽地として、又た古帝都の遺形として、文物制度の大に見るべきものがある、去りながら二十世紀の京都と、平安城時代の京都とは其進歩の度繁昌の点に自から異なれるは、恰も年々撮影せる我寫真に向ふ如きものであらうと思ふ。

而してこの平安の昔より、京都として今日に至るまで、其繁昌を記し其繁昌の光景を依つて然る所以を知るべくつとめ、殊に其時其地に身を置くもの、爲めに参考せるもの、殆んど汗牛充棟も管ならざるが、其繁に過ぎて襪を帯に代ゆる如きもの、若くは簡に失して帯を襪に用ふる如きものであつて、一讀其地にある如く、一見其光景を知るを得べきものは、實に金の草鞋の掘り出し物と謂はざるを得ないのである



栴尾真系

春風集



予は窮乏の中に人と成り、學淺く智狭く、二十世紀の京都に居住するを耻つるもので、二十世紀の京都を謳歌するには、あまりに不適當である、然るに自から揣からず、本書の發行を思立ち、茲に天の卷を世に問ふに至りたるは、實に世の同情者の後援によるもので、甚た喜びに堪へぬところである。

明治四十一年三月

京都出版協會

山中岳南

京都

「山紫水明」は古京都を代表する、京都に對する好熟字たるを笑ひ給ふなれ、電線は蜘蛛の糸より繁き市街に、電車走せ、車奔り黄塵に響きあへりと雖も、東山一帯は蜿蜒として翠屏の如く列立し、鴨川は榮紆として素練の如く、山紫水明、地氣清海にして、至る處花明に柳暗く相掩映して風景の絶佳なるいふばかりなし。

今此繁華なる世界屈指の樂園と稱せらるる京都に帝都を奠め玉ひしは、今を去る壹千百餘年の昔、桓武天皇藤原の小黑鷹、紀の古佐美

京都沿革

僧賢環等に勅して地を相せしめ給ひ、延暦十三年十月廿二日舊都長岡より遷御あり同十二月、詔して此國は山河襟帶自然に城を作すとて山背を山城と改め新都を平安城と名つけ玉ひしに始まつたのである。

されば當時の京城は其規模極めて廣大なもので、東西が千五百七十丈、南北四百六十丈あり其内に皇居百官諸司があり、四面十二門を設けて南を朱雀門と云ひ、南極の郭門を羅城門と云ふ、左右兩京に分ちて其中央を朱雀大路と稱へ尙ほ北より南に九條の大道を置き、宏壯整齊經國の治略協ひ茲に萬世不動の帝都となりて宮殿の雄麗、市坊の整正、そゝろに

宏謀を仰ぎ奉るに餘りありた。
 然れども星移り物變り榮枯凋落の免れがたきは世の常數にして、恐れ多きことながら萬代不易の帝都も時に盛衰なき能はず、天徳四年村上帝の皇居炎上を始とし、王室漸く衰へさせ給ひ藤原氏の榮華も夢の如く散りて、保元平治の亂となり、京洛屢々兵火の災に罹りて市民堵に安するの暇なく、皇都の結構も次第に變りて竟に又見るべきものなきに至りぬ、其後源平の大激戦を経、源頼朝平氏を倒して朝を鎌倉に開くに及び、兵政の權凡て武家に歸し、京師の繁榮は皇威と共にいよいよ衰へ行きしが、元弘三年北條高時

誅に伏し建武年中後醍醐帝の後代となりて中興の業就り省司諸制舊式に復せしも、亦挫折して天皇南遷し玉ひ、足利尊氏時の勢に乘して、別に帝を京師に擁立し、是れより南北兩朝となり、尊氏漫りに幕府を室町に置きて政權を擅まゝにせしが、三代義満に至りて南北朝合体せしも天下尙ほ騷亂の中をも顧みず洛西に金閣を建て、其子義政も亦風流を樂しみて東山に銀閣を建て、専ら閑逸に耽けるなご、足利十數世の擅横益々加りたれば世々治平稀にして兵亂常に絶えず、殊に應仁の大亂には大軍壅下に押入り、市坊悉く焦土と化し、都民慘憺右往左往と逃げ散りければ、皇

居の御垣は破れ傾き、公卿の邸宅は憐れ狐狸の棲家となりて、只一面の荒野原を化し去らんとせしを、永祿十一年織田信長正親町天皇の密勅を奉じ、五畿諸道を略定して麓穀の下を清め、皇都のすがたを挽回せんとせし折柄、逆臣明智光秀の爲めに殺せられしも、豊臣秀吉其志を繼ぎて天下を平定し、京師と鄉村との區劃を明かにする爲め、其界に大土手を築きて、洛中洛外と稱せしめ皇居を造營して皇室に供御料を献じ奉るのみならず、親王門跡及諸公卿へも夫れく領地を附じければ、上下相和し都民も漸く安堵して殷富を致すと共に豪奢に傾き、秀吉は聚樂に桃山に城

第を構へ、驕奢を極むるに至り、茲に所謂桃山時代なる豪壯華麗の一時期を劃するに及んだが、世は變て徳川氏に移りて二條城を築き所司代を置き民業を奨励したるより、益々繁華昌盛の地となりたり、然れども長き年月の此間に多少の天災地異なきにわらず、天明八年正月晦日の大火の如き、東は鴨川より西は千本通に及び皇居も爲めに炎上した、又近くは元治元年七月長兵の京師亂入の如き初め長州の藩士福原元儁が藩主毛利父子の勤王の情を陳べ、七卿の復職を請ひたるに容れられず、剩さへ長州脱藩の士を討たれんとせしが動機となりて、長人憤慨君側の讒者を殲さん

とて、大舉輩下を援がし宮中の雜隊一方ならず、市街も亦大半兵燹に罹つた世に「ドンドソ焼」と言傳へしは此時である、然るに慶應三年 今上皇位に登らせ玉ひ將軍慶喜政權を奉還するに及び久しく武門の手に落ちたりし大権は皇室にかへり、目出度王政復古の御代となりて上下愁眉を開きしも、明治元年所謂御維新の第一着として車駕東都に遷り江戸を改めて東京と號し玉ひしより、京都は一時火の消へたるが如く衰頹に傾きしが幸に御所は依然として儼存せられ、殊に皇室典範を以て即位大嘗會の大典は萬世之を當地にて行はせらるゝことに御治定ありしより、漸次舊都

の面目を挽回せしのみならず、世は自然泰西の文明を吸入して鐵道の貫通、疏水の大工事、電氣鐵道の敷設等によりて交通の便益々開け随つて商工業とも活潑隆盛を來したのである要するに目今の京都は延曆建都の優美壯麗に及ばぬか知らざれども所謂京洛なる區域が皇居の東漸と共に東へ東へと移りたるは疑なき事實にて、奠都當時の皇城、今の監獄署所在地より其西北方へ掛け頗る壯大の區域にて現に大極殿の遺跡として千本通の西、丸太町上る所に碑石を建てられたるあり、今や京都の西端なる千本通こそ往昔京城の中央なりし朱雀大路にて、現に名高き羅城門の遺跡は

同通の九條上る邊にあり、其當時同門の東に當り建てられたる教王護國寺を東寺と稱へ、之に對する西寺なる遺跡は今や村落となりし葛野郡唐橋村に存するを見るも京都の繁榮が其昔左京と稱へし即ち朱雀大路以東へ勃興して、遂に廣漠たりし加茂磧をも埋め狹はめ、寂寥たりし東山の麓までも打開きて人工の美と天然の勝と相俟つて内外人に羨望せらる今日を形成したのが分るが、今や伏見町をも京都市に合併せんとの説もあれば近き將來に於ける市の膨脹發達は思ひ遣らるゝのである。

○山城國は畿内の東北隅に位し西經三度四十分より同四度九分に至り北緯三十四度四十分より同三十五度十四

分に至る東南は近江伊賀大和河内に界し西北は攝津丹波に接す東西十里南北十六里面積五十二方里にして京都市愛宕郡葛野郡乙訓郡紀伊郡宇治郡久世郡綴喜郡相樂郡の一市八郡あり地勢は山岳起伏重疊して四面を圍繞し中央は平地廣闊にして水流貫通し諸川合して淀川となり攝津に入る實に山河襟帶自然に城をなすものと云ふべし

氣候は春秋温和、夏天燒くが如き暑さも、日入つては枯木も蘇生するかと思ふばかり、冬日雪寒さ夜も、晴れては曉の長閑なる日陰を見るを得るのである、北山れるし村時雨の思ひ切つてはげしき、春雨の無作法なる、雪消の路の下駄の疲れさせる如きは、京の氣風を紀念したもので、京の春は又格別の趣味がある、京都の名物は里謠にも云ふ京の着倒れ、

大阪の喰ひ倒れと、著倒れの京都だけありて織物、染物、刺繍、紵縵、漆器、七寶、陶磁器類、金風、團扇、扇子等の美術品は重なる物産である今項を別ち其紀因を紹介せん。

織物 西陣織物の隆盛に赴いたのは、徳川幕府の頭朝廷公卿は勿論幕府諸侯各社寺に至るまで、其服装調度織物を用ゆるものは必ずこれを京都に求めしより、斯業は實に隆盛の頂点に達したのである。

而して西陣起業以來の名工を擧ぐれば、天正の初めより慶長の終りまでに、襟印元は大和錦を織り出し、俵屋某は蜀江錦に倣ひ唐織錦を發明し、野本某は金襴を織製し、井筒屋

徳平は花章紋織に意匠を巧み、其他和蘭の法に倣ひモールを織製し、支那織に倣ひ綸子、紋綸子を織る者あり、更に柳條木綿を創製し天鷲絨、琥珀、和那天鷲絨も此期に製出せられたのである天和に至りて紋縮緬、柳條縮緬、紋紗綾、唐織加女綾、八反織、柳條綾等を製し、錦の如きは精巧にして産額多く爲めに支那錦の輸入を防遏するに至つた。天保の末年徳川氏節儉の令を布きて、庶人の絹帛を着用することを禁せられしより、綿緞子、綿博多の類を創製した、然るに明治維新となり車駕東遷せられ紳縉貴顯皆居を東京に移られしため、織物の需用頗る減し、一時西陣方面は殆

んど火の熄へたる如くなりしが、當時の植村知事大に憂ひて資金を貸與し斯業を勵まし、明治七年には川原町二條に織殿を設けて佛國より歸朝したる佐倉井の兩人に佛國織業を教授せしめしより、外國機械の利用と新工夫を始め茲に再び進歩の機運に向ひ毛綾織、兩面緞子、兩面長糸織、綿天鷲絨を製出し輸入綿糸を利用して綿錦、綿緞子、綿博多、綿通縮緬等の如き絹綿交織を製出したるに價格低廉にして外觀頗る美なるより、非常に顧客の嗜好に適し、明治十八九年頃より洋式機械を大に利用して、新に疋田鹿の子及び鳳來織等を創製し、又た南京緞子、綿チルを製織して

輸出する様になつた、近時リボンの製織も盛んになり、尙清韓印度輸出向製織に熱中して其技術は日に月に進歩發達して輸出は盛んとなり、我京都重要産物中第一位を占め將來ますます好望を呈するは賀すべき事ともである

染物 京都の染物は皆分業法によりて其業を營んでゐる、紅染屋は赤色を専業として他の色を染めない、藍染屋は藍の外の染料を使用しないと云ふ風に紫染、引染、茶染、中形紺染、紺染、友仙染、下繪彩色模様染、上繪糊置、練物、糸総諸色染、糸総生藍紺染、糸練、晒、張物と十八部程に分れてゐる、局外から之を視ると實に煩多にして其辨別に苦む

が、營業者は各自能く専業を守りて決して他業の範圍を犯すことは無い、染業者の十中の八九は、呉服悉皆商と機業家の注文に應じて染色しているもので、自から製造販賣して居る者は實に僅少である、而して呉服悉皆商は染物需要者と染業者の間を周旋媒介する者であつて、悉皆商はそれ／＼特色の所へ持行きて之を仕上げるものである、當地の呉服商は多く此業を兼ねるを常とし爲に染呉服商と云ふ、悉皆商は多く他地方に出で、注文を開いている、今染物の内で友仙染は京都獨特の技術であれば紹介せんに、今より百五十年程前寶曆年間に友仙風呂敷手拭類の染紺屋ありし

由なれど、唯た花鳥山水等の模様を染地に白く現はしたる如き粗造の物であつたが、元禄年間には畫工深江友仙が現れて初めて艶麗なる色彩を施して、今日友仙の祖と言はれている友禪或は宮崎氏とも云ふ元加賀の人であつて後京都祇園町に住んでいた、夙に光琳の畫を學んで自ら一家を成す、世に流布せる祇園梶の葉、永歌わらひ元祿等の繪は其畫く所である、高平春卜の著はせる粉本縮圖の中に友禪の畫をも載せて、友禪は布上に濃淡を施し水に流し洗ふも繪具の落ちることなしと、兔に角其麗彩の艶麗は大に世の嗜好を動かし文政十二年の頃には同業者追々増加し、文久

二年に至り三十七八名に上つた、明治六年頃に至りて西村總左衛門は之れが改良を企て、畫樣も舊來の板套拙劣を打破して新に畫家の岸竹堂、今尾景年其他の諸大家に囑して鮮麗優秀のものを作らしめた、茲に友禪の一新時機を盡し大に其聲價を高め、次で北村甚助、藤井得三郎等に研究せしめて、天鷲絨友仙を發明し其精妙なる着色法に依り世人を驚嘆せしめた、明治十三年の頃堀川新三郎は色糊を以てモスリンに友仙染を施し、廣瀬治助は之を縮緬に應用し、廣岡伊兵衛も亦歐化して斯業に力を盡し、次いで無線友仙、寫真友禪を發明して斯業の大進歩を來たし、其應用も

衣服の料に止らず屏風、衝立、掛物、額面の繪畫、窓掛、壁掛、幔幕、旗幟の華文より帶帛紗、衣服の附屬品に至るまで悉く此法を用ひ光彩陸離人の心目を悦ばし近來は續々海外に輸出して大に名聲を博するに至つた現今同商の重なるは西村總左衛門、廣岡伊兵衛、飯田新七、西村治兵衛等の人々である。縮緬 本邦にて需用を初めしは最古きことにて其用途は鏡、直垂、官服等なりしが鎌倉時代に至り盛んに女官の服にも用ひしが元祿頃より製造精巧を加へ京鹿の子なる名聲世に高くなりし去れど近世は衣服に用るもの大に減少し重なるに婦人頭飾、襟地等の需用に過ぎざ

陶器起原

れども京都特産として頗る昌盛なり現今重もなるは河本庄兵衛、加納作之助、岡松茂三郎、村田喜太郎、宅間長兵衛、安田平四郎、荒川益次郎等の人々でリボン商も兼ねて居る。漆器は我邦特有の工技にて或は大に京の着倒れを助長せしめたかも知れぬ、開は物見遊山には必ず時繪の重箱がお伴する事に成つて居る閑話は借置き。今其起因を尋ぬるに京都淡工の隆盛なりしは、藤原氏の榮華を極めし醍醐天皇の御代の頃より室町御所の建設せられし、當時に京根來なる根來塗の模倣品を出して大に名聲を博し、桃山時代には天正時繪と云ふ高雅幽逸あるものを製出し文祿の頃、

本阿彌光悦が新に機軸を出し鉛、錫、青貝の類を時繪に嵌し、遂に天下時繪の風を一變し尾形光琳は光悦に學び別に一派を成し世に稱揚せらるゝに至つた。

明治維新となり一時衰運に赴きしも、海外輸出の途拓けてより、大に需用を増し殊に博覽會、共進會にて斯業の進歩を促し、茲に再興の氣運旺盛なるに至り前途亦好望なりと云ふべし、現今斯道の重なるは漆工に大橋庄兵衛、木村表齋、時繪師に山本利兵衛、富田幸七、本間庄七、木地師に村岡宗七、漆器商に西村彦兵衛、三上治三郎、稻垣和三郎等あり七寶を我京都にて製造せしは、明治五年名

古屋の人桃井義三郎なるもの河原町三條上る舊加賀屋敷にて七寶會社を創立せしが初にて夫れより桐村茂三郎なる人、賀陽宮の舊臣並川靖之と謀りて新たに七寶の製造に従事し、凡そ一ケ年にて分離し、並川靖之獨り苦心經營幾多の挫折に撓まず遂に素志を貫き、明治七年に至り紀伊馬新助、佐野豊三郎等企业し次で高谷謙次郎、錦光山宗兵衛等陸續興起して斯業に従ひ京都七寶は茲に名聲を揚げ海外輸出も隆盛に赴き駁々乎として將來益々光輝を發するに至つた、其重なる人々は稻葉七穂、並川靖之、佐野豊三郎、高原駒次郎、高谷兄弟商會等である。

七寶、陶器起原

陶磁器 本邦陶埴の業は遠く神代より開けしが、我京都には雄略天皇の時に山脊國の内村(今の)俯見村(伏見)の陶工に御器を造らしめ玉ひしことあり、其後 聖武天皇の御時、僧の行基勅を奉して洛東清閑寺村(今の茶)に窯を築き土器を製せしことあり、桓武天皇都を此地に遷し平安神宮御造營の擧あるや、洛北鷹ヶ峰に窯を築き碧瓦を製したりと云ひ後鳥羽天皇の元暦年間には洛南深草村に窯を築き土器を造りしものありと云ひ、又文永年間佛師右近なる者が黄釉を發明したけれども未だ堅實なる物を造るに至らざりしが、永正年間朝鮮人アメヤと云へるが歸化して名を宗

慶と改め一種の陶器を創製し、歿後其妻尼となりて其職を繼ぎたれば世に之を尼焼と稱へ其男長祐父宗慶の遺法により製造中、天正五年織田信長の命を受け千の利休の意匠に基きて茶器を製したるに、同十六年又豊太閤の命にて之を造り大に旨に適ふや、公は之を賞して樂字の金印を賜ひしより其後之を印して樂焼と稱す、又光悅樂焼なるものありて慶長の末年頃より五條阪に窯を移せりと云ふ事である。

寛永年間に至り三文字屋庄右衛門、助右衛門など粟田焼を始め其頃仁清なる名工出て明暦年間、三條河原町の茶碗屋久兵衛なるもの

ありて肥前の人青山幸右衛門なる者より肥前焼の秘術錦手の製法を得、仁清等に謀りて色繪焼を始め是れ京都に於ける彩釉法の嚆矢である。

尾形乾山は光琳の弟なるが兄弟共に妙技を以て著わる、寛政年間に至り奥田頼川出て粟田に窯を築き、其製品尤も妙味あり赤繪吳洲を模するに長せり、木米、道入、龜助、嘉助等の名工は皆其門より出たのである。

木米は文政年間粟田に窯を開き陶業を爲せしが、後に清水に移り釉法火度を發明して一機軸を出し、高麗、三島手、支那青磁、赤繪、金蘭手、交趾燒等を模するに骨董家と雖も辨

する能はざりし程なり、舊來釉法はありたれども完全ならざりしが、木米出るに及んで一大進歩を爲し陶業上に偉功を奏したが、文政五年青蓮院宮の命を奉して御用品を製し又紀州侯の爲めに用品を燒きて大に賞せられた、晩年に陶説を翻刻するや山陽先生之れが序を作ると、實に陶工中の逸士である。

高橋道八は松風亭空中と號し人物及び獸類の置物、香合等を製するに尤も妙を得た人で、其製品には間々畫伯大雅堂の描きたるものありとの事である、二代目道八は剃髮して仁阿彌と號し最も手捏に巧にして其物象眞に迫りしとの事である。

龜助は始め伏見街道に住し土偶を作るを以て名あり、今日猶ほ伏見人形の古型は龜助の製に倣ふもの多いとの事であるが、晩年瀬川に就て陶法を學び交趾樂燒、青磁等巧みとなり攝州三田に至りて窯を開き今日の三田青磁と稱する名産を遺したのである。

文化年間に善五郎了全なるものあり、其祖先は泉州堺の人にて土風炉を造る餘暇に磁器を作り、和漢の古器を模倣するに巧みにて、殊に支那永樂年間に製せられし磁器金襴手と稱するものに基き赤色釉を施し其上に金粉を以て古代の彩文を描き、又交趾燒、祥瑞燒等を模するに妙を得たれば、紀州侯之を愛して永

樂の印を賜ひしが是れ今日の永樂燒の祖である、其當時和氣平吉なるもの龜亭と稱し陶磁の改良に熱中し、五條阪にて青花磁を作るに妙を極め、後肥前有田の秘法を得て之に倣ひしとの事である。

その他五條阪に尾形周平、水越與三兵衛、清水六兵衛、眞清水藏六、清風與平等あり、粟田に錦光山宗兵衛、帶山與兵衛等あり皆一世の名工家にて其製品高雅雋逸各々得色あり、其海外に販路を開きたるは實に粟田の錦光山宗兵衛、帶山與兵衛を以て嚆矢とするので其初錦光山等は海外貿易に着目し明治五年相謀つて先づ素地を焙き錦雲軒之が彩畫をなし

神戸に持行き外國商館へ試賣せしに其後歐人某錦光山を尋來り眞接注文を爲せしより、花瓶、水差し、香炉等粟田陶器の販路大に擴まり、今日に至りては實に巨額の輸出を見るに至つた。

明治二十六年九月五條阪の清風與平帝室技藝員を命せられ、同二十八年三月縁綬褒章を下賜せらる、清風の祖は梅實と號し加賀より出で、三代與平は他家より入りて其後を承け出藍の技を以て顯はる、其製作高致絶倫にして遂に今日無上の榮譽を得たのである。更に現時斯業者の重なるものを屈指すれば清風與平、錦光山宗兵衛、三浦竹泉、眞清水

藏六、清水六兵衛、伊東陶山、高橋道入、樂吉左衛門、丹山、平岡、道仙等であらふ。

金鳳は桓武天皇都を平安城に奠め玉ひし時造兵衛、鍛冶司等ありて、冶金の事も掌り、其工人は概ね其職を世にす、延喜以降上下の風俗華美となり、器物調度輿車等に至るまで其裝飾に彫刻を施し、金銀の金具を用ひしのみか、又金鳳を以て佛像を製するに至り、一方には武人の勢力漸く盛んとなり、甲冑、刀劍、其他の武器益々精巧となり、足利義政の頃後藤祐乘出づるに及び、金鳳彫鏤の術大いに開け代々名手多く正文祿の頃には埋忠明壽あり、慶長には銚師に嘉長、鑄造に名越

彌七郎兄弟、中川淨益あり、寛永時代には大西淨林、寛文年間には金谷五郎三郎あり、明和年間には四方安平龍文堂と號して鐵瓶を製出し、天保年間には秦藏六出で鑄造の妙を極む、此藏六こそ曾て先帝の御璽を鑄造し奉り維新後東京に召されて尙又、今上天皇の御璽并國璽を鑄造し奉るの榮を得たものである、今は其子藏六家業を傳へて居る、維新前後に及び紹美榮祐は金谷五郎三郎に養われ、別に一家を爲す最も賦形着色に長し世に稱せられしが、今は其子家を襲ふて益々技術を發揮して居る、平野吉兵衛は英清堂と號し、支那古銅器を模するに巧妙にして製品頗る雅

致に當じ、現時斯業の重なるは秦蔵六、中川淨益、平野吉兵衛、紹美榮祐、金谷五郎三郎、兩宮宗七、山本直次郎等て有る。扇子、古來宮廷、社侍等の儀式用にせられしが京扇の名を博するに至りしは建久年間御影堂に隠れし平教盛の室蓮花院尼公が阿古女扇を製して鬻きしより御影堂扇の名高くなりしものなるが今は林阿彌、久保田等を刺す而已である。近時六角の宮脇廣扇庵、寺町の白扇堂等専ら其技を研き意匠畫樣など益々精巧を極め居る。外國向、所謂貿易扇子は又一種特別のもので京都扇子商會、渡邊源兵衛、片岡彌三郎、阪田文助等盛んに外人の嗜好に

適せんことを務め輸出益々好況の様である。之を要するに京都に於ける工藝は實に千有餘年人筆紙の下に保護を受け、發達したもので淵源の遠き醇化の久しき、東京若くは他の諸府縣の比にあらす、殊に山紫水明地氣清淑にして、至る處花は紅に柳は綠なりで崇殿高塔は參差として其間に掩映し、名所古跡亦極めて多く眼に映する處、杖の觸る、所、悉く工藝の資料たるに、共に風俗は優美にして人は巧思に富み、且つ幽靜耐久の性を稟けて、毫も輕燥浮華の習なきに於てをやて、我京都工藝の優にして美に、精にして巧に海内に超絶して、世界各國に噴々嘆賞せらるゝのも實

に偶然であるまいと思ふ、去れど今や世界の文明は駁々として日に進みつゝあるのみか、我海内諸府縣とも競ふて工藝に美術に力を竭し居れば、我京都も決して今日の特長を以て安んずべきの時であるまいと思ふ、必ずや研精熟中美をしてますます美に、精をしてますます精に、異彩新葩以て海の内外に對して東洋の京都なる聲價を發揚せんことを我輩は熱望して止まぬのである。

○三十三屋櫛 ○油元結 ○京菓子 ○伏見人形 ○手遊人形 ○毛植細工物 ○佛具 ○半襟鹿の子 ○リボン ○京人形 ○下駄 ○京疋袋 ○白粉 ○五倍子粉 ○籠箔 ○茶釜 ○錫細工物 ○樂器類 ○花簪 ○蔬菜 ○鮎 ○松茸 ○笥 ○袋物類 ○香具 ○蒲鉾 ○飴と云ふ位な者である。詳細は末尾の營業家明覽に賣捌店が出てゐるから、附録の地圖と對照して見て貰ひたいのである。次に四季遊覽の名所を左に並べて見ん、名所遊びも京の名物であるから。

- 宇治製茶 ○鴨川鷺しらす ○蕪干枚漬 ○祇園香煎 ○お多福豆 ○色紙短冊 ○本紅 ○みすや針

- 梅 御苑内 梅の宮 北野神社 清水梅林 青谷 東山公園 六波羅梅林 伏見梅溪
- 桃 青谷 齋淀城 御苑内 團山公園 伏見梅溪

遊覽名所

彼岸櫻 四山 平野 華頂山
 櫻 清水 御苑内 平野 嵐山 大桑 御室 大原
 牡丹 四山 宇治朝顔園
 山吹 井手玉川 梅の宮 玉水 宇治興聖寺
 藤 鴨川堤
 藤 四山 平野 清水寺 保津川 宇治平等院 安井神社
 躑躅 長岡 四山 梅の宮 嵐山
 郭公 清閑寺 小倉山 四加茂 白川
 燕子花 梅の宮 四山 東寺 三十三間堂 御苑内 白雲神社
 水雞 大原 寂光院 長岡天神 巨椋池 廣澤池
 芍薬 平野花の家

花高浦 梅の宮 島原 平野瀧の家 四加茂 四方寺
 河鹿 嵐山 宇治 高雄 貴船 八坂
 蓮 二條城 四大谷 神泉苑 御苑内 相國寺 東寺
 盤 疏水 宇治 嵐山 鴨川堤の邊
 納涼 四條河原 若王子 糺の森 清水寺 嵐山 宇治
 朝顔 宇治朝顔園
 萩 大極殿 高齋寺 大佛
 蟲 嵐山 大原
 菊 四山 三十三間堂 御苑内
 松茸狩 大日山 清閑寺 山科 稻荷山 泉涌寺山 北山 四山 松尾山
 紅葉 長樂寺 清水新高雄 通天 真如堂 永觀堂

若王子 大原 高尾 梅尾 楳尾 小倉山
 千鳥 鴨川
 雪 四山 黒谷 鴨川涯 嵐山
 序に京都の祭祀法會年中行事の重なるものを記述せん

元旦、八阪神社創掛の神事 初寅、鞍馬詣り 初己、無動寺辨天 一月十五日より十九日迄、男山八幡厄 除神事 初午、伏見稻荷神社 節分、大極殿、壬生、吉田神社、八阪神社其他十二社廻り 二月二十五日、北野祭種御供 彼岸六阿彌陀詣、嵐山、東山、花見上、巳節句 四月一日より二十八日迄、祇園 都 踊 四月八日、淨佛會 四月二十一日、御影供 四月二十一日より十日間、壬生狂言 四月十五日、知恩院御忌 四月十四日、松尾祭 四月中旬、嵐山虚空蔵十三詣り 四月二十一日、島原太夫道中 五月一

祭祀法會、年中行事

日より十日間、船屋狂言 五月一日より二十日迄、先斗町、鴨川踊 五月五日、端午節句 五月十五日、葵祭 同日、今宮祭 五月十六日、夷子祭 五月十八日、上下御靈祭 六月一日、貴船祭 六月五日、宇治縣祭 同日、森祭 六月十六日、日吉神社祭 六月十六日、平野神社祭 六月三十日、諸社夏越拔 七月一日、建勳神社祭、祇園鉦建、稚兒位貫 十三日、鉦曳初 十七日、祇園會山鉦、順行 七月二十四日、祇園會後神事 八月十五日、蓋岡盆會 十六日、東山、四山、送火、敷入 九月一日、神泉苑祭 九月十五日、男山八幡放生會 十月十五日、粟田祭 十月二十日、夷子講 十月二十二日、時代祭 二十二日、大桑牛祭 十一月十五日、十夜 十一月廿一日より廿八日迄、東本願寺報恩講 十二月十三日より、露の市、四條通、五條通、堀川、松原通

記し來ればツマヌヤうで、これが皆な京都の繁昌をこしらへて居るのであるから、覺へて置いて差支はあるまい、夫れから今でも小商人の爲めに朝市縁日といふものが、市内の社寺に甚だ多い御利益を興へて居る古着、古道具、さては植木、臺所物の素見に、運動券々御出掛けなさる便利をはかりて、

朝市之部

- 一日 祇園八坂神社
- 二日 新京極醫藥師
- 三日 松原島丸因幡藥師
- 四日 三條大橋東樞王
- 五日 七條大橋松明殿
- 六日 丸太町花山稻荷
- 七日 新京極醫藥師
- 八日 松原因幡藥師

- 九日 三條大橋東樞王
- 十日 安井金比羅
- 十一日 新京極金蓮寺
- 十二日 松原因幡藥師
- 十三日 三哲粟嶋、孫橋管天神
- 十四日 新京極金蓮寺、壬生寺
- 十五日 三條大橋樞王
- 十六日 建仁寺町蛭子神社
- 十七日 八坂神社
- 十八日 寺町草堂、六波羅密寺
- 十九日 七條松明殿
- 二十日 松原因幡藥師
- 廿一日 東寺
- 廿二日 三條大橋東樞王
- 廿三日 五條御影堂
- 廿四日 孫橋管天神、五條御影堂、丸太町宗像神社、本國寺
- 廿五日 北野天滿宮
- 廿六日 新京極醫藥師
- 廿七日 三哲粟嶋、三條松ノ木町蛭子神社、建仁寺町蛭子

夜店之部

- 神社、室町今出川福長神社
- 廿八日 烏丸因幡藥師
- 廿九日 三條樞王
- 三十日 新京極醫藥師、壬生寺
- 卅一日 五條御影堂
- 一日 祇園八坂神社
- 二日 五條阪辨財天、寺町頭上御鏡
- 三日 三哲粟嶋、松原秋屋町不動
- 四日 西洞院菅大臣
- 五日 古川町満足稻荷、佛具屋町五條大蓮寺、今出川大宮建勳神社御旅所
- 六日 室町今出川福長神社
- 七日 新京極醫藥師、粟田庚申堂
- 八日 釜座二條こゝか藥師、松原因幡藥師
- 九日 丸太町宗像神社
- 十日 丸太町花山稻荷
- 十一日 霞屋町元尊願寺晴明神社、新京極醫藥師
- 十二日 釜座こゝか藥師、因幡藥師

- 十三日 三哲粟嶋
 - 十四日 御池堺町御所八幡
 - 十五日 全、五條阪辨財天
 - 十六日 姉小路高松明神、御池神泉苑、熊野神社
 - 十七日 六角堂
 - 十八日 寺町上御鏡、六角
 - 十九日 佛具屋町大蓮寺、松明殿
 - 廿日 建勳神社御旅所、古川町三條満足稻荷
 - 廿二日 今出川河原町東妙音大堂
 - 廿三日 五條御影堂
 - 廿四日 五條御影堂、西洞院菅大臣、釜座こゝか藥師
 - 廿五日 錦大神、問ノ町文子天滿宮
 - 廿六日 霞屋町元尊願寺晴明神社
 - 廿七日 三哲粟嶋
 - 廿八日 松原秋屋町不動、河原町荒神口清シ荒神
- 猶は買物の便利の爲めに、同じ商品をば軒を並べて繋げる場所を摘記せう、但し本書附録の營業家明覽と地圖とを参照せば甚だ便利で

ある。

▲陣織物仲買に三條室町附近 ▲糸系商は大宮今出川附近 ▲陶磁器店は五條坂、清水坂、高麗寺、栗田 ▲土焼人形は伏見街道 ▲染種産は二條通 ▲古着店は五條烏丸以西、新町魚切より南、川原町四條より以北 ▲古道具店は夷川通、萬壽寺通、下寺町、五條油小路以西 ▲祝儀小袖類は五條東洞院以西 ▲瓦商は大佛南門 ▲燈籠長持類は高辻通 夷川通 ▲昔雜産は寺町三條以北 ▲半襦、商は新京極より四條通り ▲雜及玩具人形は四條通 ▲薪炭問屋は西木屋町、七條東洞院東 ▲醬油問屋は木屋町筋 ▲舶來雜貨店は四條通り

以上記する所は、その一斑を示したものであるが、今風俗其他を記して見ん。

京の水は昔から清きことを誇りとしていたが

追々衛生の八ヶ間敷なるのと、世の進歩するのと、少し早越が積くと西陣地方は飲料水に欠乏する所から、今迄東京、大阪と同じ様に上水道を敷くことになつて、市役所では水道調査の爲め外國へ派遣した技師も歸朝したので、琵琶湖を水源地として、いよ／＼本年度より水道工事に着手するとの事なれば、遠からず指頭で螺旋をひねれば、水の用を便することになるだらう。

風俗 は吾妻男に京女郎と云はるゝ丈に一般の氣風が何んもなく優美である、京の着倒れと云れるだけ美服を飾らんことを好まれて居る、女は羽織を着るのが次第に殖へて、丸鬘

がだん／＼少なくなつて来て、ハイカラ髪は海老茶式部が多く見受けられる、以前の下女は丈長の端を出して一見下女殿たる區劃がついて居たが、近頃は僅かに遊廓の御茶屋のおゝ小女に見る位で、他は紡績通の職工女や、何やら判断の付かぬのが多ひ、男の方も丁稚の間は梳かぶりといふ頭の満ん中に髪を梳形に置き廻りを剃りてあつたが、近頃これもトント見ぬ様になつた、散髪刈り方も比較的外國人の入込や外國商館と取引する番頭の風を見習ふて佛蘭西刈とか何んとか生意氣の刈方が流行しているやうである。

遊ひ道樂 は社寺参り、縁日めぐり、劇場寄

席祝き、藝者遊び、料理屋通ひ、釣り好き、茶の湯道樂などで。

社寺 は本家本元だから、伴ふて信者の種類が多くなり、市内に辨天機、藥師機、天神様觀音様等は數限りもないほゞある、殊に近來は耶蘇教會堂、天理教會、金光教會、御獄社、月讀教會等も出來て社寺参りもなかく多くなつた、これを道樂の部に入れるは怪しがる話であるが、實際は道樂に社寺参りをし居るのが多い、必ず御利益に關係がある譯はない、神は非禮を受け給はずといふに、随分御利益の授けられぬのが多く參詣して居るこれは自分でもまさか御利益が授かるものと

は思(おも)うて居(ゐ)らぬやうである、どうかよい事(こと)をして社(しゃ)寺(じ)に報(ほう)告(こく)をして行(い)く位(くらい)なつもりで、参(まゐ)詣(よ)するものが多(おほ)くなるやうにしたいものであ
る、随(ずい)分(ぶん)野(や)暮(ぼ)なことを謂(い)ふものかな、縁(えん)日(じ)めぐりは子(こ)供(ご)を連(つ)れて目(め)當(あ)のある散(さん)歩(ほ)になるの
が多(おほ)いので道(みち)樂(らく)の種(たね)といふほどの物(もの)ではない
これは號(ごう)外(がい)である。

劇(げき)場(ば) は可(か)なり立(り)派(ぱ)に出(で)來(き)て居(ゐ)るが、俳(ひ)優(ゆう)は
京(きやう)都(と)は本(ほん)場(ば)所(じょ)でない、大(おほ)阪(はん)東(とう)京(きやう)の俳(ひ)優(ゆう)が乗(の)り込(こ)
んで賑(にぎ)はして貰(もら)ふて居(ゐ)るのであるから兎(う)や角(かく)
云(い)ふ資(し)格(かく)がない、僅(わずか)かに静(しやま)間(ま)一(いっ)派(ぱ)の新(しん)俳(ひ)優(ゆう)が
居(ゐ)付(つ)のやうになつて、明(めい)治(ぢ)座(ざ)を根(こん)據(きよ)として勢(せい)
力(りき)を振(ふ)て居(ゐ)るが、技(ぎ)藝(ぎ)はなかく發(はつ)達(たつ)して

京(きやう)都(と)人(じん)士(し)の嗜(しやう)好(こう)に向(む)く様(よう)な脚(きゃく)本(ほん)を撰(せん)擇(たく)して、
ますく、繁(はん)昌(ぢやう)を極(きよく)めて居(ゐ)る。之(これ)に反(はん)して喜(き)
劇(げき)即(すなは)ち二(に)〇加(か)は關(くわん)西(せい)に於(お)ける特(とく)殊(じゆ)の藝(ぎ)術(じゆつ)だけ
に稍(しやう)々(々)發(はつ)達(たつ)して成(せい)功(こう)に近(ちか)きつゝある、從(じゆ)來(らい)の
惡(あく)僻(へき)を改(あらた)め、何(い)れも俳(ひ)優(ゆう)の鑑(かん)札(さつ)を受(う)けて、其(その)
趣(しゆ)味(み)を向(かう)上(じやう)させたのは、必(かなら)ず社(しゃ)會(かい)の進(しん)歩(ほ)に促(うなが)
されて然(しか)しめられたのであろう。

寄(よ)席(せき) は落(らく)語(ご)、講(かう)談(だん)、義(ぎ)太(たい)夫(ふ)、浪(な)花(は)節(せつ)が主(ま)
落(らく)語(ご)は極(きよく)めて趣(しゆ)味(み)のあるもの、講(かう)談(だん)は面(めん)白(はく)
もの、今(いま)聞(き)こうと云(い)ふて藝(ぎ)人(じん)に不(ふ)自(じ)由(ゆう)はない
が、聴(き)く人(ひと)に甘(あま)いの澁(しぶい)の味(あじ)ふて居(ゐ)る暇(ひま)が
少(すく)なくなつたと見(み)へて、男(おとこ)義(ぎ)太(たい)夫(ふ)の上(じやう)手(て)のよ
りは、女(め)義(ぎ)太(たい)夫(ふ)の奇(き)麗(れい)づくめの方が流(りやう)行(かう)、

新報



浪花節は追々と盛んになつて来る、近來は音樂趣味も深くなつて三味線より琴の稽古が多くなり、歌舞は井上春女の井上流を以て祇園先斗の花街を獨占し、能狂言は片山、大江、金剛、茂山等によりて上流社會を風靡して居る。

藝者遊び 京都第一の生命は遊廓である、京都人が粗食に甘んじて、離離金を儲けんとするは、遊廓の美人を玩ふべき資本を調達するのである、女本位の京都としては貴賓の來遊に際しても都踊を觀せて誇つて居る、また他國より來る人も金魚の様な舞子姿を見て解語の花と嬉んで呉れる、藝で賣るより、顔で引

立て貰ふて居るのが多い、これも今に始まつた事ではないが以前は今日のやうに藝はどうでもでは通れなかつた。

料理 は東京大阪に比して調理は巧みに價は廉である、今は地勢上海濱に遠ざかり、今日の如く運輸の便が開けざりし爲め、自然少許の肴を以て見場好く調理する習慣が今日とても行はれつゝあるので、幾分直安にもなるのである、隨つて茶屋はひりするより、料理屋にて藝妓を馴染の茶屋より知らず方が、雑用が掛らず甘ひ物が喰へると云ふ所から、追ひつゝ流行する様である、近頃は食道樂とか云ふ團體が毎月一回宛料理店を變更して甘ひ物

を喰ひに廻るやうな事も出来ている。

花道茶道 は池の坊兩千家の本山もあり、殊に神社佛閣の茶席に毎月定日の茶會等あり、茶道に心を寄せる人は、殆んど毎日茶會へ出られるやうになつて非常に流行して居る此の以外の京都は實利的に働いて、次第に體裁のよい貧乏を好むものが少なくなつた、殊に水力電氣の利用を知つて工業は盛んになり名前のよき事務員より給料の多き職工を望むやうになつたこの話である。

立屋が裁縫講師などゑらゐるものになり、美術學校も盛んであれば、音樂學校も盛んである、文明の道具は悉く揃ふて、二十世紀前の非文明的殘物がこれに彩色をして居る。なほ述べたいが編を追ふて、その要所くに詳説せん、これより京都の繁昌を記して見ん

京都市内の戸數人口増減を知る爲め左の五年を列記せんに

年	現住戸數	現住人口
二十三年	六三、六八二	二七九、一六五
二十五年	六五、五五二	三〇七、二五一
三十年	六六、五七四	三三三、八三三
三十五年	七二、一四一	三八七、〇九六
三十九年	七二、六四六	三九五、九八一

京都市

京都市は山城國の中央にありて、東北は愛宕郡に連なり、西南は葛野郡につゞき、東南は紀伊郡に接し、東部は近江、及び宇治郡に隣る、東西二里十四丁、南北一里卅四丁、面積一方里餘、町數は千六百八十九、戸數七萬二千六百四十六、人口卅九萬五千九百八十一あり、而して市街を二區に區ち、三條通以北を上京とし、以南を下京とす、上京區の戸數は三萬三千二百八十にして、人口男九萬八十五、女九

萬六百二十三あり、下京區の戸數は三萬九千二百六十六にして、人口男十一萬千六百十九、女十萬四千二百四あり、市街は井然として宛かも碁盤目の如く、南北を縦とし、東西を横とす、縦通なれば北に往くを上るといひ、南に往くを下ると云ふ、横通なれば何通を東へ入る、西へ入るといふ、されば縦通横通の交叉点を以て求むる所を尋ねれば、如何に田舎より出でたる人にも知れぬと云ふ事なし、今左に便利の爲め縦横大通の名を掲げん。

縦通

○大和大路 北は三條より南は伏見街道に接し、其内三條より四條までを大手通と稱し、四條より千條までを建仁寺町と稱す ○川端通 南は三條に至る ○土手町通 北は丸太町より南は丸太町一丁上よ ○木屋町通 北は二條より南は七條に至る ○河原町通 北は山町より南は松原に至る ○新橋

京都市

至○八條通は東は大宮より西
 ○九條通は東は大宮より西
 京都の地に足を踏み入るゝ人の十中の八九は
 まづ京都の美を尋ねんとする人なり、京都人
 士も遠來の客に對して四圍の名所古蹟を案内
 するを第一の懇應となし、商用は二の次とな
 り、されば京都の繁昌を記するに先きたち
 まづ皇居を略記し奉り、夫より名所舊蹟を記
 し傍ら市街の繁昌を記さんと欲す、乞ふ足ら
 ざるは地の卷を以て補はんことを。

●皇居 は上京區御苑の中央にありて、東西
 百三十七間、南北二百四十六間あり、宮門は
 南面にあるを建禮門と稱し東面を建春門、西
 面を宜秋門、北面を朔平門と稱す、これら諸

門の内廷に又一重ありて承明門日華門左掖門
 月華門右掖門あり、紫宸殿は中央に位し即ち
 大典を行なはせ玉ふ處にして中央に玉座を設
 け、殿の南階左右に左近の櫻、右近の橘あり
 同殿の西に清涼殿あり式の常御殿にして、昔
 は此殿に御住居ありしなり、荒海障子、昆明
 障子等あり、南階の砌には御溝の水流れ、庭
 上には吳竹淡竹の臺あり、宜陽殿は紫宸殿の
 南方にあり、大臣宿所、公卿坐、次將坐、議
 所あり、東部に常御殿、東北に小御所、御學
 問所、御涼所、御三間殿、迎春殿、皇后殿等
 尙多きも一々細録するは恐れ多ければ之れを

略す、内庭には林泉草木芳草多く、仙御瑤禽
 喚きて、雲上の結構、人間の想ひはかる處に
 あらず。

●仙洞附大宮御所 は皇居の東南にあり、徳
 川幕府が後水尾上皇の爲に造進して仙遊の處
 となせしものなり、其後延寶元年、天明八年
 安政元年と三回の炎上あり、最終の炎上には
 當時上皇在まさいりし爲め外垣のみを修繕し
 て宮殿造營の事なく今日に至りしが林泉は依
 然として舊觀を改めず、飛泉清池は茂樹密林
 と相掩映して深山大澤に入るが如く、實に希
 有の大林泉なり、仙洞の北隣に大宮御所あり
 是又數回の回祿に罹り維新後常御殿等存せし

が近時華頂宮の御邸宅となり居れり。

●御苑内 は舊九門の内にして、東は寺町よ
 り西は烏丸に至り、北は今出川より、南は丸
 太町に至る、四圍を繞するに石垣を以てし、
 其上に樹木を植ゆ、南面に堺町御門東面に寺
 町御門、清和院御門、石藥師御門、北面に今
 出川御門、西門は乾御門、中立賣御門、蛤御
 門、下立賣御門あり、苑内は一面に青芝を植
 へ、縦横に廣橋を設け、梅桃柳櫻の諸樹を
 交へ栽へたり、四時の眺望佳ならざるはなし
 舊公卿の邸宅は多く此苑内にありしが、維新
 遷都と共に撤去せられたり、皇居仙洞の外、
 桂宮は皇宮の北にあり、其東に祐井あり、舊

と中山邸にして、今上天皇御産湯の井戸なり
 茲の前の馬場が猿が辻と云ふ、維新前種々な
 る事件が起りし處、車返し櫻は中立賣御門
 にあり、其南二丁に白雲神社あり、南に行け
 ば賀陽宮邸にして、其南に主殿寮出張所あり
 東に行けば宗像神社と舊九條家の庭園が遺れ
 り、御苑内の北端今出川通には煉瓦造の三角
 塔又は宏壯なる西洋館が建て並んで居る茲が
 ◎同志社 である日本で外國語を廣く教授し
 た開祖と云ふてもよい、故新島襄氏の設立で
 現今では専問學校、神學校、普通學校、女學
 校と分れてゐる、校長に原田助氏あり教授に
 デビス氏を始め内外知名の士が教鞭を執られ

生徒は常に満員である、茲の北部は一体に
 ◎相國寺 である禪宗にして、京都五山の二
 に位す、永徳三年足利義滿の創建にして夢相
 國御開基たり、本堂には釋迦、阿難、迦葉、
 達磨、大元等の像を安んず、此寺應仁の亂に
 烏有に歸し、其後數回々祿に罹りしも、豊臣
 秀頼再建する所となり、鐘樓は洪音樓といひ
 鐘はもと南都元興寺にありしを茲に移せしな
 り、又塔頭林光院には鶯宿梅あり、普光院に
 は藤原定家卿の墓あり、境内風致頗る好く什
 寶の拜觀を許さる、今出川烏丸には
 ◎華族會館分館 がある京都在住華族の集
 合せらるゝ所である、舊公卿華族の人々は多

く此附近に居住して居られる、
 御苑の兩端は烏丸通りにして一條西入る處に
 ▲禁裏御用を勤める京菓子司、とらや黒川光
 景あり舊家にて東都へ遷都せられし當時より
 東京に分店を出し今尙宮内省の御用を蒙り居
 れり▲中立賣南へ入る處に河合園とて西洋料
 理原料の蔬菜やら養鶏を爲して新鮮の玉子を
 賣つて居る其隣に▲小紅屋とて下村竹一郎の
 紅染處がある上長者町の南角は▲同志社病院
 にてドクトル佐伯理一郎氏が院長となり看護
 婦養成處も此中にある
 南隣に▲河端道喜とて名代のちまき菓子やが
 ある此家先帝の頃皇室御衰微の際ちまきを製

し献上したる勤王家にして今尙宮内省の御用
 を蒙り、下長者町の角には
 ◎護王神社 あり別格官弊社にして、祭神を
 和氣清麿公、藤原百川公、和氣廣蟲公を合祀
 す、本社は元高雄神護寺にありしが、明治拾
 九年茲へ遷座し給へり、少しく南に
 ▲裝束衣帯を調製する高田茂あり、下立賣の
 角には▲平安女學院あり、校長はシドニー、
 カツリン、パートリツチ氏にして女子高等教
 育の普及に熱中して居らるゝ少しく南に
 ◎菅原天満宮 にあり▲丸太町上る處に下村
 大丸呉服店の社長下村庄太郎の宅がある▲角
 には新古洋服を賣買する森田商店あり▲京都

商業會議所は烏丸夷川北入西側に在る會頭は西村治兵衛氏副會頭大澤善助氏書記長西池成義氏等で常に京都商家の爲めに盡瘁して居られる、會議所も近々三條通り東洞院東入現今の日出新聞社の所へ新築して移轉せらるゝやうである、夷川を南へ行くと▲月讀教會の説教所がある善男善女も悪男悪女も共に參詣して居られる、隣りに▲山印和紙店がある、向ひに▲藥種問屋の早田平助、山本政七等が重なる店である、二條通り東西とも此邊は藥種問屋が軒を連ねて居る、両側には目立ちし家が多くあれど、見向きもせず少しも早く七條停車場へ行かんと南を向ひて行くと、押

小路南へ半丁程行く龍池尋常小學校の裏手の處に巡查派出所がある▲隣りに生糸問屋の田中商店が目につく▲向ひ側に京華社々長後川文藏氏の宅がある▲御池の南角に齒科醫の堀内徹が宅へ患者が入りて行く、三條北に後の祇園祭の時鈴鹿山が立つ此處に▲株式仲買で近頃賣出して居る六鹿清治の店がある三條の南角は▲第一銀行の京都支店で支店長は中川知一氏である向ひ角が▲三藏園の本舖其尻り家が▲時計屋の御倉屋で此附近は織物帯地の仲買店斗りで中京の中樞であるから立派なお店計りで一々詳細に書きたてたら天の巻の數千頁に成つて讀者も困られるであらうから地

の巻に譲らんと思ひながら六角の辻へ來ると▲三十四銀行の支店がある支店長木村匡氏は考古家であつて演説に論文に後進生の爲めに大に盡して居られる半丁程南に行くと▲第百銀行支店がある蛸藥師南には▲近江銀行の支店があつて四條を少し南に行く▲米喜石崎合資會社支店の酒店がある今に此の烏丸通りが拾貳間道路に取擴げらるゝと多くの商店がどうなるだらふと心配しながら南に行くと高辻の角に巡查派出所があつて隣りが名高い▲高島屋飯田呉服店で東側が賣易店である茲の橋の路が因幡藥師の西口で其角に▲京都銀行がある頭取は安田善衛氏で二三年前に安田

銀行と關連するやうになつてから大に信用が出来て行務が揚つて來たさうな▲松原の角が郵便局で▲向ひ角が京都貯藏銀行の本店で頭取が遠藤九右衛門氏で市内に五ヶ所から出張店を設け貯金吸収には一二の顔である▲西角が化粧品賣藥店の田内大學堂此頃店飾りを改良して勉強して居る▲萬壽寺の角に鐵道看板をよく出して居る半衿やの關米の店がある▲半丁程南に太物問屋健忠原商社がある此附近五條通りへ掛けて關東織物西陣帶地太物問屋祝小袖裾模様などの店が軒を並べてある故田舎より來りし人などは嫁入衣裳や普通着などは此附近にて調はぬと云ふ事なし、五條よ

噴水、七條停車場

り以南は六條地内と稱して本願寺に何か事あるときは率先して用を達して居つたものであるが近頃は一向にそう云ふ風もなくなつた、五條南に▲金箔商の兒玉右衛門▲醫師の奥山一十郎▲久保田足袋店▲吉川合資會社の金屋貿易店▲繪具染料店の野間商店に▲梅林茶店位のもので魚棚下る所に▲山下酒店がある壹丁程南即ち東本願寺の北手に松林があつて其の中に

●噴水 がある高さ數丈にして一大瀑布の如く四邊は常に泡沫飛散して夏向寒きを憶ゆる位である、水源は疏水南禪寺山より取り、本山附近に出火あるときは此の噴水を止めば、

其水は直に本山南堂の屋根檐に廻り沛然として吐き出す水は龍吐の如く、見る／＼兩堂とも猛雨に包まれたる有様にて其偉觀云ふ計りなし、記者は先年興正寺の出火の時之れを見たり、茲を鳥丸へ出ると巡查派出所がある、これから本願寺へ參詣するが順序なれども、兎も角七條停車場へ行き舞ひ戻つて來んと鳥丸通り南端へ行當れば

●七條停車場 にして世界の樂園、花の都の大玄關である晝夜引切なしに瀛館の藝妓轍の陰り、瀛車の發着毎に旅客荷物を吞吐する幾千、流石に關西屈指の停車場である、明治拾年京都神戸間の開通したるとき創立したので

ある、現今は鐵道國有となりし爲め、東は青森より西は下の關、北は富山迄直通するやうになつた、又京都鐵道も當構内より舞鶴軍港に通する國家樞要の線路だが今は園部までより開通して居ない、沿道には嵐山御室保津の名所頗る多し、又關西線も當驛より奈良を過ぎて大阪湊町、又は和歌山へも至れば奈良を経て伊勢參宮も出来る四通八達の便である、驛長を周布信吉氏助役藤井秀三氏貨物主任は宮本多嘉氏にして専ら驛務を執て居られる、電氣鐵道は市内木屋町通りを北へ堀川に通する東廻線と西洞院通を北へ堀川に通する西廻線と連絡して北野へ達し、一方は南へ伏見

京都と稻荷へ達する線がある、旅客の來着と同時に撰擇すべきは旅館である京都の旅館は八百有餘あれども内貳百軒程は著名にして他は中以下である、尤も確實にして著名なる旅館は末尾營業家明覽の旅館の部に詳しくあれば、夫れに依つて便宜の地を求められよ。

停車場構内の二階には▲京都ホテルの出張店があつて、西洋料理を調進して待合中の人やら停車場中の人に供し、又た賣子にサンドイッチや辨當まひし等を拵へて勉強して賣らして居る、切符賣渡所は東行と西行と二棟に分かれて居る、驛前の道が菰小路通といふ、

▲五條警察署暨小路分署は驛前烏丸の角にある署長は警部吉村盈氏である、其隣りに▲菊岡屋といふ旅館と待合を兼ね盛大にイツモ忙しそらにして居る、隣りが不明門通りにして北は松原まである、東角が▲衣笠亭といふ待合でこゝは多く祇園先斗の紅裙連が旦那を連れ出し、待合はす所にて随て俳優も立寄ると云ふ景氣、それから▲榮壽軒茲も同じく藝妓連が多く立寄る待合所で▲小林亭は旅館と待合を兼ねて居るが安直主義を以て誠實に働いて居る丈けに商人やら中流のお客が多ひ、座敷は盛んに建て増して居られる▲梅松軒は東洞院の東南角に西洋料理と玉突きをして居る

▲聖護院名物八ッ橋屋支店は少しく北にあるその北に▲福知運送店に▲電気鐵道會社の本社と▲才賀電気商會支店に▲旅館 京都 館などが目立つて見へる、元の停車場前へ戻り不明門を北へ七條迄に▲第一倉庫株式會社▲魚仲買の奥島光四郎に▲大橋仁兵衛▲米穀仲買が石原合名會社に▲谷伊三郎▲米、綿、海産物の仲買をする深見商店▲運送店の川西熊七▲隣師の森武慶などが重立つた店である。元の停車場前に居り烏丸の西角が七條郵便局にして局長は森源三氏である其の北に▲中村旅館▲北濱銀行七條支店は支店長次席の岡村發吉氏が専ら事務を扱ふて居られる▲駿河屋

羊羹店は少し北にて伏見の支店で京土産の一つである▲こゝに東 本 願寺の建築工作場が一町四方程場所を取つて、黒塚の儘になつて居る、借家でも建てたら大したものだと、入らぬ心配して向ひ側を見ると▲旅館と待合をして居る高居樓▲内國通運會社の支店には支店長鈴木忠正氏が執務して居る夫から▲京都郵船組の荷扱所▲植村運送店▲中岡運送店などが重立つて見へる▲常に如何はしき風評を聞く痔疾梅毒専門の第八生司院は郵便局前にある。

して居る田中利七▲向ひ側に龜屋旅館の入江誠太郎等である、この向ひ北に傲然たる大建築がある、これが茲に素通した世に云ふ東本願寺即ち

◎大谷派本願寺 である宗祖は第十一世顯如上人の嫡子教如上人が慶應七年徳川家康の命により、後陽成天皇の勅許を得て創建したる一大本刹である、殿堂は數回回祿に罹りて烏有に歸し、現今の者は明治二十八年に再建竣成したものである、阿彌陀堂は東西二十一間南北二十六間あり、本尊は安阿彌作の阿彌陀佛で脇壇には聖徳太子圓光大師及び諸祖の畫像が安置してある、大師堂は東西三十二間、

大谷派本願寺

南北三十五間ありて中央に親鸞上人自作の木像を安んず、此兩堂が先きに言ふた、水に包まれるので内部より火を出さざる限りは河祿に罹る憂がないのである、表門は昨年十二月一日起工式を挙げ、近頃北越地方より用材の寄進もある赴にて、近き將來に一大宏壯なる大建築を見るに至らん、向ひ側に總會所があつて御説教は多く茲で聴聞するのである、大師堂の前が中珠數屋町通にして重立つた店は▲珠數打敷店の寺島作太郎に▲書籍佛畫等を鬻ぐ法藏館西村七兵衛▲三木法衣店に▲河尻表具師▲佛壇佛具店の中村猪之助▲京屋旅館に▲矢野滯留商會▲旅館若山重太郎▲旅

館と金貸して居る河六田伏六右衛門の横が間の町通りで开處に
 ◎涉成園 即ち枳殻御殿がある東本願寺の別荘で老法主大谷光瑩伯が起居せらるゝ處である、此地は河原左大臣の舊苑の遺址にして庭園は小堀遠州と石川丈山の作になり十三勝あり、仙鶴珍禽多く、亭榭樹林の排置等其結構巧妙を極め仙境に遊ぶ思あり
 中島 棕隱
 涉成園邦月池
 一泓清樾翠成紋。
 歷過繁華水始分。
 無復人間煩惱雲。
 半宵來照真如月。
 其南隣りは▲すや餅とて東本願寺及東大谷の御供餅を供進する松井茂信



松井茂信
 御供餅



其北隣りが佛現寺とて東本願寺の末寺其向が

▲碓松五郎とて土木請負師である、

下珠敷屋町で目立してゐるは▲錢太旅館の吉田

太兵衛▲高橋佛壇店に▲加賀屋旅館中村嘉三

郎▲藤井油紙店▲法衣屋の浅井糸三郎▲書籍

商の西村護法館▲丹平旅館の丹羽平七▲内藤

珠敷店位の者である、

枯穀御殿前を七條へ出ると入江がある北側を

東へ行くと薪炭間屋が軒を連ねて居る重立た

内は森川卯三郎▲木村由太郎▲木村貞四郎▲

安田和三郎▲加藤拾吉▲杉彌大畑彌兵衛▲杉

利大畑利兵衛▲長谷川傳次郎はゴーストを象

ね▲長谷川晋次郎▲田中酒炭醬油店等がある

間の町七條の行當りには

◎金光寺あり黄台山と稱し時宗にて七條道

場と云ふ相州藤澤易行寺に屬す、本堂は彌陀

並に一遍上人の像を安んず而して此寺は正中

年間應阿上人の草創する處にして佛工法橋定

朝が宅地を寄附せしものと云ふ、

こゝより東に目立のは▲明石靴店▲吉田履物

店で左側には巡查派出所がある、新高倉の陸

橋はこれから南へ竹田街道を経て伏見へ行く

道になつて電車が通ふて居る、橋下は東海道

線の列車が頻繁と通ふて居る、若しも踏切が

なければ急に通行も出来ぬ者を去りとは便利

に出来たものである、七條を東へ少し行くと

▲御旅町龜村シヤツ店の工場で盛んに製造して居る、其處東へ行くと鴨川七條大橋の邊へ來ると右側に京都扇子商會がある、隣に赤の玉垣、赤の鳥居にて

◎松明殿 がある主神は稻荷大明神にて朝市夜店に商人が御利益を蒙つて居る、七條大橋の二三丁南手今の鐵道鐵橋の邊りが鐘が淵とて石川五右衛門の釜煮りにせられた處と云ふが、今は釣道樂の人が遊び所である、橋より東に向ひ二三丁行けば淨瑠璃で名高き

◎三拾三間堂 蓮華王院といふ、後白河法皇の建立なりしが、建久元年三月炎上し、文永三年に至り再建落成した、其構造は東面南

北の長棟にして凡六拾六間あり、二間を隔て柱を建るか故に三拾三間堂と稱す、本尊は千手觀音にして、脇立二十八部衆の外千手觀音一千体あり(大佛師法愛小佛、瓦屋圓柱にして堂内垂木に至るまで繪くに五彩を施したりと雖も凡六百五十年前の古建築物なれば今は概ね剝落して圖畫明瞭ならざるは遺憾である、併し洛中古建築物の優等の者なれば今は國寶となれり古來本堂裏にて大矢數といふ射式を行ふた事あり、貞享年間紀州の和佐壺八郎通矢八千三百三十三なるを第一とす、堂前には燕子花あり、初夏の眺望佳あり、寶物展覽せらる北に向ひ一丁行けば

◎京都帝室博物館 あり明治二十五年六月起工同二十八年十月落成す、間口四十一間奥行二十五間余あり、總面積一萬坪にして、玄関は御影の一枚石を敷き正面に京都帝室博物館の七次文字を刻し其上に技藝天女と毘首梵摩の兩像を刻み左には普賢菩薩獅子乘の銅像右には文殊菩薩象乘の銅像を置く、本館を十七室に分ち繪畫、彫刻、圖書等數十室に區別し毎月一回づゝ陳列を變更す、庭園も清潔に建築は輪奐として、實に帝室の博物館たるに耻ざるなり、少しく北に行く

◎智積院 あり真言新義の總本寺にして本尊は不動明王師作安置す、客殿書院の襖には

長谷川等伯の筆其他各室に名畫あり、庭園の林泉、又頗る絶佳なり寶物展覽あり、隣は◎阿彌陀ヶ峰 豊太閤の廟にして慶長三年八月十八日太閤伏見城に薨じ、阿彌陀ヶ峰に葬ひりしが、翌年朝廷より正一位を贈り豊國大明神の諡號を賜りしかば、新に社殿を造營せしが、徳川氏の世に至り破毀せられ、自後二百年間荒廢せしが、其後有志者相謀りて廟營を修繕し、明治三十年四月起工し同三十一年竣工せり、峰上に高さ三十尺の大塔屹然として聳へ、前に一對の花瓶一基の香爐あり、周圍に石垣を繞らし、地勢高爽にして眺望廣豁なり、石階の下北の隣りは

◎妙法院 にして天臺宗延曆寺の別院なり、天台座主三院の一なり、惠亮僧正の開基にして代々法親王御相續あり、本堂は寶篋造にして本尊は普賢菩薩なり、近時有名なりし暹羅國王より分贈ありし、釋尊の佛骨は三年間此處に奉安せしなり、舊は祇園の南にありしが豊國神社創建の時此處へ移す、書院は幽雅にして柳子は名家の筆になり林泉は小堀遠州の作なり又北部に積翠園と云ふ名園あり現今の住職は貫志寂忍師である、

◎新日吉神社 は妙法院東南阿彌陀ヶ峰の上り口にあり永曆年中後白河法皇江州日吉神社を勸請し玉ひ、社地は幾轉して明治二十年今

の處に鎮座す、樓門殿堂拜殿神樂堂繪馬堂等備はる、社格は府社なり、例祭は毎年五月十四日にして神輿鉦等あり、

◎豊國神社 は智積院の西にあり正面通りの東突當りになる、豊太閤の靈を祀る、慶長四年に建立せしも雷火に焼かれし儘幾星霜を過ぎ、明治十年今の祠再建なり、別格官弊社に列せらる、表門は桃山城より移せしものにて國寶なり社前の鐵燈籠は名工與三郎の鑄造である、境内に萩多く、寶物什器の展覽あり、宮司は鹽津貫一郎氏勤めらる、この北に

◎大佛殿 がある方廣寺と號す、天正十四年豊太閤の建立にして、堂の高さ二十丈佛の

高さ十六丈共に廣大なりしが、慶長元年大地震の爲に崩壊し其後秀頼再建せしも寛文二年また地震にて崩壊し寛政十年七月又雷火の爲めに悉く灰燼と化し去りたり、近時漸く大佛の半像を造りて僅に舊時の形を遺存するのみ鐘樓に大鐘あり高さ一丈四尺、經九尺二寸厚九寸あり慶長十九年秀頼の鑄造せし處にして東福寺の清韓長老銘文を撰みしより、物議生じ、遂に豊臣家滅亡の因となりしは、世の知る處である、境内萩多く、寶物展覽もあり、石段下に巡查派出所がある少しく西に行けば南側に

◎耳塚 あり豊太閤朝鮮征伐の時、敵將の首

を獲る事幾萬といふを知らず、依て其耳鼻をどきて、日本に送りこゝに埋みしなりと云ふこの北側に

◎專定寺 即ち世に云ふ鳥寺がある淨土宗に屬す、門内松の幹に土の鳥が二羽止つて居る往昔熊谷蓮生坊が往生された時、此處で西方淨土へ見送つた鳥の形を今尚ほ存してゐるのである、其時旅僧專定法師が見てその松の下に庵を建て、熊谷坊を吊はれたより、熊谷山專定寺と寺號を賜はつたのである、此鳥大佛の凶事には必ず鳴き、又此の寺の前に石川五右衛門の屋敷があつたが、五右衛門が惡事を巧むと、此の鳥が鳴くので此近所では惡事が

出来ぬどの事である、寶物拜見は二錢で出来る、茲の西筑當り本町通に▲大佛餅屋がある名物だから試み給へ、本町通伏見街道とも云ふ、南は伏見稻荷より京橋北は五條通りに至る、五條を東に向へば五條阪とて陶磁器に名高き土地である、兩側とも大半陶磁器を鬻ぐ家である、されば清水坂は錦塗物とて各種の人形、急須等清水參詣者の土産物多く、此所は名工の淵藪にして、いづれも高貴貴重陶磁器多く其名海外に轟けり重立ちたる店は五條橋東武丁目岡本平造▲藤本藤八、三丁目に▲斗岡萬珠堂▲酒見外治▲中川庄次郎、四丁目高山恒太郎▲耕山夏太郎▲高橋道八▲

入江道仙▲村岸喜之助▲河合瑞豊▲淺見五郎助▲石川寅吉▲平野幸次郎の諸名工あり茲に●若宮八幡宮 がある祭神は男山神社に同じ天喜元年後冷泉天皇の勅願により、源頼義の勸請なりしが現今の社殿は承應三年後水尾天皇の勅命により造營なりしものなりといふ、境内辨財天あり縁日には大に賑ふことには▲松本新四郎▲清風與平▲清水六兵衛、六丁目に▲三浦竹泉▲小川文齋の諸名工あり▲山中盛樞は電氣用陶磁器を製造して輸出なし居る、この東端は●西大谷 本派本願寺の廟所にして親鸞上人の本廟である、本堂には阿彌陀佛を安置し廟

所は本堂東の上にあり、左右に石垣を繞らし顯如上人以來代々の墳墓あり、當寺は高丘の地にて門前より西を望めば洛の中外一眸の裡に集まる眺望頗る絶佳あり、門前の池を皎月池といひ、中央に架する圓通橋とて俗に眼鏡橋といふ、池には蓮華青く夏秋の候には紅白咲き亂れ清香馥郁人衣を撲つ其他柳櫻も多く、四時の風光絶佳にして洛東の名境であるすみなれて月のかたみかあさなく
咲てすいしき池のはちす葉 種案
こゝを一丁南へ行けば妙法院の北門で馬町通りである、こゝに巡查派出所がある、西へ行くと陶磁器師の吉岡吉兵衛▲田村菜山▲石田

源次郎の諸名工あり、東へ七八丁行けば澁谷花山火葬場あり、大津へ行商する人などは澁谷越の近道なりとて、茲より山科を過ぎて大津へ至る人多けれども随分淋しき街道で晝尚暗き所がある、●小松谷正林寺 は浄土宗の惠空上人開基にして、此地は往古九條關白月輪殿下の小松殿と稱せし第跡にして、當時の本堂は舊殿を喜捨せしなりと、法然上人遺跡の一にして上人流罪の前、この月輪殿下の許にありと、殿堂輪奐たり、本寺の西に小松内府重盛公が建し燈籠堂遺跡あり、今も此邊を小松谷といふ、元の西大谷へ戻り北側の道を東へ行けば、

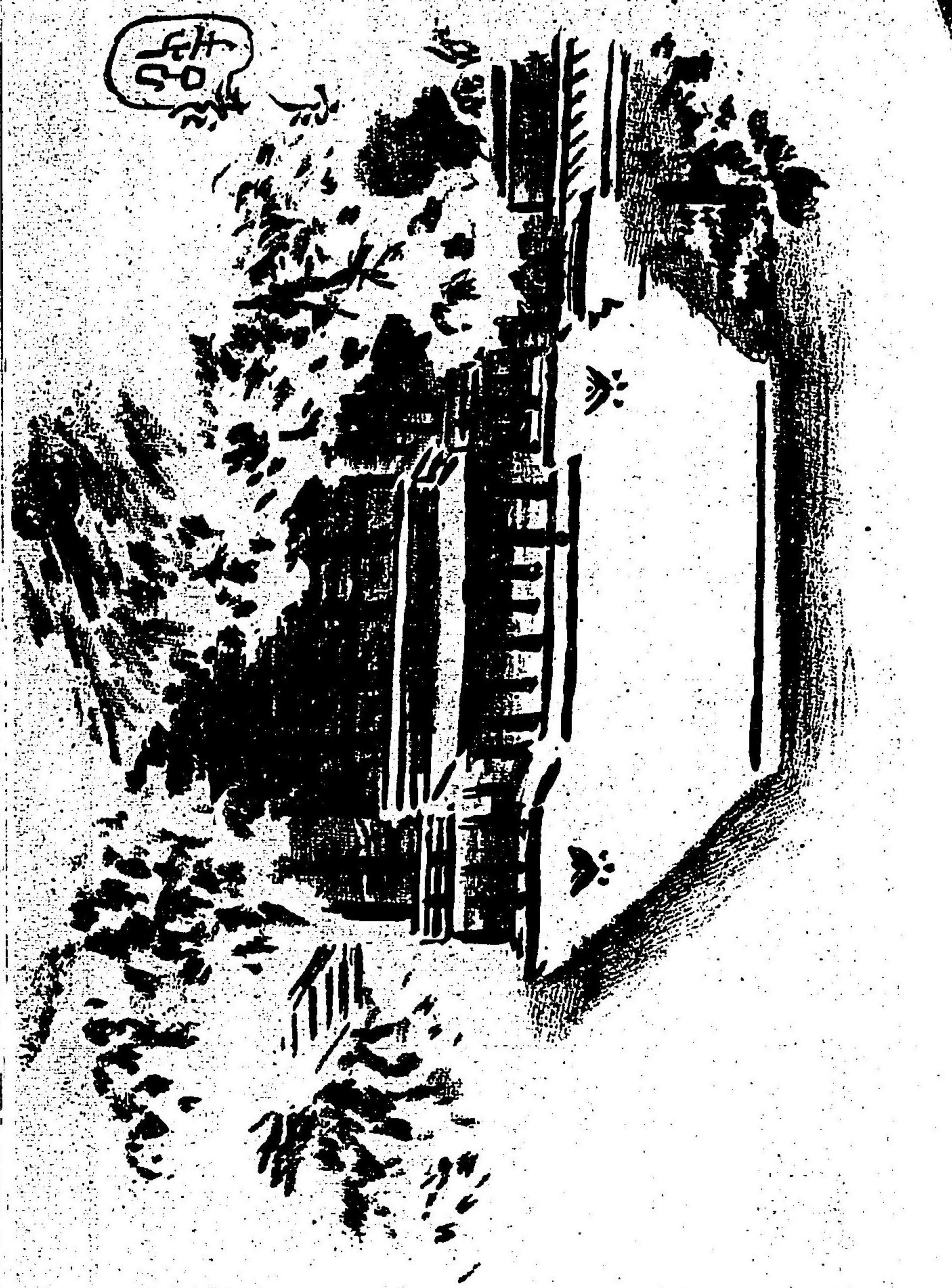
●鳥部山 また鳥部野とも云ふ、歌淨瑠璃の引合に出る處ゆへ人の知る處なるが、古來有名の人の墳墓多く、後京極攝政良經の墓またはお俊傳兵衛の墓も此處にあり、

◎妙見堂 はこゝより半丁程東にあり、參詣者常に絶へず、

こゝより東へ行くと清水公園舞臺下へ出る、

●清水寺 洛東第一の靈場にして賽人絶ゆることなく頗る繁昌せり、大同二年將軍阪上田村磨の創立にして、西國第十六番の札處なり、光仁帝御宇大和の僧延鎮靈夢に感じ木津川に溯りて異人行役より授りし靈木にて刻める、千手千眼十一面觀音の像を安置す、後延暦十

三年桓武帝、都を長岡に遷し更に平安城に遷し玉へるとき田村磨に殿舎を玉ひて、愛宕郡八坂郷に觀音堂を造營せしめ玉ひしは、此堂宇にして元は北觀音寺と稱せしか後改めて清水寺と稱し又音羽山と號し本堂は檜皮葺にして紫震殿形なり、平城帝、紫震殿を田村磨に賜ひて之を清水寺に移せしものなり、前に舞榭を架す、世に清水の舞臺といふ、舞臺より眺むれば山城の西南一帯、淀川の長流より八幡山崎さては河内攝津の山々に至るまで一眸の内、に收むべし、堂の軒には有名なる海北友雪が筆になれる田村將軍東夷征伐の扁額あり、其他土佐狩野等諸名家の扁額繪馬多し、奥之



院は延鎮僧都の跡にして歿後此處を廟堂となし千手觀音の像を安んず其他三重の塔は俗に子安塔と稱し大日如來の像を安置す桓武帝の女御全子出産の月に病惱ありて藥石効なく大悲に祈りて病忽ち癒へ皇子誕生し玉ひければ感じて建て玉ひしあり、北側に善光寺觀音あり田村堂は田村曆行寂延鎮の像を安んず、朝倉堂は越前の國司朝倉貞景の建立にして經堂は釋迦文殊普賢及西國三十三所の觀音の像を安んず尙地主權現、爪形觀音、釋迦堂、藏橋、鼻の水、本坊成就院等ある、音羽瀧は奥の院の下にあり、三條に分れ水質清冽にして世に名高し、近年この南園を開き楓樹を植付

清閑寺

け眺め最も好く爲めに新高雄の名あり、北園も櫻樹萩を増植して春秋の風光共に畫の如し四月一日より三十料理茶屋の重なるは吉野屋瀧野日間寶物展覧あり屋忠僕茶屋等ありいにしへの花の影さへみゆる哉景樹車やごりの春の月の水かほり花いささよき深山かな宗祇このより東南四丁ばかりに●清閑寺あり延暦二十一年紹繼法師の開基にして、中興は一條帝の御宇佐伯公行なり、初め天台宗なりしか後眞言宗となる、本堂の北一丁計りに六條高倉兩天皇の御陵、並に高倉帝の龍姬小督の局の墓あり、また本堂の傍

靈山招魂場、高臺寺

らなる郭公亭は西郷隆盛月照上人と國事を密議せし處である、境内閑静にして、新緑の候杜鵑を聞くに最もよし、元の清水へ戻り北に行けば三年坂といふ、大同三年此坂を開きしより其名あり▲有名なる七味家▲名題の阿古屋茶屋▲陶器師谷口長次郎▲瓢箪屋田中政吉等あり、清水阪には▲安田藤三郎▲淺井國順▲松風嘉定▲酒見外治▲谷口菊四郎等の陶磁器師あり、こゝを北に行く

●靈山招魂場 なり靈鷲山を略言せしものにて、傳教大師の開基になれる寺院なりしが、今は荒廢して僅かに一字を餘し、其大半は招魂場なり、維新前後憂國殉難の志士の靈を祭

る、山腹半瀾の處に建てたる銅碑は明治十二年の竣工にして靈山招魂の碑と題したり、木戸孝允、藤本鐵石、梁川星巖等の墓あり、眺望は廣瀾にして頗るよし、靈山を下りて西北へ行けば

●高臺寺 あり鷲峰山と號し、豊太閤北政所高臺院の建立にして堂宇輪奐たりしが數度の回録にかゝりて大半烏有に歸せりと雖も開山堂あり屋材は北の政所の車の天井を用ふと云ふ並に太閤及夫人の靈舎今尙存せり、また後山に時雨の亭、傘亭と云へる有名の茶亭あり境内萩多く三秋の候は遊人極めて多し四月五日五日まで寶物展覧あり

庭の面にをのれとよく萩原は

秋風よりは生始めけん 光廣

高臺寺門前を北に▲麥とろ料理の田舎亭あり安直で一オチツな料理も喰べさせる▲陶磁器は高臺寺焼とて一種風雅の焼き方にて▲六々齋▲雲林院寶山等の名工あり、こゝより北へ行けば双林寺東大谷など近道なれど、元の靈山前に戻り西へ下河原通へ行く

●八阪塔 あり靈光山法觀寺と號し聖徳太子の創立にして日本寶塔の嚆矢なれば國寶となれり、古は堂宇伽藍壯麗なりしが、現今は荒廢し却て危険となりしより、明治二十九年九月京都府社務監督の下に内務省下賜金

八阪塔、庚申堂、珍皇寺

や寄附金を合せて金貳萬三千貳百五拾參圓余を以て修繕工事を施し本年十月には全部竣工の筈である、少しく東へ行く▲貸席旅館の自樂居がある阪神地方より紅裙を羅して雲隠れ遊びする所である、西へ行く

●庚申堂 あり法觀寺と稱し、聖徳太子開基なり中興は日本修験の開祖淨藏貴所大行者にして、本尊は青面金剛尊である大阪天王寺、東京淺草の庚申と日本三庚申と稱す、こゝの少し南松原通を西へ五六丁行き南へ向へば●珍皇寺 あり小野篁の創建にして本尊は藥師如来なり焰摩堂、小野篁祠堂あり毎年八月九日精進迎のとき善男善女の參詣群集して夜

を徹す、爲に六道参りといふ

●六波羅密寺 あり普陀落山と號し、西國十
七番の札處にして眞言宗智積院に屬す、開祖
は空也上人なり天曆五年京畿疫流行し慘狀
を極めし際上人が十一面觀世音を刻み之を車
に乗せ浴中を巡回して祈禱したる後伽藍を建
て納めたるが此寺なり、境内に姿見の池あり
上人自から姿を寫して自己の像を彫刻せしよ
り名づく開山堂に安置する像なり、地藏佛の
像は白河法皇の御作なりと云へり、古は六波
羅地藏と云ひて有名なりし、藥師佛は傳教大
師の作なり、此地は歴史上顯著なる處にして
平相國清盛の邸も此處にあり、往古この邊を

五條阪と稱し遊所がありし趾にして、遊君阿
古屋傾城瀧川などは名高きものにて、現に當
寺に阿古屋塚など遺れり、元の松原を少しく
西の北側に

●愛宕寺 あり洛湯十六番の札所にして、等
覺山念佛寺と稱す、眞言宗にして弘法大師の
開基なり、中興は千觀内供とて中納言賴顯卿
の息にて世に念佛上人と云て有名なり疫除け
火ぶせ地藏尊を安置しあり、今は荒廢して小
供の遊び場所となれり少しく西へ行くと北側
に松原警察署がある署長は二木延吉氏である
建仁寺町を北に向へば西側に

●蛭子神社 あり祭神蛭子命の像は、昔し建

仁寺の開祖榮西禪師入宋の時隨身し、此像に
祈りて途上風波の難を逃れしを以て歸朝後こ
の處に勧請せしといふ毎年一月十日には初夷
十月二十日には夷子講とて都人參詣雜踏せり
少し北へ行けば

●建仁寺 あり禪宗臨濟派の巨刹にして土御
明天皇の勅願處なり建仁三年源賴家の建
立にして地域三萬坪あり、佛殿には釋迦牟尼
佛を安んず、方丈は其北にあり管長は有名な
る竹田默雷師である、堂宇宏大にして境内松
樹に富み閑雅寂寥の感あり、東方に鐘樓あり
昔は毎夜陀羅尼經を誦しつゝ此鐘を撞きしよ
り陀羅尼鐘と云ふ、壹丁計り南の方に中門あり

り南向にして世に矢立門と云ふ國寶となれり
舊は門脇宰相平教盛の弟門にて扉に軍符の
痕あるよりかく名く、同門の西建仁寺の入口
に摩利支天を祭り參詣絶へる事なし、元の境
内を北へ通り板敷東に向へば

●安井神社 あり祭神は中央に崇徳天皇、左
に金毘羅、右に源三位賴政を祭る、往昔藤原
鎌足此地に藤を栽へて家門の長久を祈りしが
其樹榮へ盛りしより世に花の寺と稱せしが、
崇徳天皇離宮を造り、寵姬阿波内侍を住せし
め玉ひしが、保元の亂讃岐へ遷幸あり遂に同
行宮にて崩御ありしにぞ、此に本社を建立し
て其靈を鎮す表門の邊に藤樹ありて晩春の候

眺最も佳し

まといして見れどもあかぬ藤浪の

たゞまき惜しきけふにもある哉

天曆御製

この北通り廣道の角に巡查派出所がある、
 開處を東へ行當れば下河原にして北へ行けば
 祇園神社なり目立ちし家は料理店鳥居本に
 ▲秋葉大明神▲芋棒とお多福の名物なる平野
 屋は鳥居前の角にて一昨年丸山を焼出されて
 梅尾の跡を引受けて自慢の菊を植へながら繁
 昌なし居れり▲少しく南に旅館杉の井あり茲
 より東に行けば東大谷なれども先きへ
 ◎八阪神社 へ參詣せん祭神は素盞鳴尊、稻

田姫、八王子を合祀せり殿舎壯麗にして拜殿
 神樂堂、繪馬堂、攝社、末社いと多し、南門
 を南大門と云ふ其南に石鳥居ありて八阪神社
 の額を掲ぐ茲に古しへ二軒茶屋とて祇園豆腐
 の名物ありしが西側が藤屋と云ひ東側が中村
 屋なりしが、今は中村樓と稱して京都隨一の
 旅館料理店となり座敷も調理も整頓して貴顯
 紳士や外國人が常に宿りて繁昌を極めて居る
 西側は▲東山病院となりて半井朴氏が院長
 となり熟練なる醫學士醫師が各科を擔任し患
 者は常に絶ゆる事なく、病室は清潔にて、風
 景亦た絶佳なり、西門は西大門といふ左右に
 隨身を安んず、茲より西を瞰下せば祇園町の

青樓娼家軒を並へ遙に四條大橋より市内を眺
 めて京都の繁華の一半を伺ひ知る事が出来る
 境内は廣大にして無數の石燈籠は列を爲して
 神威を添ゆるなど、一たび立寄れば心忽ち清
 しくなる、宮司は保科保氏宜禰は櫻木松次氏
 が勤めて居られる、境内茶亭の傍に▲寫眞師
 成井頼佐▲長谷川寫眞師等目立ちて見ゆ、毎
 月一日十五日は參詣の士女織るが如く、夜は
 縁日店にて雑踏を極む、
 昔よりみいづかしこみ諸人の
 つとふ八阪の神の園かな 忠起
 天の下照すがいみの須佐のその
 神のみまへは千代も雲らし 祐順

◎祇園會 は八阪神社の私祭にして日本三大
 祭の一と稱せらる、又けに優美高尚華麗を極
 む、毎年七月十七日と二十四日に執行す、十
 七日は神輿本社を出御、供奉に古代武者の粧
 ひせる行列等ありて四條御旅町の御旅所に神
 幸あり、こゝに七日間駐蹕二十四日に至り前日
 の如く行列を正しく氏子各町を廻りて本社へ
 還幸せらる、亦た十七日午前は錦織珠玉を以
 て粧飾せる美麗なる山鉦を曳出し有名なる祇
 園囃に囃し立て、四條通鳥丸以西の鉦町よ
 り各鉦及山鉦順次に四條通りを東へ寺町通
 りを松原へ松原通を鳥丸まで曳き廻り失れよ
 り隨意に各鉦町へ曳戻るのである、二十四日

は三條室町以西の鉾町より各山鉾を曳出し順次三條通りを寺町へ寺町通を四條へ四條通を室町へ曳き廻り夫より隨意各鉾町へ歸還するのである、この兩日とも氏子各町は幔幕を張り、各家所有の有名なる屏風を羅列し、其優美なること人目を驚かしむ、

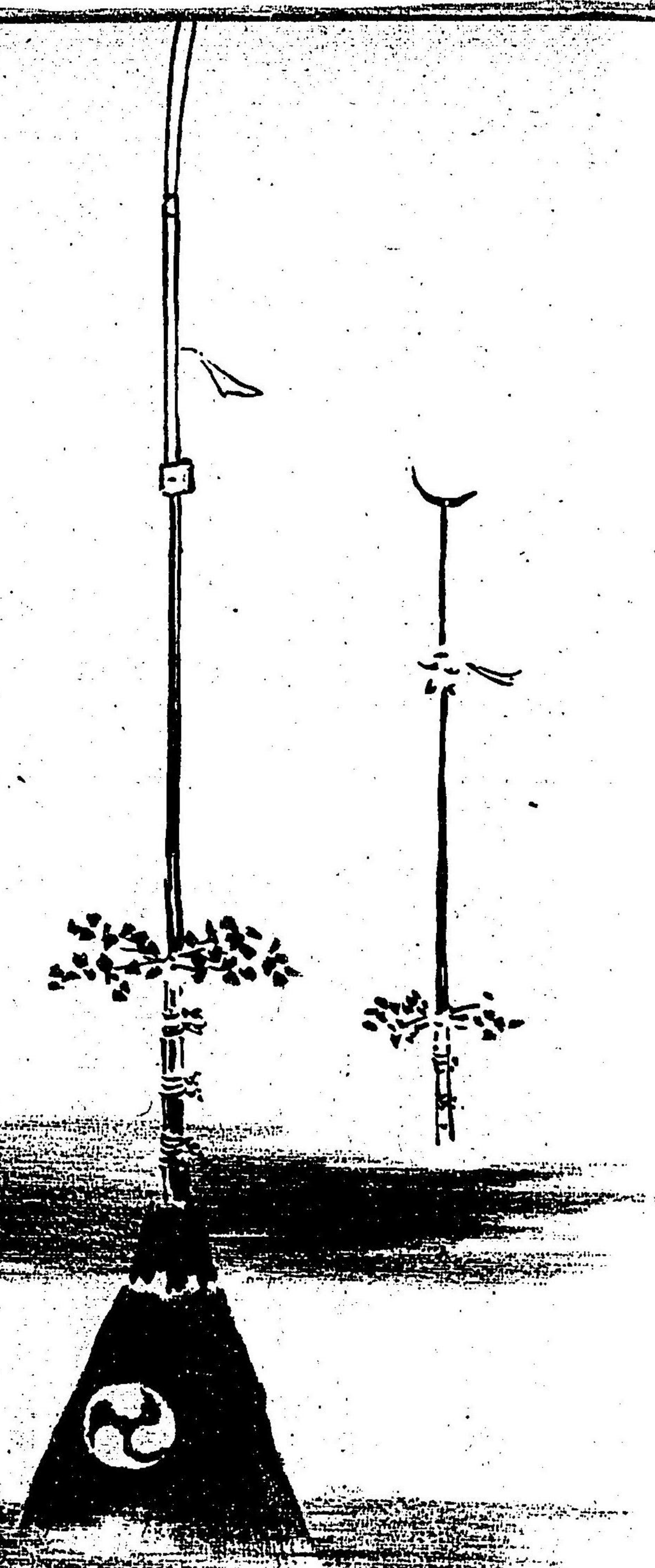
山鉾や四條左右の綾にしき 月九
 鉾に乗る人のきはひも都哉 其角
 月鉾や松原西へ入佐山 佑徳

八阪神社に毎年十二月三十一日に削掛の神事あり世におげら詣りと云ふ正當は元日拂曉寅の刻に昔ばありしなり參詣の人群集し火繩に神前の篝火の火を移し持歸りて元日雜煮をたくの料となす終夜いと賑し

元の八阪神社南門へ戻り茲より東に向へは石壘を敷き詰めたる通路あり兩側には松林ありて翠綠滴たらんとする一佳境は

●東大谷にして眞宗大谷派本願寺の廟所なり、同宗門徒の遺骨を納むる處にして、堂宇壯麗を極む、親鸞上人の廟所は後の山腹にあり、元祿年間の造營なりこの西南に

●雙林寺あり傳教大師の開基にして初め天台宗なりが後國阿上人茲に住し時宗となれば、本尊は傳教大師作の樂師佛にして本堂の傍に平康頼の墓を中央に西行、頓阿の三墓相並べり、萩の名所なり、西行庵は當寺の西南にあり西行頓阿の像を安んず、庭に西行



戊申と姑洗

五門子



櫻あり隣に芭蕉堂あり其北に大雅堂ありしが
今開けて公園となり、故田熊村直入翁が去る
二十九年に建設したる石碑あり▲料亭は水琴
亭▲月見樓あり何れも安直に勉強せり

ねがはくは花のもとにて春しなん
その二月のもち月の比 西行
あとしめて見ぬ世の春を忍ふかな

◎長樂寺 東大谷の北にあり傳教大師の古刹
にして唐土の長樂精舎に似たるを以て此名あり、
其後ち年を経るに從ひ頽廢せるを國阿上人中興せり
本尊は hands 十一面觀世音にして、什寶に安徳天皇御衣の幡あり、御母建禮

門院西國より御歸洛の後、當寺に於て御落飾
あり其御布施として天皇の御衣を賜ひしなり
と山上に頼山陽及春琴居士、新島襄氏等の
墓ありこの後山に

◎將軍塚 あり桓武帝平安城を奠め玉ひし時
八尺の土偶を作り、甲冑を着せ、弓箭を持た
せ、西向にして此山上に埋め永く京都の守護
神となし玉ふ、されば天下に災害あらんとす
る時は此塚必ず鳴動すと、山上の眺望極めて
廣潤なり、去る三十九年圓山公園也阿彌及
平野屋と再度出火し附近の家屋を燒棄せしよ
り市役所にて再築を許さず、市會の決議を
經て長樂寺山腹より圓山一帯を一大公園と成

さん計畫中なれば近き將來に於て實現せらるゝならん

◎圓山公園 は舊比叡山に屬せる圓山安養寺と稱ふる寺院のありし跡にて現今は京都唯一の公園となり、緑樹芳草四時の美を備へ、櫻紅楓さては雪景色など一年中の眺め盡さる事なく殊に有名なるは中央小丘の上にある、枝垂櫻にして一株の幹太く枝繁り恰も林の如く毎年四月の初め花開くや夜に入れば花下に輝を焚き火光花に映する趣は恰ながら瑤瑤の空にかゝる如く其美観言語に絶す、之れを祇園の夜櫻といふ茲へ集ふ士女幾萬人歌ふも舞ふも皆花に酔はざるはなく、一本の櫻にして斯

も人を吸引するやと驚かされたり北側に▲しまや茶店あり、祇園園子に酒ビールを供し南側の▲津の清支店も負けずに勉強し、一丁程東山上には▲左阿彌料理店▲樂亭▲朝暉亭等は料理に勉強して客を迎へ▲也阿彌ホテルは焼失後幾分残りたる家屋にて營業すれども振はず、其他温泉、瀧の屋など有名な家は焼失後憐れ滅亡の姿にて恰も羅馬古城跡を観るの想あり、元へ戻りて櫻の處を北へ行けば▲芋棒の名物半野屋支店はいつも忙しそう、この西松原に馬場と云ふ貸馬競馬場がある老が身も花にうかるゝたのしさを
思へば御代の恵みなり是 見親王

◎知恩院は 圓山の北にあり華頂山大谷寺と號す、淨土宗の總本山にして元は叡山の別院南禪寺に屬せしが山門十二代の座主慈鎮和尚之れを法然上人に與へしより一向專修の爲め遂に淨土宗を此處に開き又たこゝにて入寂せられたり山門に掲ぐる金字額は後奈良天皇の宸筆なり櫻門の上には寶冠釋迦佛、及十六羅漢等安置す、風景頗るよし、本堂は東西貳拾貳間五尺南北拾七間三尺五寸あり世に名高き知恩院の傘は東南の隅の檐に扱まれ廻廊三百間は左甚五郎の作、簷張の廊下と云ふ、茲を歩むときはさながら林を隔て、鶯を聞くに似たり、各室の襖子の畫は狩野大家の手に成

り板雀八方睨の猫など尤も著明なり、本堂東の山上に開祖圓光大師の塔あり、阿彌陀堂再建工事は三拾八萬五千圓の豫算を以て起工し明治四拾貳年四月竣工の上は一大偉觀を呈するならん、東南山上の鐘は寛永年中鑄る處にして高さ一丈八寸徑り九尺巾九寸五分重量千餘萬斤宇内屈指の巨鐘なり境内に櫻多く糸櫻淺黄櫻等名高し、住職は山下現有師が勤めらるゝ
◎法足谷 知恩院鐘堂の東一丁程の山上にあり往古法然上人が眞宗 開祖親鸞上人へ一向專念他力大本願の主義を傳承したる舊跡にして爲に法足谷の名あり 後世初更に此處より檢出づる爲に法足谷と呼びなせり

●青蓮院 は武丁程北にあり天台座主法親王住持の舊地にして世に粟田宮又は青蓮院宮と稱す開祖は傳教大師にして行立大僧正中興とす代々法親王の住職なりしが現今は三津源深師である、御歴代中曾圓親王大に書道に精し什寶の内見るべきものはこの筆蹟なり、宸殿は壯麗にして庭園は相阿彌の作にて風趣あり襖杉戸の書は皆名家の筆なり、立關の傍に親鸞上人車止の松同駒繫ぎの櫻あり、明治貳拾六年九月殿堂焼失せしが再建に及べり寶物展覽せらる茲の前に▲骨董貿易商山中吉郎兵衛支店あり建築廣大にして外國人の來往頻繁なり

●青蓮院の三徳の歌軸 は青蓮院の宮第貳拾貳代一品尊遊法親王は非常に猿を好まき三徳親王とまで稱せられし程なるが同法親王自詠自録の三徳の歌軸は今尙ほ同院の寶物として保存せまありしが、四十一年は戊申の干支に依り京都帝室博物館より其出品を求めしも青蓮院にては戊申に際せる事とて出品を斷りしより今其の首歌を聞くに左の如し
何事もみまはこりけにむつかしき
みざるにまざる事はあらじな
聞けばこり望みもおこま願もたて
きかざるにけにまざるなりけり
ぬにはなにはの事をおもふとも
人のあしきないはざるぞ興甚
●植髮堂 は親鸞上人九才の時慈鏡和尚につき剃髮せられたる遺跡にして本尊は阿彌陀佛右に上人植髮の三尺計りの立像あり、こは小葵の直衣に薄紅梅の衣、紫の指貫を着して雲慶縁りの褥の上に立の給ふ、これ眞宗門徒

の渴仰する處、賽入常に多き所以である、茲の北道を西へ行くと
●栗田庚申堂 がある天台宗尊勝院の本堂に安置しある、庚申尊は傳教大師の作にして天台圓融の三諦を表示したものであると云ふ、毎月七日日に縁日店が出て賑ふ、茲の前を白川筋へ出で南へ二三軒行くと餅屋がある、茲の裏に
●明智光秀の首塚 があるれども癩類して見る影もなく、先年歌舞伎座にて市川團藏が光秀を演じたる時茲に參詣した事がある、茲の隣に▲京都陶磁器合資會社とて栗田焼の貿易店がある其南に白川友仙モスリンで有名なりし

堀川新三郡の工場を買収したる▲日本捺染株式會社が盛んに營業して居る、向ひ側に▲漆器の都益と桶を拵へて居る荒川善吉▲中山醫師など重で茲を三條へ來ると
●白川橋 である水源は伊賀山中より出で鹿が谷南禪寺を経て此處を通り知恩院門前より大和橋を過ぎて疏水運河へ流れ落つるのである、橋の袂に巡查派出所がある、少し東に▲西村シャツ店▲都酒造元安田貞一郎等が目立つてある、茲の細道を壹丁北へ行くと▲七寶細工で有名なる並川靖之にて帝室技藝委員の名譽家である隣は▲庭石植木商の小川治兵衛で、元の三條へ戻ると▲栗田焼貿易商の桶

部千之助の宅、こゝを東へ半丁行けば廣道である青蓮院を北へ來るとこゝへ出るのである西北角に▲安達鐵之助とて旅館及中食に勉強して居る、こゝの東半丁程に▲陶器貿易にて有名なる錦光山宗兵衛の店がある職工を多く使役し輸出の荷造りさへ晝夜の別ちなく勉強して居る、こゝより少し東に

●栗田神社 あり丘上にして眺望殊に好く疏水、南禅寺等は眼下にあり毎年十月十五日私祭執行あり大に賑ふ、元の三條通りへ戻り東に目立つは▲陶器師の侯野祥山▲造酒家瀬川菊之助等で、維新前までは栗田口的首斬場とて東京の鈴ヶ森と同じく斬首の刑場であつた

が御代太平と共に今は其場所趾さへ見出すに苦しむ、東に向へば巍然として聳ゆる洋館の大建築を見るこれ▲大日本ホテルにして吉水園といふ丘上にあり外國人の旅館として日本第一流にて客室總ての設備完備し、加ふるに、風景絶佳、洛の中外は一瞬の許に集め、觀光遊士の旅館としては尤も適當の場處なりとて、宿泊外人非常に多しこれより西に向ひ元の廣道へ戻り北に行けば半丁計りに▲奥村猛の電機工場あり近頃煙草製造の器械を發明して政府に貢獻したる所多しと賞讃せられあり▲西向ふに山田啓助の氷製造場がある▲其向ひにミカドモスリンを製造して名聲

を博せし小西愛之助の工場等が目立つのである、夫から疏水慶流橋を渡りて突き當れば

●平安神宮 に至る桓武天皇の尊靈を奉祀する宮殿にして官幣大社なり、明治貳拾八年平安遷都一千百年祭を舉行あるや、殿社を造營しまだ大極殿、應天門を模倣し一に延曆の舊制に倣ひ、宏壯華麗京洛の一大偉觀を添へぬ、應天門は二層樓にして高さ六拾四尺壇上に立ち、碧瓦朱盈、巍然として聳ゆ、同門より北三十三間にして龍尾壇あり、其北は即ち大極殿なり、殿は高さ五十五尺中央を身舎とし之れを周りて入側あり、屋頭の二樓は東を蒼龍と云ひ西を白虎と云ふ、いづれも碧瓦朱

盈にして、棟の兩端には金銅の鴉尾燦爛として輝く、本殿は破風造檜皮葺にして、總て檜の白木を用ゆ、社後に神苑あり樹石清楚にして二大池あり三秋の眺め京洛第一とす、前面一帶は岡崎公園にして區域廣大なり、宮司は日野西光善氏が勤められて居る、

●時代祭 は平安神宮の私祭にして、毎年十月二十二日之れを行ふ、こは桓武天皇遷都以來千百年間の文物制度の變更せし時代を區別して當時の行粧を模し出して祭典と爲すものにて、其行列は第一徳川城使上洛式、第二織田上洛式、第三城南流鏑式、第四藤原文官參朝式、第五延曆武官凱旋式、第六延曆文

官製朝式にして、列外に山國隊弓箭隊あり、燦爛たる古代の甲冑より、古雅の衣冠、整肅の社祓、さてはヒーサーイ、ヤトマカセの槍奴より雲助まで走馬燈の如く市役所より市中の要路を行列して平安神宮に還り、風釐も同じく神幸あり、實に日本無比の美觀なり

◎武德殿 は平安神宮の西隣にあり古しへ桓武帝が大内裏に武德殿を造營し給ひ、専ら武技を奨勵し玉ひし宏謀を仰ぎ、明治武拾八年志士相謀りて武德會を設立し、總裁に伏見宮殿下を頂き、全國に支部を置きたるに戦後尙武業の盛んなる爲め會員は非常の多數となつた、現今の建築は明治三十二年に建築竣工し

たるものにして、毎年五月四日平安神宮にて武德祭を行ひ、大會を武德殿に開き全國の武術家會合し各種の武術を演じ、斯道を作興するにあり前面一帯は櫻馬場とて競馬場あり、近來競馬熱の勃興に際して大に競技も盛んとなり、又た時々自転車競争會の催もこゝである、疏水には遊泳場を設けてある、平安神宮の東に

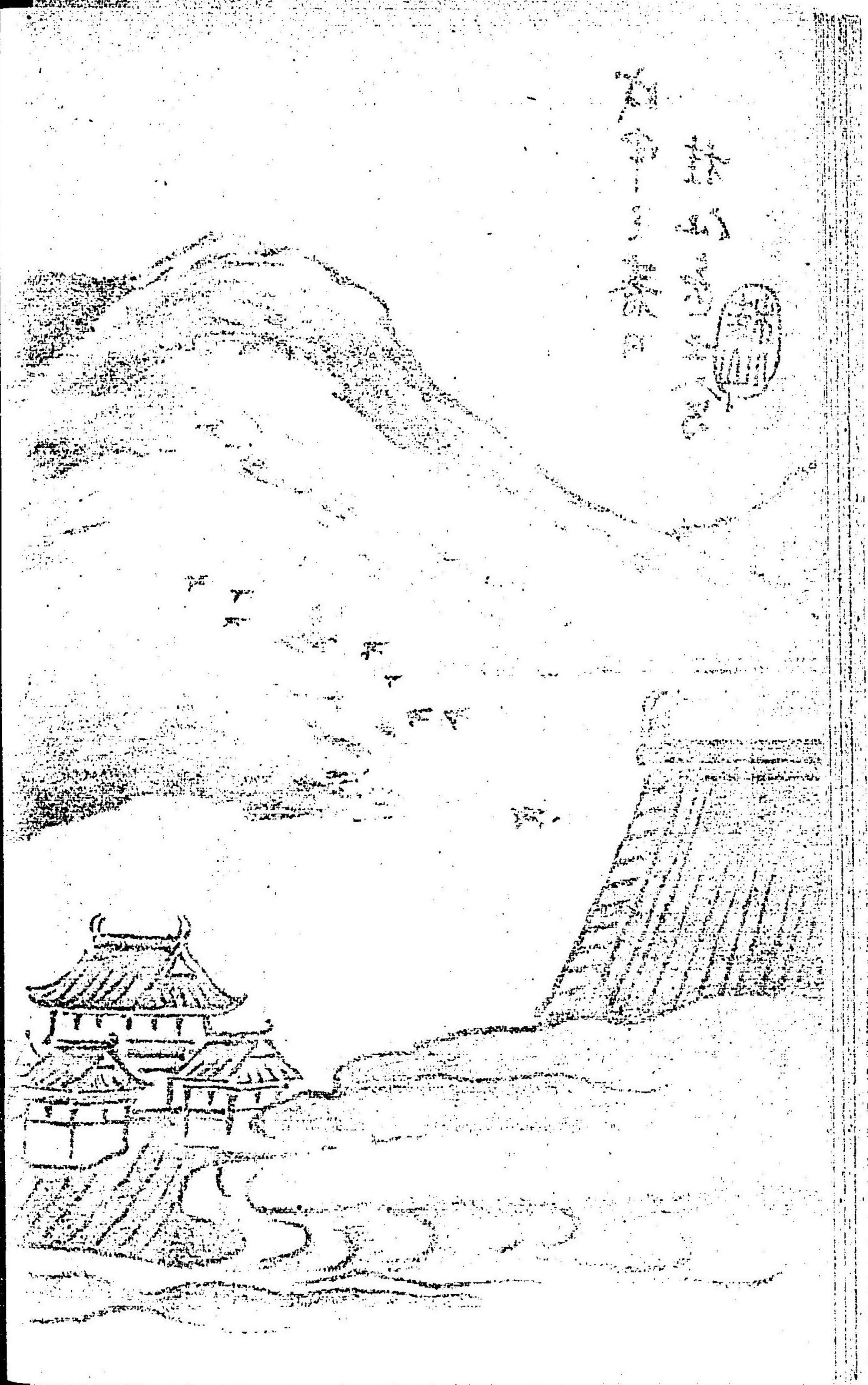
◎美術館 あり本館は第四回内國博覽會の美術館を京都市に請受けたる遺物にして、庭園を改修して、年々春四月より二ヶ月間程新古美術展覽會を開き、書畫、彫刻、詩繪、陶磁器、金屬、織物、刺繡、染物等の新古美術



戊申之春日

桂仁居士





京都府立図書館
蔵書

品を展覧せしむ、この前に

●博覧會 あり本館も同じく第四回内國博覧會の工業館の遺物にして、京都市に請受け改造して、毎年春秋二回 製産品博覧會又は共進會の名義にて開會し、京都特産物は元より近府縣の織物、染物、陶磁器、金屬、刺繡、扇子、漆器、糸組物、食料品、諸機械の陳列及製作等を爲して觀覽せしむ、この南に廣場がある、

●市立商品陳列所 で明治三十九年十一月から起工して目今工事中だが既に一層及二層の外廊煉瓦組立及び一層の床板張は終了せるが倉田技師監督にて工事費總計拾七萬三千七百

九十六圓にて本館、事務所、外柵、會議室、庭園築造費等に宛て本年九月中には全部竣成する由此向 側 櫻馬場東方に

●府立圖書館 これ又工事中にて同じく明治三十九年十一月二十五日より三ヶ年間繼續の目的にて起工し總計十一萬二千七百九十三圓を以て武田技師監督の下に工事を急ぎつゝあり、本館は前面二層後面三層の煉化石造にして暖房装置電燈装置等を爲し全部の竣成は本年十二月中ならんが兩工事とも竣功の曉は岡崎公園全帯に偉彩を放つに至らん、再び平安神宮に戻り裏手に行く

●相輪様 がある平安奠都の際傳教大師が王

博覧會、府立圖書館

城鎮護の爲め叡山に相輪橋を建てしに倣ひ、明治二十八年遷都祭執行の際こゝに建立することとなり、明治三十五年六月落成せり、橋の高さ六十一尺にして、上面に青銅の九輪を嵌し、頂上に鍍金寶珠を安んず、正面なる平安遷都紀念様の七大字は、小松彰仁親王殿下の染筆であるこゝを東に廣道を南へ行くと博覽會の東南に

●動物園 がある明治三十三年東宮殿下御慶事奉祝紀念會の紀念事業として建設したるものにて目今京都市役所にて之れを監理し、珍禽奇獸を收容し殊に猩々、猿、大蛇、豹、獅子、虎、象、鶴、孔雀等を飼養し、四方は石垣を壘み、園中には丘をつくり池を穿ち壯大なる噴水を設け、樹木花卉を栽へ遠く東山北山を眺め園内宏大にして眺望絶佳なり春夏秋冬共に子供を連れての散策には好適の場所にして、遊覽の傍ら教育の智識を増さしむる所である、こゝより電車道を傳て東南に至れば

●疏水運河 インクラインなり明治十八年時の府知事北垣國道男の起工にして同二十五年に竣工したる大工事で東口は近江の琵琶湖に出で三井寺の麓を穿ち二千三百七十餘間の隧道を通じ、西口は宇治郡山科に至り更に曲折して日岡山に達し、又た六百餘間の隧道を過ぎて南禪寺の南麓上げに出でこゝに二線とな

り一は南禪寺の棧橋を流れて若王子より鹿ヶ谷浄土寺を過ぎ、白川村邊より西に高野川の水道鐵橋を越へ下鴨村を経て鴨川の川底を潜りて市の北部堀川の上流に合す、一は即ち水利事務所に入りてこゝに非常なる電動力を起し之れを利用してインクライン即ち船が山に登はると云傳ふる船の上げ下げをなして迎河の連絡を司るを始めとし、京都市内の電氣燈電車の運轉、各工場機械運轉等皆これ電力に依つて發達しつゝある、其流れは西へ白川を横ぎり曲折して丸太橋の下より鴨川の新運河に瀉ぎ出づるなり、伏見へ至る線路中處々に開門及び船溜處がある、インクラインの山

上即ち蹴上から大津三井寺下迄毎日數回通船の往復がある、賃錢が安き爲め乗船する人多く年中繁忙を極めて居る、殊に夏季は乗船して大津に至る又た愉快なり、此邊は釣道樂の遊び場所である▲蹴上げ東に花島温泉甚五櫻がある、こゝは陸を大津に行く街道であるこの邊北部全体は

●南禪寺 である、瑞龍山太平興國南禪寺と號し臨濟宗の本山なり、開山は大明國師で、昔は三井寺の別院最勝寺と云ひ智道僧正住せしが、弘安年間龜山法皇離宮をこゝに造營ありしより、正應の始め官中に妖怪出で障りをなせしより、陰陽師に命じて之れを占はしめ

しに道智の靈此地を愛惜して斯く障りをなす
と依て顯密の名僧に命じて之れを攘はしめど
も妖怪尙を止まず、こゝに於て東福寺の藤山
無關和尙を召し玉ひしに妖怪忽ち姿を匿せし
より、上下始めて安泰せり、法皇御感の餘り
宮を葺め之れを國師に賜ひ伽藍となし、後五
山の上と定め玉ふ、山門は五鳳樓と云ひ、寛
永四年藤堂高虎の再建にして、閣上に釋迦及
ひ十六羅漢を安んじ、又大阪陣の從者の討死
せし徒の靈牌を安んず、世俗傳へて石川五右
衛門此樓上に潜伏せしと云ふ、佛殿は明治二
十八年一月焼失したるより、明治三十六年七
月一日本堂工事費十六萬八千圓附屬工事費三

千百五十圓、佛壇千八百圓佛具費一萬圓合計
十八萬二千九百五十圓の豫算を以て工を起し
來る六月中には全部竣工の見込なりと、天井
は舊冬より畫家今尾景年氏が直經三十六尺の
雲龍を揮毫せしと云ふ、方丈は下賜の清涼殿
と桃山城の建物にして、襖の繪は狩野諸名家
の筆になり、殊に探幽の水呑の虎は名高し、
南禪院は佛殿の南にあり龜山上皇上宮の跡
にして、徳川時代の再建にかゝり、襖は狩野
常信なり林泉又好く、中門の西南に金地院
には東照宮廟あり、庭園は鶴龜の庭と稱し小
堀遠州の作にて有名なり、山門前の大石燈籠
は佐久間大膳亮平勝之の献造にして今一個

は尾張の熱田神社に献納しあり、山門を入り
て右方の山腹に龜山院の御陵あり、天授庵に
は開祖大明國師の墓あり、本堂の傍より東に
進み山徑を數町行けば駒ヶ瀧あり巨巖左右に
岨ち飛泉其間より落つ老樹蒼蒼として畫尙を
暗し古來こゝを神仙の佳境と稱し、行者等の
籠ることあり、南禪寺は三月一日より五月三十日迄寶物
展覧あり

頼 山陽

第二橋頭雨後泥。 村園門巷路東西。
遇人休問南禪寺。 一帶青松路不迷。
松かげの間は寒き小春かな 芹舎
此附近は別荘の好適地とて山縣大將の無隣庵

永觀堂

▲市田彌一郎別荘 ▲大橋鐵三郎 ▲久保貢 ▲横
堀工學博士 ▲工場には製綿商の錦商會あり
▲料亭は瓢亭とて名高きものあり外人の別荘
も多くなりこゝを北へ二丁許りに
●永觀堂 あり來迎山禪林寺といふ、淨土宗
西山派の本山にして、無量壽院とも稱した
俗に永觀堂と稱す、開基は眞紹僧都にして中
興は淨音和尙なり、齊衡年中の創立にて此寺
始めは藤原關雄が山莊なりしも、文徳帝の御
宇眞紹僧都請ふて佛刹とす、本尊は願勝の阿
彌陀佛と稱し世に名高し、第二世宗叡の時清
和天皇之れを歸依し玉ひ、眞觀五年禪林寺の
名を賜ふ、其後十四世を経て永觀律師が長朝

佛前に於て行道念佛せしが、本尊佛檀を下りて共に行道す律師奇異の感を起し暫時乾の方に向ひて躊躇せしかば、彌陀佛左を履みて永観還しと宣ふ、其後面貌元に復らず、之れを本堂に安んず、立像高さ三尺餘りありかゝる事より堂を永観堂と云ふ、又來迎山と云ふは寛治二年九月八日の夜永観聲を屬まして念佛しける時忽ち光明赫然として、門に入りて聖衆來迎し庭前松樹の上に星の如く集合せしに因り名あり、門に入りて右方に蓮池あり、池畔一面に榎樹あり、晩秋の候は恰かも錦繡を晒すが如し、祖師堂には善導大師自作の像を安んじ、廟堂には圓光大師の像を安置す寶物

展覧あり

うるはしく染し色には佛さへ

希烈

かへりみすらん庭のみみち葉
●若王子神社 永観堂の北三丁許にあり此山は皇居の東に當るを以て正東山と稱したり、祭神は熊野大権現にして永曆年中の創立なり後白川天皇深く熊野神靈を尊崇し給ひ茲に勸請す、中世甚だ荒廢せしを安政年中有志者ありて修繕し、今日に至れり、境内に櫻、榎樹多く、山中に三條の瀑あり高さ各一丈餘あり三の瀧を如意瀧第二を千手瀧第一を十一面瀧といふ、三伏避暑に來る者多く四邊幽邃にして晩秋楓葉の候と共に遊人群集す

東山多勝概。此境別成天。新樹最堪愛。殘芳誰不憐。七層外林塔。一曲戸前泉。卒爾賽酬句。雷爲後日緣。名にたかき瀧の白糸されはこそ 有功

花の錦もおりのいたしけれ

この附近に故田能村直入翁の邸あり今は小笠小齋が居られる畫人堂は同翁の創建にして遺跡とす、洋畫家伊藤快彦氏も茲に居を控へて居らるゝ。

●黒谷金戒光明寺 は永観堂の北西にある淨土宗鎮西流の本山なり、開山法然上人が叡山西塔の黒谷より、移りて茲に幽栖せしより新

黒谷の名ありしが、後ち單に黒谷と稱す、本堂には法然上人自作の像を安んじ堂前に一株の老松がある、鐘懸松といふ熊谷直實上人につき髪を薙す時、其着せし鐘を池水に洗ひ、此松が枝にかけしより斯く名くと、東に行けば蓮池を過て熊谷堂、勢至堂并に熊谷直實、平敦盛の二塔あり、又石階の上なる山の半腹に文珠塔あり、日本三文珠の一とす、紫雲石は塔の北半丁許りの小堂にあり、傳へ云ふ法然上人此石上に坐し佛法有縁の地を祈りしに、忽ち紫雲靄として石下より起る、依りて隨喜して本山を開く即ち當山第一の靈蹟なりと、反古庵は西翁院にあり、淀見の茶室と

稱し藤村庸軒の作にて有名なり、當山第一の
什物として秘藏せる一枚起請文と稱するは法
然上人鴨大神宮の神勅に依り淨土安心の要文
を書きたるなりと傳ふ、三月十五日よりニケ

一枚起請文

もろこし我朝に諸の智者達の沙汰し申さるゝ觀念のねんに
もあらず又學問をして念のころをとりて申す念佛にも
あらず唯往生極樂の爲めには南無阿彌陀佛と申して疑なく
往生するぞと思ひとりて申す外には別の仔細候はず但し三
心四修中す事の候は皆決定して南無阿彌陀佛にて往生す
るぞと思ふ内にこもり候なり此外に奥深き事を存せば二尊
のあわれみにはづま本願にも候べし念佛を信ぜん人はた
とひ一代の法を能く／＼學すとも一文不知の愚鈍の爲にな
して尼入道の無智のこもがらに同して智者のふるまひなせ
ずして只一向に念佛すべし

爲證以三兩手印一

淨土宗の安心起行此一紙に至極せり源空が所存此外に全く

別儀を存せず滅後の邪儀を防せんがために所存を記るし
畢んぬ

建曆二年正月二十三日

源空 在判

遠山 雲如

華鯨一吼晚涼微。想像英雄剃度時。

放下屠刀即成佛。清風薰徹白蓮池。

佐々木信綱

黒谷のあけの鳴鐘る花うりの

少女が聲す夢さめなくに

黒谷のとなりは白き蕎麥の花 蕪村

◎眞如堂 黒谷の北に隣る天台宗にして鈴聲

山正眞極樂寺と稱す、開山戒算上人永觀二

年白河女院の離宮を請ふて伽藍となせしなり



眞如堂
源空



吉田神社

本尊阿彌陀佛は慈覺大師が江州志賀郡苗鹿明
神より授かりし神木を以て彫造せしものなり
と、本堂の外三大師堂、樂師堂、三重他寶塔
等あり、境内に楓樹多く三秋の眺め絶佳にし
て詩人雅人は多く集へり、四月一日より五月三十日迄寶物展
覧あり

梁川 星巖

半山樓閣影重々。紅樹白雲多麗容。

中有故人新墓在。眞如堂下張停節。

すいしさは野山にみへる念佛哉 去來

◎吉田神社 眞如堂の西神樂岡にあり、官弊
中社にして祭神は武甕槌神、齊主神、天津兒
屋根命、比賣大神の四柱なり、貞觀二年中納

言藤原山蔭始めて祀る處にして、當社は奈良
春日神社と同じく藤原氏の崇敬せし處なり奈
長朝の昔は春日社を以て氏神とし平安城の時
は吉田社を以て氏神とすといひ傳ふ、此邊は
吉田山神樂岡と稱し南北四五丁の岳にして、
某神書に上古、事勝神加茂神以所に集ひて神
岡を奉じ玉ひしより此名ありといふ眺望絶佳
春花秋月共によし

岩垣 月州

松陰争席坐斜陽。羅綺滿山雲樹香。

都是洛陽城裡客。却臨城裡賞烟光。

◎卜部家齋場 吉田山にあり本殿は八角造の
萱葺にして、日本最上日高日宮の大額は嵯峨

天皇の宸筆、大元宮元本八神殿の小額は後土御門天皇の宸筆なり、八神殿は本殿の後にあり、神産日神、高御産日神等の八座を祀り、其他外宮、内宮及び日本國中總攝社三千六十三神の各國別の社祠駢列せり境内いと神々し萬代を早四かへりの霜をへて 兼熙

たへぬ吉田の神祭かな

◎宗忠神社 同所にあり祭神は神道黒住派教祖宗忠にして鎮座は文久貳年なり慶應初年勅願處となり、翌年從四位の神階を宣下せられ且屢々金幣を賜り、又貴顯の献物等ありて派下の信敬大かたならず、冥驗顯著なり、こゝより北東に向へば鹿ヶ谷町に出ず、

◎靈鑑寺 は字谷口にあり、禪宗にして本尊は不動明王を安んず開基は後水尾帝皇女靈鑑尼公にして比丘尼御所と稱し代々尼僧の住持とはなりぬこゝより少し北に

◎安樂寺 あり住蓮山といふ、淨土宗にして往昔法然上人 徒弟住蓮、安樂の二僧此處にて一向專念の念佛を唱へしに、後鳥羽上皇の寵姫鈴虫松虫發心なし、潜かに大内を忍び出で此庵に入りて尼となる、上皇大に怒り二僧を死罪に處し、其師法然上人を土佐に流し給ふ、是れより庵室久しく廢せしを、後人再建せしなり、住蓮、安樂の二師塔は北の門側にあり、松虫鈴虫塔は堂前東の方丘上にあり

境内幽寂にして閑雅なり、こゝの北に

◎法然院 あり往古法然上人如法念佛の古跡にして、中頃久しく廢頽せしを、延寶年間知恩院の萬無上人、其徒弟忍微和尚に命じて再興せしむ、本堂に惠心僧都作阿彌陀佛、法然上人自作の像を安置す、方丈は桃山御殿の遺物を移し前庭の錫杖水はいと清冽なり、地藏堂は東山麓の高處にあり、右龕にして立像五尺四寸の紫銅地藏尊にて忍微和尚の作なり、經藏は門内西面にあり、明本北藏大藏經を藏す、五年の歲月を経て校正せしものにて天下稀有の美本なり、阿育王塔は門前東山腹にあり、巨大なる石塔巍然として四邊は青苔

註の如し、境内は鐘磬曲かに響きて無比の清淨界なり、はげしくも嵐吹おろすし、が谷 忠秋 ぼゆるや松のひびきなるらん

◎如意嶽 鹿ヶ谷町の東にあり一に大文字山といふ、東山の首峯にして比叡山と相對して別に一山脈をなす、此山の著名なるは大文字山とて毎年八月十六日大字形の精靈送り火を焚くにあり、大字は弘法大師の筆なりしが、後世に至り其痕を埋もれしより足利義政の時横川和尚に命じ元の如く作らしめたりと、光明赫赫として京洛を照らし頗る偉觀なり、山中に樓門の瀟あり高さ九尺三寸遙かに望めば

法然院、如意嶽

練糸の樹頭より垂るゝに似たり、其傍に談合谷あり即ち往昔法勝寺の執行俊寛僧都の山莊ありし處にして、僧都が藤原成親、平康賴等と平家討滅の密議を凝せし舊跡なり、山上より近江國三井寺に出る路あり、之れを如意越といふ行程二里なり

むすびつゝ鹿が谷間のいはしみず 重伴

もれすば遠く流れさらまし

●銀閣寺 はこゝより西淨土寺村にあり、文明十五年足利義政茲に邸宅を新築して移る天子勅して東山殿の號を賜へり義政歿後遺命に依り寺となし、其法名慈照院を取りて慈照寺と稱し夢窓國師の開基とす、銀閣あるを以て

銀閣寺ともいふ、銀閣は二層閣にして上層を心空殿といひ、下層を潮音閣といふ、閣の楹上には運慶作の觀世音座像を安んず、東求堂には義政雅製の像を安ず、其東端に茶室あり義政茶宴の處にして茶家の稱する四疊半釣釜の濫觴なり、其遠棚張付の梅の畫は古法眼の筆になり、其他名家の筆になれるもの多く、林泉は相阿彌の作にして後世庭園の好模範を示したるもの後の山を月待山と云ひ洗月泉、落照岡、銀沙灘、向月台等あり橋には分界橋迎仙橋、濯錦橋、臥雲橋等あり石には天柱石峯回石、雁峰石、北斗石、落星石等ありて一樹一石たりとも皆園藝の妙致を盡さるなく

實に東山時代の驕奢を觀る參考ともなり落西金閣寺と對照して共に名高く京都來遊客の必ず一遊を試むべき所なり常に寶物及殿堂庭園の拜觀を許され寺僧その講説を巧みにす

●百萬遍 銀閣寺より西、田中村の東にあり長徳山知恩寺と稱す淨土宗鐵西派四個本山の一にして開基は慈覺大師なり、始め天台宗なりしが法然上人爰に住して法要を談せしより遂に今の宗旨となる、第八世空圓善阿上人の時、元弘元年秋國中疫癘流行し民の死するも其數を知らず後醍醐天皇之れを憂へ善阿上人に勅して之れを祈念せしめしに、善阿七日を限り専心念佛する事百萬遍に及び疫癘忽ち

止む天皇歡感の余り當寺に百萬遍の號を賜ひ又弘法大師の書せし六字の名號を賜ふ本堂には宗祖圓光大師の坐像を安じ大師堂には慈覺大師自作の釋迦牟尼佛を安んず、境内櫻樹多く花時又美觀を呈す。

●千菜寺 百萬遍の西にあり淨土宗知恩院に屬す、往昔豐太閤の參詣の際千菜を献じたるが其味淡泊なるを賞せられ、千菜山光福寺の號を與へられしより此名あり、又孟蘭盆會に市内へ出する六齋念佛とて異形の踊念佛は當寺より始まりしとぞ、爰を西に三丁程出づれば鴨川に架せる出町橋がある、开處に▲柳茶屋がある橋を渡りて北に向へば橋あり、葵

橋である、爰を渡れば

●下鴨神社 なり官弊大社にして賀茂御祖神社と稱す、祭神は東殿に玉依姫命、西殿に大山昨神なり欽明天皇の御宇の創祀にして天武天皇白鳳五年始めて造營せらる其後桓武帝遷都以來、山城國の産土神として歷代帝王の列に崇敬し玉ひ屢々行幸もありき毎年卯月酉の日に内裏より勅使を遣はされ、いと嚴なる祭典ありこれ世に名高き葵祭にして當時は毎年五月十五日執舊皇居より花傘、御車、鳳輦勅使、奉幣使等隨從せられ古代の儀式を以て當社へ參向し式典を擧げ更に上加茂別雷神社へ參向せらるゝのである、境内老松古杉陰

鬱として社頭に糸の森あり、靈泉湧出で下流を御手洗川と云ふ夏時避暑に適し來遊者群を爲せり、

神仙やとしに一度のあふ草

宗雅

よけて幾千代惠みとふらむ

●奇樹 下鴨御祖神社の末社格野神社に、獻木して植付せば如何なる木と雖も次第々々格に木と、變木すること奇妙なり現に今尚ほ半ば化しつゝあるものもありて、其奇なるに驚かぬ人なし

▲附近に料理店ひかさ茶屋あり ▲東部に高野川あり開處に ▲鐘淵紡績會社の絹絲工場がある 瀧川定治氏監督し尙工場は増築中である少し北に ▲都染合名會社あり浴衣地大島風通

等の染物が實に巧に出来る支配人岡野小三郎氏が専ら擔任して居られる、元の出町橋へ戻り西に行くとは榊形である、茲は八瀬や大原や田中、岩倉等へ往復する郡部と市部との境界で種子物やら様々の店がある爰を二丁程西に寺町頭がある、即ち寺町通今出川北入る處にして東側に寺院の建て連なれり、开處にて阿彌陀寺 あり蓮台山と號し、淨土宗にして百萬遍に屬す、本尊彌陀佛は弘法大師の作にて開基は清玉上人である、織田信長信忠の墓並に本能寺忠死者の墓あり、天正年中上立賣大宮東入る所より茲處へ移せしなりと、其南に

阿彌陀寺、本満寺、本禪寺

●本満寺 あり廣宣流布山本願満足と號す日蓮宗一教派の本山なり開祖日秀上人は近衛關白道嗣公の公達なり當山を建立し又た伏見墨染寺の中興となる祖師堂に安置せる像は讀經の御影と稱して名高し、こゝを南へ今出川南入る所に ▲萬西齋油店 ▲人造絹糸發明者坂根清一 ▲福知賣藥店等が重立つた處その南に ▲本禪寺 あり光了山と號す日蓮宗勝劣派の本山にて、開基は日陣上人あり當山立像釋迦佛は海中出現の靈佛にて世に火中不燒の尊像として名高く參詣入常に絶へず、この境内に ▲慈愛手藝學校とて市内の貧兒に手藝を教ゆる學校あり京都婦人慈善會の設立にて木村時

義氏校長なり少し南に

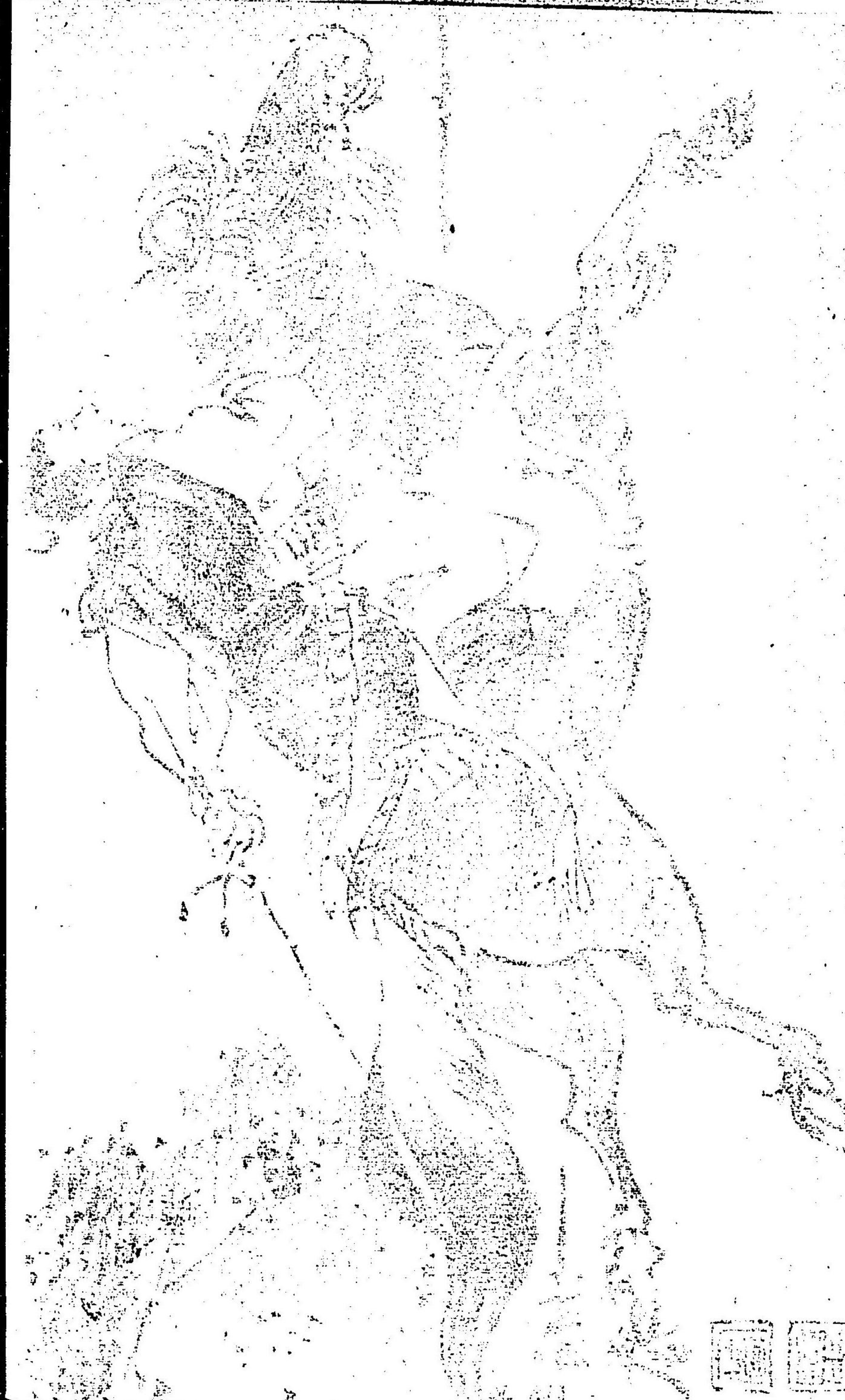
◎清淨華院 あり淨土宗鎮西派四個の一なり
元上長者町烏丸西にあり、開基是心上人は園
城寺の住侶にして淨華坊と號す、弘安十年淨
華院を開く住古は禁裏の佛室なりし故山號な
し本堂には元祖法然上人の像を安置し、阿彌
陀堂の本尊は惠心僧都の作なり爰の前細道に
華族六條家あり往昔田舎より六條本願寺へ寶
鏡を獻納するに當家と間違へ納め後ち取戻し
に至れば答なし爲に華六條の名あり、當寺の
隣に

◎盧山寺 あり台密淨律の四宗を兼學する天
台講寺なり、開基は慈覺大師にして與願金剛

院と號す、中興は住心上人にして一日旅僧來
りて我は唐の惠遠法師なりとて盧山の二字を
書し住心和尚に與ふ故に盧山寺と稱ふ、本尊
藥師佛は攝津四天王寺建立に當り疫病流行せ
し時聖德太子の作り玉ひたる靈驗著しき小屋
の藥師とて名高し、什寶には巨勢金岡の筆普
賢の像あり、張恩恭筆の觀音の像あり、何れ
も傑作にて其他名家の筆になれるもの多し、
この西側に

◎梨木神社 あり別格官廳社にして、祭神は
贈右大臣實萬公を祀る、孝明帝、今上帝に歷
仕して國事に奔勞せられたる方にて此地元三
條家の舊邸で梨木町と呼びたる故、社號とな





す、明治十八年八月故久邇宮朝彦親王有志者と諮り官許を得て創建せらる境内に同公の頌徳牌あり▲廣小路の角に佐々木文房具紙店がある、此横町廣小路通寺町東に▲京都法政大學がある校長は法學博士富井政章氏なり同所に▲京都東方語學校がある中川小十郎氏校長の任にあり▲京都清和中學校も爰に在る校長は吉村友喜氏である、東へ突當ると河原町で▲府立療病院がある院長は島村俊一氏にて大學病院に次ぐ病院なれば常に患者の絶へる暇なし、此内に府立醫學專門學校がある校長は島村俊一氏にて教務課長は醫學博士池田廉一郎氏で生徒も多數ある、爰を南へ荒神口角

に巡查派出所がある西南角は荒神口郵便局である東へ式丁程に御幸橋がある北側は久邇宮の御邸南側は雪月庵とて料亭である橋を渡りて東詰少し南に▲京都織物株式會社あり明治二十年の創立にして明治三十九年紫野織物合資會社とも合併し業務一層盛大となれり製造品は都襦子、九重襦子、英米清韓向織物等にて製造高は壹ヶ年二百萬圓程にて支配人舟阪八郎氏専ら擔任して居らるゝ、この邊は鴨川の上流なれば水の清き事珍瓏の如し、これを利用して燃糸業の工場もあれば、木綿其他の織を業となす者多く荒神口北に精華高等女學校が新築できた▲樋口又兵衛▲安村長造

▲山崎丈助等の晒屋ありこゝに口光堂義熟も
ある、元の織物會社の北横手を東へ行く吉
田町と稱する諸學校の淵藪である、二丁程東
の右側に醫科大學醫院の裏門がある、左側は
醫科大學の教授室と藥學實驗室等で少し東の
右側が▲第一中學校にて校長土屋員安氏は多
年其任に當り、茲より東の辻一丁北を西に行
くと京都帝國大學がある總長は昨年十一月岡
田良平氏が就任せられた、前總長木下廣次氏
は創立當時より永年勤務せられたるも病阿の
爲め辭任せられたからである、其内部に法科
理工科、文科とがある、其向ひは第三高等學
校にして校長は折田彦市氏である、少しく西

に京都高等工藝學校あり校長は中澤岩太氏で
市立美術工藝學校も茲にある校長は上田正當
氏なり爰の東部全体は下宿、坐敷貸、牛肉店
雜貨店など東京神田の如き學生の集合する丈
ありて、その需用を満たす者のみ出來て居る
◎吉田町 瓜や茄子の初物を出すに尤も名を得たる吉田の
里も今や橋に横に大路開けて人家の新たに建たるもの無數
諸國より學生の來まる多き爲に下宿樂を營むもの從て多く
別に世界を遊り出して角帽先生東四奔走して、宛り
東京神田、本郷の繁昌を茲に移植せし様なり
此辻を南へ二丁程行きて西に向へば
◎聖護院 わり智證大師の開基にして常光院
と號し、本尊は不動明王なり、中世以後法親

王の住し玉ふ處となり、世に聖護院の宮と稱
す、即ち三井の長吏にして熊野三山の別當と
し、天台流修験道を總管せらる、殿堂宏壯な
り、茲より少し西に▲八ッ橋屋本家あり京名
物として有名なり其西の左側が即ち
◎醫科大學醫院 なり關西に於ける模範病院
として患者の足跡絶ゆることなし院長は伊藤
博士にして内科には笠原、中西兩博士、外科
に猪子、伊藤の兩博士あり眼科に淺山博士、
産科婦人科に高山博士小兒科に平井博士皮膚
梅毒科に松浦博士耳鼻咽喉科に和辻博士精神
病科に今村博士整形外科に松岡博士等あり、
治療室、施術室、病室、藥局に至るまで一と

して完全せざるものなく、神經質の者は其設
備を觀て既に病愈ふるの感想を起すべし、爰
の前は旅館を以て占領して居る▲淡路屋▲湖
東館▲孝の家▲扇屋▲さわや▲近江屋などが
主で風評の悪敷きはたんばやである▲醫療機
械屋の白井直七▲雜貨類の富永重等が重立し
處である爰の東の辻を南へ行くと
◎熊野神社 がある後白河上皇紀州熊野神社
を勸請して帝都の守護神となし王ひしにて、
京洛三熊野の一なり、昔時は神殿壯嚴なりし
も、應仁の兵火に悉く蕩盡して、現今はいと
物寂たり、後の森を聖護院の森と云ふ、老樹
鬱蒼たりこゝの向に▲料亭森樹樓あり座敷を

改築して吉田岡崎邊の眺め殊によく、料理亦
た佳味あり、この裏尻に

◎準提 觀世音菩薩 あり本堂に弘法大師、
延名地藏尊、千手觀音、役行者、不動明王
智證大師の六体が祀られてゐる、靈驗著し
く參詣者常に絶へず

森村の隣に山城宇治の銘茶屋 ▲松尾喜平治の
出張店あり西に歩めば北側に ▲旅館と雜貨を
商へる朝日館あり二筋程西へ行けば絹糸紡績
會社の本社にて工女も多く繁昌せり社長は森
田茂吉氏である ▲丸太町通の重なるは雜貨商
のハイカラヤ ▲仕出料理屋の中村三四郎など
で、爰の北側に

◎天理教會河原町分教會 あり大和にある天
理教本部の分教會にして、神殿の中央に奉教

主神を祀り、靈殿には同教々祖を祀る、木材
は尾州檜の良材を用ひ人目を驚かしひ此地は
故山階晃親王の舊殿にして、同殿は儼存し、
三密觀音御厨間、松蘿洞茶室、有頂天樓上等あり
庭園には同親王御手植の楓あり、參詣の徒常
に多く、神徒の本願寺なりと稱せらる、會長
深尾徳次郎氏の親父源次郎氏が興起せられた
のである、茲より西に半丁計り行けば丸太町
橋にして南に向ふて行くと ▲賣藥化粧品の平
塚テイ ▲夫から川端警察署がある署長は警部
大場義衛氏で隣が ▲京都稅務監督局である局

長は岩崎奇一氏で ▲上京稅務署も其内にある
署長は白井桐氏である、茲の南の川が疏水よ
り鴨川へ注ぎ落ちる水路である、茲の東南部
一區劃は二十年餘り前まで二條新地と稱へし
遊廓なりしが、吉田附近に諸學校の出來ると
共に風紀上立退きを命せられた、今は茲に京
都藥學校と獨乙學校とがある校長は共は雨森
菊太郎氏である、元の疏水川筋を東へ二丁計
り行けば開門ありタムあり此處に疏水工事の
偉勳者男爵北垣國道氏の銅像がある青銅の色
蒼然として楊柳の中に屹立して居る、水溜は
武徳會の遊泳場と成つて居る、此附近は精米
水車、伸銅所、箔粉製造所、組糸工場等疏水

と電力とを應用して諸種の工場が出来て居る
東へ二丁計りにして ▲山城製油合資會社 ▲
寫真師操館あり熊野橋より南に行けば京都製
銅株式會社あり突當れば二條通りにしてこゝ
にて重立たるは疏水角の京近煉化商會 ▲料
亭中村屋は自轉車乘馬騎手等の多く立奇る
處少し西に ▲孤兒院の平安徳義會 ▲鍛冶師古
田孫四郎 ▲岡田伸銅處あり二條通川端迄に目
立つは ▲綿屋の鳥井喜之助 ▲酒屋の谷口文次
郎 ▲吳服商紀の國屋岩田宗太郎 ▲砂糖商の井
上喜兵衛川端の北角が ▲うごんそばの河道
屋支店 ▲南側が鴨川餅 ▲川端南に行く ▲藥
種問屋中村九兵衛等で仁王門通を東に行く

寂光寺、満足稻利、要法寺

◎頂妙寺 あり日蓮宗一致派の本山にして開基は日祝僧都なり、文明五年此寺を創建す、拜殿は樓門の前にあり、之れ樓門に安置する處の仁王を拜する爲めの殿あり、之れ他處と異なる處にしてこれあるがため仁王門通りの名を有す、此境内に京都工學校と京都數學校あり共に島津益五郎氏校長たり、この通りには醬油問屋の脇田商店に▲牛肉商の平田佐藏位のものである

◎寂光寺 は仁王門新高倉東にあり日蓮宗二十一刹の一にして勝劣派の本寺にて、開基は日淵上人なり昔時此寺に圍碁の妙手あり信長召して之れを見る爾來代々圍碁に通ずる人

を撰みて住せしめ幕府に謁して祿を受けるを例とす茲の東に西寺町、東寺町とて二條通りへ通ずる道あり兩側とも寺院のみなり此道を古川町南に行けば▲帝國製糸株式會社とて元平安紡績跡を村井氏一派にて買占め今日盛に經營せられつゝある二筋南に行く

◎満足稻荷 あり毎月五日二十日の兩日縁日ありこの稻荷は豊太閤征韓の軍の満足に凱旋せんことを祈願せられたるより此名ありこゝより西孫橋通新高倉東入る處に

◎要法寺 あり日蓮宗二十一刹の一にして正和年中の建立なり、開基日尊上人は日興阿闍梨の弟子にして布教に熱心なり十六年間に二

拾六個處の寺塔を建てられしと本堂の中央に日興書寫の本尊并に宗祖日蓮讀經の像を安す茲より二丁西に行けば川端にして少く南に▲醫師徳岡新之助▲齒科醫苗加房三郎等あり

◎三條大橋 は京都三大橋の一にして天正十八年豊太閤其家臣増田長盛に命じて造らしむ長さ六十三間巾四間五寸欄間の擬寶珠は紫銅にて造る是皆諸侯の寄附にして今尚寄附者の姓名を見るを得、爾來改造せし事數回なれども擬寶珠は其儘襲用す其橋の銘に曰く

洛陽三條之橋至三後代一化三度往還人一磐石之礎入地五尋切石柱六十三本蓋於三日城一石柱橋橋腹手

天正十八年庚寅正月 日

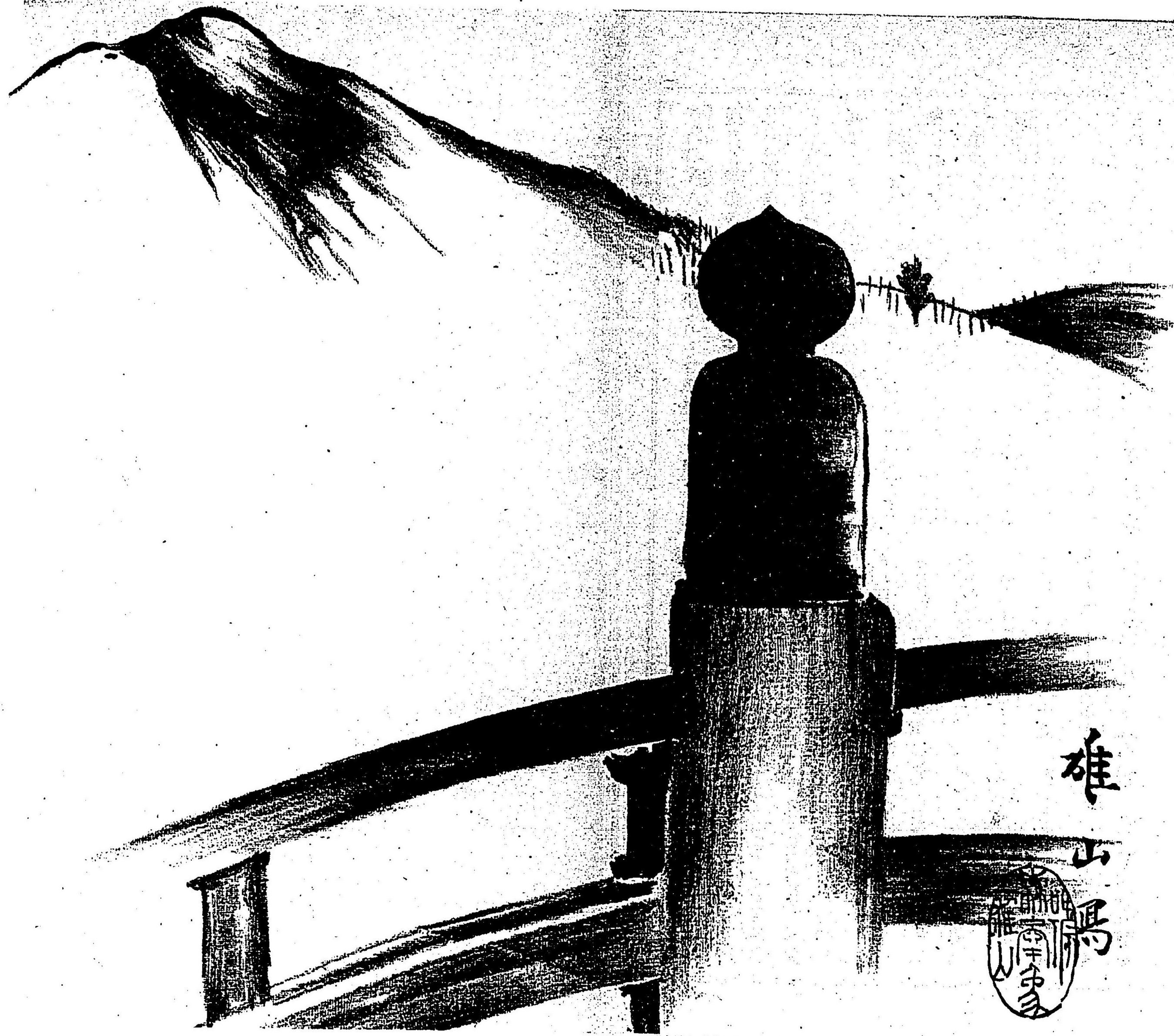
豐臣初之御代奉増田左衛門長盛造之

本橋は東海、東山、北陸等諸街道の起点にして里程元標茲に存し、諸道の旅客輻輳して往來晝夜絶へざりしも、明治の御代と文明の利器汽車汽船の交通の爲め今は之れを見る事なくなりし去りながら橋の西詰、東詰ともに旅館は軒を連ねて客を迎へり

ふる雪に加茂のかはらを見渡せば 知紀
みなしらなみとなりける哉

◎檀王法林寺 は爰にあり淨土宗黒谷派に屬す、古は悟眞寺と號し道光法師の建立にて慶長年間袋中上人の中興とす、梅檀王院又は法輪寺と云ひしが今は略して檀王と云ふ本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作なり傍の主夜神は婆珊

三條大橋、檀王法林寺



雄山



婆演底を勸請す、爰の角に巡查派出所あり▲
 茶久の跡は三條大橋郵便局となれり其隣りは▲
 ▲煙草商の芝野久七隣りが▲伏見屋旅館向ひ
 が▲日本貯金銀行支店二三軒東に▲旅館豊后
 屋友七と▲筑前屋旅館あり北側に▲牛肉商若
 林彌榮造▲七寶貿易店の高谷兄弟商會▲砂
 糖菓子商の林洋行▲渡邊線香店あり南側に▲
 鍵屋備前屋旅館甲斐伊兵衛▲鈴木度量衡器店
 ▲伊勢屋旅館▲錢屋貸物商會少しく東に行
 けば▲大黒屋旅館南側に▲干物商木下佐吉▲
 奥田醬油店▲爰より少し東の南裏一區廓は寺
 裏と云ふて井戸堀香具師等あり三條通東に
 は▲竹籠貿易商森田新太郎▲漬物商藤田政次

郎▲七寶商高原駒次郎▲東西屋のふれ音等が
 重立つた店で古川町より東に▲太田漆器店▲
 酒造業青木伊右衛門▲紙商の前田嘉右衛門▲
 陶磁器商の小岩藤吉▲七寶貿易商の稻葉七穂
 ▲綿商と硝子商の日出幸▲七寶貿易商の佐野
 豊三郎等である、古川町通を三條より南へ行
 くと▲酒造家村井彌一郎▲賣藥調劑處の織田
 自然堂▲藥劑師の小泉俊二郎▲土木請負の磯
 田米次郎▲牛肉商の濱野商店などが重なる家
 ある知恩院門前を古川町通りと稱し此邊は買
 易商と造酒家が多し重立たるは▲造酒業木村
 源助▲象嵌細工の奥島八郎西へ一丁行けば▲
 造酒家秋山太兵衛▲醫師の日下京平▲醫師の

千田峯吉に▲貿易商にて有名なる林新助横に
 ▲骨董道具商の林新兵衛あり▲象嵌商の駒井
 晋次郎▲酒販賣商の梶原合資會社▲ラムチサ
 イホン製造の桑原盛泉舎に▲特許ポンプ製造
 販賣の島村商會▲淨瑠璃師匠の野澤喜八郎
 等で突當りが繩手通にして▲料亭美濃庄▲美
 濃吉▲高等牛肉料理の美屋古等何れも裏座敷
 に鴨川を扣へ眺望の美と調理の佳を以て知ら
 れて居る、此邊より、貸座敷も軒を並べてあ
 る、南の辻が新門前通りにして北角に▲川崎
 和洋紙店あり東へ行くと▲油商の中村茂兵
 衛に▲歌舞の師匠片山春女の井上八千代さん
 當代の名人にして祇園先斗を風靡して居る▲

新古美術品貿易商の土橋熊四郎に▲松木善左
 衛門▲淺井久太郎▲辨天合資會社は刺繡貿易
 を第一とす▲池田清助は新古美術品の貿易家
 として名あり▲七寶象嵌のS駒井商會等がわ
 る爰を東に行當ると小堀通りと云ふ角に▲紙
 雜貨商の池田豊三郎あり東へ行くと袋町にて
 ▲旅館月の家あり小堀通りにて重立ちたるは
 ▲蠟燭商の和田忠太郎に▲寄席の鴨東館▲蠟
 燭商の谷山吉太郎▲御所蒲鉾を名題にしてい
 るいづ萬▲安藤自轉車商會▲西洋料理の勝
 榮亭▲鎮宅靈府神▲花環造り花等を爲す有名
 な花新で开處から祇園石段下へ出る
 ●祇園町 は京都第一の遊廓にして、近來島

祇園町

原の衰ふるや、此地の繁昌は舊に倍し従ふて名媛美妓も多く集り來り醉歌絃琴の聲絶ゆる事なし、その遊廓區域は四條石段下兩側より西は四條大橋東詰を南へ一丁斗りと北へ車道爰にて重立てるは▲小西菊▲廣島屋▲井作▲井すへ▲山梅▲大かつ等の茶屋に▲善哉しるこの甲保野にて繩手通り四條を北へ新橋附近迄にて新橋通を東へ小堀迄が一區劃である、此内甲部と乙部に分かれ乙部は俗に膳所裏と稱し新橋切通しより東へ、末吉町藥湯の町東への一區劃數百軒の茶屋は一現でも何でも無暗に遊興を勤めるのである、甲部は純粹なる祇園新地の青樓の資格にて如何なる立派なる

紳士にても顔馴染なき即ち一現の御客は決して遊興なさしめず、茲に遊ばんと欲する人は旅館なり友人なりの紹介を経れば遊べざるものである、并して甲部は新橋通を切通しまで末吉町一圓當永町一圓にて有名なる青樓は營業家明覽の貸座敷業の部を参照せられたならば、大抵は掲載してあります、繩手通りは▲鍵善菓子店▲さきしらすや▲甘泉堂菓子店▲八源酒店は郵便局を兼ね▲料理屋のちりれんげ▲雞肉料理の鳥新に▲仕出屋のちもと支店に▲千枚漬等を賣る八百伊に▲料亭の魚新などで小間物化粧品屋等の間に青樓娼家が軒を並べて居る再び四條石段下へ戻りて記さん

か、茲に商家軒を并ぶる其間へ青樓料理店等がある、石段下の南角が▲竹細工品の石井賢易店隣りが▲石井青物店八百文で▲繪はがき寫真等のマルイ商會やら▲下駄履物店の森文商店▲北側では宮田茶店に▲秋岡寫真店等で南側には彌榮尋常小學校▲柳澤藥館▲金岩樓に、忠臣藏の演劇て人々に知られている▲一力亭、萬春樓とも萬亭ともいふ爰の西横を南に行くと花見小路と云ふて女紅場がある夫より一丁計り南に歌舞練場があつて、毎年四月一日より四週間程

二人の壹組が一番より五番迄ありて五日目毎に出番となる、いづれも華麗なる揃の衣裳を着し、年々新作の歌曲に合せ、地方の「都踊り」は「」の聲につれて「ヨーイヤサ」と鶯の如き聲音にて兩花道より徐々と練出し、金銅花簪は燦爛たる電燈に映じ、花顔柳腰の美女入亂れて立舞ふさま嬌艶き事いはん方なし、何人も必ず一見の價値あり、茲の東に小路あり兩側の青樓は祇園町甲部にして重立ちたるは▲よし花▲若鶴▲かしわ屋の菊水支店▲春木屋等あり少し南に京都入阪病院とて娼妓の驅御院あり

○下河原の山根子 維新前迄は彼の下河原に山根子と謂ひ

なしたる歌妓ありて諸藩士の多く入京したる際には松盤の間に周旋したるもの多く、其以前より舞の會として此の地の歌妓に絃歌舞曲に堪能なるもの多かりしか、冬枯の霜時にも胡蝶の舞などありて京名物の一なりしが、祇園町の繁昌するに連れみな茲へ移りて今は其影だになし、去れば祇園老妓の中には山根子なりし人もあらん

元の四條通北側に▲鏡屋酒店▲船津煙草元賣捌所あり▲名物祇園香煎の原了廓に▲南側に菊梅料理店▲鯉巖堂岩田骨董店切通しを過ぎて藝妓の控家二三軒▲大坂あんの支店▲千鳥足袋▲みや古名産會は一寸した勘工場にして京土産になるものいろいろありこゝは元井筒といひて一力につゞきし茶亭でありし跡也

▲井澤小間物店▲菊水煎餅▲鰻料理の江戸川▲井筒屋下駄店▲腹掛パツチ類を贈げる美濃伊▲賣藥及煙草店の静愛堂▲祇園饅頭に▲京菓子司の茶釜堂等である茲の南側に大劇場あり南座と云ふ今より二十年前までは北座と差向ひ京四季にも、そして櫓のさし向ひと歌はれたる京都名物の大劇場にて往昔名古屋山三郎が始めて演劇なるものを組織しお國歌舞伎を茲にて演じ夫より今日の演劇の濫觴を來せし古跡なりしが今は南座のみに遺形を殘せり茲より鴨川に架かる橋を

▲小島琴に▲淺岡袋物店位のもので
●目病地藏尊 は繩手東入南側にあり、この地藏尊は元真葛が原にありて路傍の堂に籠られて雨休地藏と云はれ往來の者俄雨を凌ぎしが、いつしか雨休が目病と轉化して今日の責任を負され給ひしとか、此西の辻が繩手通りにして三條より四條までをいひ四條より五條までを建仁寺町と云ふ、總稱は大和大路と稱し伏見街道より大和街道に達するのである東北角は▲大塚衛生藥館にして賣藥化粧品店なり開處に巡査派出所あり西へ行くと西南角に▲大阪貯蓄銀行の支店あり重立てるは▲松本煙草店▲文房具店の荒木三工堂▲松岡洋店▲

して橋上人馬の往來織るが如し、毎年七月に至れば、橋下の川原一面に床を架し涼棚を構へ、料理店、茶菓店、氷店、觀物興行、借馬等あらずと云ふとなく又兩岸の青樓、旅亭、席貸等は水に臨みて涼臺を設け、燈火は千点萬点、人聲絃音いと賑はし之れを四條川原の納涼と稱し古來より有名なり
四條から五條の橋や朧月 許六
川風や薄かき着たる夕すいみ 芭蕉
丈山の口が過たりゆふすいみ 蕪村
○京都の山縣 京都附近の山は、比叡山の花、石山を除くの外は多くは古成層の礫頭形をなして、頗る平凡ぢやが、幸に何れも古木鬱蒼として、四時緑の色をなかに爲めに

宮川町、五條大橋

九十四

風光明媚の名を手にせしめてゐる、川の加茂川、桂川の二流で、加茂川は市の東町家の間を流れてゐる、水が少ないうちに、土砂が河身を埋めて三分の二の洲になつて、其上に草が生へてゐる、塵埃が滞つてゐるといふ風で、餘りに水明かないが、桂川の上流保津川の末は、夫の嵐山の麓を流れる大堰川で、眞に水明の稱あるを失はない

四條大橋東詰を見渡せば屋上にペンキ看板の陳列處がある、随分殺風景なもので、優美なる京都の中心にはチト不似合であるまいか、南に行くとも三階造りの大砲樓牛肉料理の安直店で、少し南に一軒亭は西洋料理にすぎ焼も出来る、樹安酒店等目立つて居る、茲に團栗橋あり少し東へ廻りて南へ行く通を

◎宮川町 と稱し京都第三流の遊廓にして青樓娼家は兩側に楡比し松原通り迄あり、茲より古宮川町、新宮川町の二筋に分かれ五條北一丁邊まで軒行燈が并んで居る、元來當處は娼妓専門の遊處にして割合に藝妓は少なく、何時誰が行つても遊興さす處である、料亭の重立たるは▲樹村家に▲三樹鶏肉料理店▲會席料理の大新亭▲奈良家などが繁昌して居る◎五條大橋 は五條通鴨川に架かる橋にして往古は今の松原通に架かれり、今は舊の五條通りにして、今の大橋のある處は六條坊門通といひしが、天正年中豊太閤五條橋を此處へ移してより、舊名を呼び遂に六條坊門の名を

云はずして五條通りと稱ふるに至りし、橋の長さ四拾八間三尺幅四間二尺あり、擬寶珠を附けて舊制を保存するのである、俗に此橋にて牛若丸が辨慶を試みたと言ひ傳へている、東詰には▲樹屋旅館紙店を兼ねて居る▲向ひ角に日本貯金銀行の川東支店あり橋詰を南に行くと問屋町とて魚市場がある午前中は兩側

とも火事場のやうな忙しき取引をして居る重なる店は營業家明覽に出て居る、西詰南側は五條郵便局で局長は下田好次郎氏が勤めて居る茲を南に行くと遊廓がある七條新地と稱して京都第三流の遊び場處である、北側は元五條警察署がありしも四五年以前今の佛光寺へ移

轉したる其跡を公園地と爲さん目論見にて現今は樹木も植へず空漠なる土地に、高島屋外一二軒掛茶屋がある、去れど風景は流石に京の名所たげありて、鴨の磧を見渡し遠くは東山三十六峰を我が物顔に眺めるなど、一寸他所には無い圖である、

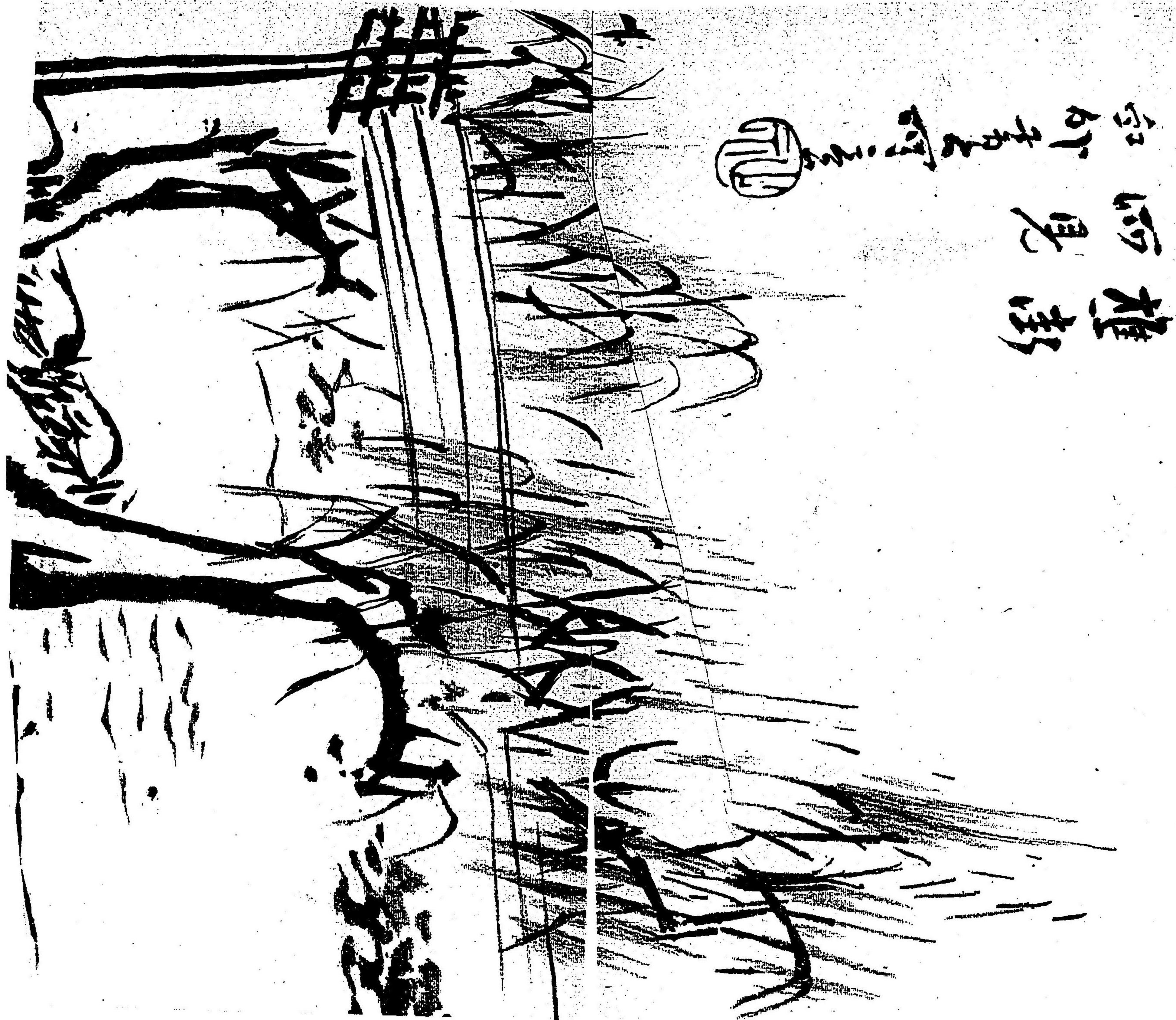
大燈 國師

座禪せば四條五條のはしのうへ

ゆき、の人を深山木にして

茲の西手の流れが高瀬川といひ、二條より鴨川の水が分岐して、南の方伏見に達し淀川に入る、即ち慶長年間角倉了意翁の開疏せし處にして、百貨運輸の通路である、この沿岸一

九十五



高瀬川
の
新
見
所

帯に柳を植へ緑樹青々として居る、其傍を
 電車が常に往復して居る、此通りを木屋町と
 云へども二條より三條迄の間を上木屋町と稱
 し四條より松原迄を下木屋町と呼び共に貸席
 兼旅館が軒を并べて居る、
 茲へ遊女人は多く祇園先斗の茶屋酒に飽き馴
 染の美妓を携へて幽邃なる鴨川の眺望に千鳥
 の聲を聞きながら浮世はなれて粹な遊びは紳
 士より出来ぬことであるふ、まづ五條より北
 へ重立たるが萬壽寺橋の行當り▲カル、ス温
 泉に▲國華新聞の支局▲赤丸屋醬油店▲田邊
 醬油店▲三ツ星醬油店▲山泉盛田合資會社等
 の醬油問屋が軒を并べて居る西側は新炭問屋

のみが多くある、何づれも高瀬川を利用して
 商品を運搬するから此邊に居を扣へたのであ
 ろう、松原を北に行くに▲海川會席料理店の
 鮎鶴▲夫から水亭旅館に▲畫家の南廣▲
 醫師菅原興三君に▲旅館富士亭に▲國富旅館
 ▲貸席と旅館の藤田樓▲榮亭▲津田樓▲萬靜
 亭▲招月樓▲松華樓等で▲鶏肉料理の鳥彌三
 ▲西洋料理の精々軒は團栗橋の角である西側
 川向ひに加藤旅館がある茲から北へ二筋に分
 かれ、東の方の狹小なる巷路は四條迄を西石
 垣といふ、西の筋は木屋町である、西石垣の
 重立ちたるは▲天猷羅料理で有名なる津四樓
 で旅館を兼ねて居る▲千もとは京都一流の料

理店にて座敷は東山一帯を見晴し料理亦た獨特の風味あり▲八百傳旅館に▲鰻料理の神田川▲大鹿旅館に▲三玉樓旅館▲貸席のすみれ▲湯屋の白山湯等である、こゝ等は京都の粹を集めじ處いづれも鴨川に臨み風光絶佳にして通人たる名ある人は必ず茲へ遊ぶべき一箇の銷金窩であらう、

四條大橋西詰の南側は▲矢尾政の蠣料理店にて夏はアサヒビヤホール店なり北側は▲矢尾政北店にて西洋料理を営み兩側扣へて京の花を添へつゝあり、茲より北へ先斗町といふ遊廓あり▲藤屋料理店は元矢尾政の處にて營業なせしが茲を修築して昨年より高尚なる料理

店を開けり、夫より北へ重立ちたるは▲梅村屋▲うれしの▲鳥六▲菊水▲共樂館▲正華樓▲松村屋▲川新等が重なる料理店にして貸座敷は營業家明覽に委しく記しあり参照を乞ふ、茲は祇園町につゞきし遊廓にして藝妓本位の場處柄にて娼妓は比較的少なき様なり、併し一現の客を遊興なましめざるにより旅館か友人の紹介を求めねばならぬのである、この地は文化年度に初めて藝妓を置き、自後幾變遷わりし末、現今の如く青樓娼家櫛比して盛になり毎年五月一日より二十日間歌舞練場翠紅館にて鴨川踊あり、祇園町の都踊とは同じ仕組にて東西其艶美を競ひ居れり▲西

屋旅館はこゝにあり元の團栗橋へ戻り木屋町通りを四條までに三橋樓といふ牛肉の安料理屋と▲うぜん屋の高砂とにて茲の前高瀬川に添ふた柳の下には人力駐車場があつて車夫がいつも四五人は居る、木屋町四條の角が▲幸屋洋服店北角が▲理髪で有名な賢長館▲こゝに電車停留場がある隣が▲萩原煙草店に▲高畑醤油店▲辻長醤油店▲野々山醤油店▲醤油ビールを販賣せる赤松吉兵衛▲醤油と薪炭商の日夏爲四郎▲醤油問屋の島卯之助▲醫師の武田修二▲電鐵翁の高木文平▲井上文醤油店▲島澤爵士の出張處▲加藤寫眞館に▲小田佐洋酒店▲松本酒店等でこゝより東に入る辻が

あるこゝは先斗町の北の入口である▲北角が荒川の人力帳場に▲關東湯等にて茲に◎瑞泉寺 俗に畜生寺と云ふ浄土宗にして本尊阿彌陀佛は聖徳太子の作なり、茲は豊臣秀次の母瑞龍院日秀尼公、秀次追福の爲め建立せられたるものにて、堂前に一の古墳あり、其上に碑石を建て、表に秀次悪逆塚と題す、即ち文祿年間秀次被殺せられて高野山に自害し其首を三條横に梟し其前に於て夫人以下婢妾三十余名、并に其幼穉を斬り同穴に埋みしものにて、畜生塚と云ふ▲三條の角に菓子店の松井菊水堂望月が名題である北角は▲京都新聞社にて夫より北の夷子橋詰に▲天獄羅會席

で有名な五木庵は丁字湯を沸かして勉強して居る▲名物月餅は少し北にある▲此邊は前に云ふ上木屋町にて殊に貴顯紳士の多く宿泊せらるゝ處で中にも▲玉川樓▲西村屋▲柏亭▲向陽館▲平野屋▲花外樓▲吉富樓▲生圓樓▲月下亭等數限りなき程あるいづれも營業家明瞭に旅館貸席の部に詳しくある▲料理屋は井種支店が玄鶴樓即ち元の生龜の跡を引受けて居るが中々繁昌して居る▲仕出し料理は錦魚清西田の支店がある其外に▲義手義足専門の小柳六之輔▲運送店の出石泰次郎に▲藤田氏別邸は樋の口にある、二條の角に電車停留場がある、爰より三條蹴上へ行く鴨東線と北

野へ行く本線と分岐する處である、西側は▲島津製作工場にして電機用具から、諸種の標本を始め教育に關する總ての機械を製造して居る、東へ少し行くと▲佛書を發行する貝葉書院に▲西洋料理の吾妻屋とが重もでこゝを北に行く路がある、角は▲殿村の別邸夫から北に▲藤田別邸を建築して居る、突當りは銅鉦壽常高等小學校にして三四年前新築なりて爰へ移りしあり、此前の橋が夷川橋である、西手の辻を北へ行くと土手町通りにして▲北垣男爵邸がある畫伯北垣靜處君も茲に居られる▲北隣りは京都府立第二高等女學校にして校長は高橋清一氏である北の隣りが丸太町通

下御靈神社

りにして大學病院へ行く道である、丸太町から北へ入ると東西二筋に分かる、道がある東三本木西三本木の通りにして維新以前は祇園町に續く繁昌な土地で白拍子にて名高く木戸公を助けし幾松も此處の白拍子であつた、料亭は茨木屋、吉田屋などありしが何れも昔の夢と過ぎ去り今は其の片影もなく僅かに茨木屋の跡が月波樓と云ふ旅館となり、名残を止むるに過ぎざりし、頼山陽先生が大に此の地を賞美し東山三十六峯の眺望も佳なりと邸宅を設け多くの儒者を招待して常に酒宴を催し輿に乗じて此處を詩歌に賞揚せしより、一層三本木の名は弘まれり今は其邸宅もなし、北

へ抜ければ御幸橋の通りにして、荒神口と云ふ西へ二丁程行くと寺町通りにして角に▲京都府立第一高等女學校がある校長は河原一郎氏多年其任に當り生徒も多く京都女學校の第一位を占めてゐる▲南に油小路伯爵邸▲裏千家宗匠鷺山氏あり▲洛陽教會に經濟時報社ありて丸太町角にて出町行電車乗替所がある、茲に巡查派出所もある

●下御靈神社

である府社にして祭神は早良親王、伊豫親王、藤原吉子、文屋宮田磨、橋

逸勢、藤原廣嗣、吉備大臣、藤原道實の八靈を鎮座す、本殿は古例により天明八年の大火後内侍處の舊殿を賜ひし處にて祭神八所の靈は桓武天皇仁明天皇兩朝に四座あり勸請して皇宮の産土神たり、清和天皇の御宇貞觀五年五月二十日鎮疫の爲めの神泉苑にして勅祭ありし、今は毎年五月十八日に私祭がある、この前に▲干物店横河清次郎▲森田洋服店▲書籍雜貨商の吉村勉強堂▲美術生花原料商八文字屋商店▲櫻井陶器店▲石敢堂繪はがき店▲東側南角が柴田靴店等である

元獵師にして牝鹿を討ちし時懷妊した子が出しより發心して僧となり遊歴して寛弘二年京都に遊び頭に寶冠を戴き身には其鹿の革衣を着せる故市人呼びて革上人と呼ぶ遂に堂宇を草堂と云ふ、行圓常に千手大悲陀羅尼を持し良材を求め觀音の像を刻まんことを願へり、ある夜夢に感じて鴨の社の傍なる槻樹を神官に請うけ十一面觀世音八尺の像を刻み行願寺を營みて茲へ安置す、これ當寺の本尊なり什寶として鹿の革衣を今尚ほ當尊に保存せられあり、毎年舊曆十月には十夜の供養あり此の前通が竹屋町で二丁程西に京都地方裁判處がある、元石川五右衛門の邸宅なりしと云

行願寺

●行願寺 は西國十九番の札處なり、天台宗延曆寺に屬す開基行圓上人は鎮西の人なり

ふ其前には印紙店代書屋軒を並べてある重なるは▲金貨と印紙賣捌して居る丸山府會議員の宅で▲印紙賣捌店とうふや淺野善兵衛と▲仕出し料理屋のお多福亭位の者である▲富小路の東角は川原園本舖堀勝藏である寺町西入る處に電力を利用して精米して居る米穀商盤谷儀右衛門に▲南側に石版印刷所林雅助が勉強して居る

寺町通を南に右側に▲福田硝子店に▲金時呉服店は先き頃より合資會社と組織を變へて勉強して居る▲大久保翠簾店▲伊藤歐米雜貨店▲祐直干物店▲痔瘻丸本輔鹿野藥店▲伊勢屋小谷呉服店に東側が▲山崎食料品店に▲中澤

書籍店と▲リボン化粧品商のまげんや▲佐々木文房具店▲静愛堂藥店に▲村田堂洋服店▲砂糖商の野村源助位のものである、こゝから夷川通りを西へ出れば古道具屋箆筒長持嫁入道具に疊建具戸棚類まで軒を連ねて店が出て居るから世帯道具は大抵茲で調ふのである寺町 夷川 南に電車の停留場があつて、開處に▲糸屋の糸萬▲呉服商のよきや▲チル洋傘店の内藤鳴鶴堂▲三浦蒲鉾店▲末廣すし▲筆墨商の古梅園▲化粧品雜貨商の奥村花王堂▲巴堂下駄店に▲奈良忠金物店▲食料品鋪 詰店の宮本虎半支店▲丸玉澤田呉服店▲給はがきや百合屋に▲三矢時計自轉車店である、東

側夷川の角が▲煎豆雜穀屋の舟橋屋本店隣りが▲渡邊一保堂の茶店▲柿本和洋紙店▲松島樂器店▲茂森洋服店▲佐藤砂糖店に▲いろは餅夫から▲岡野兩換店の金銀崩し商▲伊藤雜貨靴店に角が▲かしわやの烏政である、二條西側の南角が鍵屋菓子店にて階上に喫茶店を設けてある▲書籍商若林 茂一郎▲山田氷店主人啓助は龍文氷發賣を爲して巨萬の富を得たる京都有数の商人である▲雜貨帽子店の高木仁兵衛▲書籍商河合文港堂に▲松田庄助▲美術圖書専門の山田芸艸堂に▲久保洋服店に▲文具雜貨商の森親子商會▲ブラシヤの前川兄弟商會 ▲河合印判店▲足袋屋の岡本傳七

等が重なる店で東側には▲桑原洋服店の本店に▲眼鏡商の吉澤嘉三郎等が重なる店である◎妙満寺 法華宗八本山の一にして妙塔山と云ふ、開基日什上人永徳元年七月圓融院帝より一派弘通の倫命を蒙りて當寺を綾小路堀川に建立し、二祖日義上人の代應永二年の兵火に罹り烏有に歸せり、尋で舊觀に復す、天文年間法亂により泉州堺に移り、三年を経て故地に歸す天正年間豊臣氏の命を承け今の地に遷り天明八年類焼し元治の首め復た兵燹に罹る今僅かに堂宇を再造し殆んど舊時の装を易ふ、靈佛什寶多く中にも三十三枚つゞき祖師眞筆尤も名高し、又紀州道成寺の古き梵鐘

は當寺に有り堂前に中川の井といふあり、足利義政の時代の人にて能阿彌が撰みし洛陽七名井の一なり

隣りは▲桑原洋服店の支店向ひに▲新古美術骨董品の福田元永堂がある、押小路通り南角は▲小山堂と云ふ美術金屬の装身具店で▲樋口洋服店に▲色紙短冊店の山本正春堂▲山上呉服店▲京都絨販賣合資會社▲村田堂洋服店▲櫻井唐木店▲寫眞師の旭館等で少し東に▲京都市議事堂 がある明治二十七年六月の建設にして敷地三千六百一十一坪餘あり、京都市役所の事務も茲にて扱ふ▲京都ホテルは東突當りにあり近來也阿彌ホテル焼失後大に坐

敷を増建し室内よりは東山の景勝一眸に納むる様建築して大に繁昌せり▲南角に新古美術品賣易商三笠商會あり、少しく南に天主教會堂がある、其北横手に▲京都女子和洋技藝學校あり校長は伊澤信三郎氏なれども外國婦人が教授を擔任して居らるゝ、河原町を夷町の角に▲大日本催眠術獎勵學會本部がある會長天野勇は斯道の熱練家にして會員には大學醫院の醫學士も通學して居らるゝ▲下筋向ひに浦谷古着店あり、元の寺町に戻り御池の角に▲植西今古堂なる古美術骨董店あり向ひ角が國友銃砲店に南角が▲日本貯金銀行の御池支店である南に▲阪部醫療器械店▲鈴木吳

服店▲色紙短冊商の吉田富春堂に▲食料品鐘詰西洋料理器具を賣る京屋▲塚本雜貨店などで向ひ側に▲平野美術銅器店▲井上メリヤス本店隣りが▲眼鏡商の中澤金光堂等が重なる店で茲に

和洋シャツ

京都四條御旅町

龜村本店

●本能寺 あり日蓮宗にして日隆上人開基たり、初め六角油小路東へ入今の本能寺町に堂塔善美なる伽藍を造營ありしに天正十年織田信長徳川家康と共に武田勝頼を討つて甲信二州を平らげ、毛利氏を討たんとし京師に入り本能寺に館る明智光秀反して六月二日本能寺を圍みしに宿直の

兵士多からざりしかば、信長左右を率ひて奮闘したれども賊の亂入を防ぐこと能はず遂に敵兵天野源左衛門の爲めに刺さる時に年四十九なりと、其後天正十九年豊臣氏の命により現在の地に移せしも天明、元治の兵火に焼失し、今はやゝ廢頽して舊觀を止めざれども墓地に信長の影塔あり、什寶多くして祖師眞筆の大曼荼羅の表装は絹地の緞子に唐草の地紋あり、世に本能寺切と賞す其前に重立ちたる店は▲崎間呉服店に▲杉本書籍店▲食料品鐘詰煙草などを賣る青木堂

▲京名物の蕪物線香筆墨商の鳩居堂等である
 姉小路より南には▲洋菓子店の桂月堂▲靴皮
 具商の相原半三郎に▲龜屋菓子店▲由多加織
 を販賣する田村商店▲藤本硝子店に▲有本洋
 服店支店▲いわしや岩佐醫療器械店▲村田さ
 せる屋▲半田洋服店位のものである、東側に
 重立つてあるは姉小路角に▲ツッパメやと云ふ
 繪はがさと京みやげの寫真とを賣つて居る店
 ▲隣りが山本寫真館で▲パンと洋菓子を製造
 して居る西洋軒▲仕入洋服店の桑原第二支店
 ▲飲食中食店の梅田亭は極安直な店隣りが▲
 せんざい餅屋の常盤である、隣に
 ◎矢田地蔵尊 がある和州矢田金剛山寺の別

院にして京都六地蔵の一にて世に矢田地蔵と
 稱へて名高く參詣者常に絶へず、茲に三條寺
 町巡查派出所と向ひ側に郵便局がある、茲は
 市内西北より新京極へ遊びに来るに人力車夫
 に三寺迄と云ふ符號で乗る處である
 ◎新京極 は大坂千日前、東京淺草と並び稱
 せらる、快樂境にして三條より四條までの間
 に演劇、講談、落語、浪花節、女義太夫、喜
 劇、活動寫真、劍舞、江州音頭、曲藝、西洋
 奇術等一として娯樂の機關備はらざるものな
 く、亦た飲食店、玉突きを始め小間物雜貨の品
 品より土産物に至るまで何にひとして調はぬ
 ことはない、隨ふて遊びに来る人も雨の夜雪

の夜晝夜の差別なく常に雑踏群集を極めて居
 る、先づ三條より記るさんか東角に▲鳥居繪
 舂紙店西角に▲袋物店がある茲に阪ありたら
 く下りと稱す維新前まで此邊は誓願寺境内
 にして开處に小屋掛けなど
 して種々の藝を演せしより
 寺社参りの歸り路、目慰み
 に立寄りし處にて總稱を誓
 願寺前と稱へたのである、
 維新後道路を開通して新京極通りと西は寺町
 通東は裏寺町の三道路となし多くありし寺
 院の表門を夫れく道路の方へ出したが、い
 つしか京都第一の熱鬧場となつたのである重

京都新京極六角下ル

天狗印メリヤス店

小野

なる店は東側に▲錦魚亭あり冬は善哉しるこ
 夏は氷水店にて先年改築し庭園も一寸した處
 である▲書籍と化粧品販賣の改進黨▲櫻田靴
 店▲小町すしは表の御客と明治座の御客を相
 手にして居る西側に目立つ
 は▲◎砂糖店に▲げんげ糖
 の本舗中西永昌堂▲うどん
 屋萬歳▲お多福といふ日本
 一の氷屋がある茲は年中夏
 冬なしに氷を割いで屋内は廣くもあらねど一
 寸した庭先もあり暑中の頃は爰へ一杯の客に
 て一日何千斤といふ氷を削ぐるそうで三府に
 これ程多く賣る家はないとの事である▲片山

下駄店に▲帽子雜貨店の仲安價堂にて茲の東には

●明治座 がある大劇場にして昔は新京極の通りに表口がありしを八九年前焼失して新築のとき今の南向になりしものなり、此座は元中村小陣が新築し坂井座と稱し俳優は今は故人となりし中村雀右衛門、實川八百藏、實川延三郎、市川荒五郎、中村仙舟に今残り居る嵐橋三郎、中村小陣等が常に座付同様になつて居たが、其後小陣は離れ、又た常盤座と改稱して今の壯士俳優仲間小二郎が大坂梅田の歌舞伎座より焼出されて茲へ移り幾ばくならずして亦た全焼に逢ひ静間も負傷し療養中

に新築なりて明治座と改稱し、仕打も松竹合名會社の肝煎にて漸次隆盛に趣き今日にては座付俳優として毎月規定の興行を爲すは此座より外になく一座の連名は座長静間小二郎を始め熊谷猛雄、金泉丑之助、花井二郎、井上春之輔、島田經臣、辰見、永瀬、埼東、木下等が常に技藝を振ふて居る、其東隣りが▲芝居茶屋柳屋に▲理髮店の加藤成友館隣りは▲眼鏡湯で湯槽三ヶ處あり藥湯あり白湯あり夏時は瀧より落る水にかゝることも出来る西の櫻湯と相對して京都第一流の洗湯である夫れから▲安直牛肉料理店のペラヤス、元蛸薬師上る處の小路に居りしが家主に追ひ立てられ

て茲で開業して居る次は▲玉突屋位のもので

元の京極へ出る角が▲千歳といふ名題の小田巻屋で小皿盛りでも何んでも安直である市内の人より近在の人が多く晝食時などは座る場處もない程である向角が▲竹亭牛肉店で古顔である北側に▲京名物お多福豆、煮豆類を賣る四戸金藏に▲常盤すし茲の鯖のすしは主人の自慢である▲櫻湯茲は三府になき立派な湯屋にて自家用電氣を使用し室内にアーシ燈を点し常に百人宛位の入浴客は絶ゆることがなひ話の種に一度入浴を試みられよ茲の前南側の人家の間に豊臣國松君の墳墓あり秀頼公の弟にして夭死せられしよし元の京極へ出で南六

角通りの東突當りに

●誓願寺 あり浄土宗西山派の本山にて開基は惠隱僧都である、本堂の本尊は春日作の阿彌陀如来を安じあり、抑も當寺は天智天皇の創建にして初め大和にありしを桓武天皇遷都の後山城乙訓郡に移し、後ち又元誓願寺通小川の西に遷し、天正年中に至り更に豊臣秀吉の政所松丸殿の命に依りて、現今の地へ移りしといふ、茲の横に▲そはや更科がある一寸小座敷もわり蕎麥も甘きより大に繁昌せり誓願寺前に

●夷谷座 あり南向にして大劇場なり現今は座付の俳優としてはなく、時々中芝居の若手俳優

誠心院、朝日座

優か又は活動寫眞等を興行して居る、此座は元女俳優の照葉狂言と稱し白を言はずして所作として見せて居つた時代中村由尾、嵐班藏中村仲吉今の翠華、中村のし松等の女俳優にて非常なる人氣なりしが壯士俳優の勃興すると同時に次第に衰微して今は其影だに見ることが出来ぬ、向ひ東角に▲寄席角の屋わり活動寫眞や江州音頭などを興行する其南に▲寄席初音座あり共武團の劍舞にて年中押通して居る、其向ひに▲寄席笑福亭あり三友派落語の定席にして、圓太郎、文之助、扇枝、福太郎、芝樂、福丸、圓彌、圓橋などは居付にして時々浪花三友派の眞打連が助けに来る▲

光梅堂菓子店▲東京蕎麥尙月庵▲牛肉料理の播重▲天狗メリヤスの小野▲更科うごんやに▲越後屋菓子店等が重で茲に小路がある、向ひ側は▲橋本寫眞館▲巴屋下駄店▲今井壽盛堂支店位のものでこゝに

●誠心院 あり境内に和泉式部の墓あり式部は女にて一條帝の時上東門院に仕へ文學に達し、殊に和歌を善くす、後尼となりて誠心院に住せしなりこゝも元は誓願寺境内にありしといふ、俳諧師言水の墓もある隣りは▲三國一の呉服店甲斐絹屋▲朝鮮せんざいの支店▲小間物類を鬻ぐ藤井喜榮堂位のもので

●朝日座 あり目今は喜劇の定小屋にて箱王

團次、竹王、久米の仙人、梅若、新玉等の一座にて樂天會なるものを組織して技藝に熟中して居る、元此座は福井座と稱し夷谷座に對抗して女俳優の大谷友吉、尾上梅曉、中村春吉、尾上梅昇等の一座にて好評を博し居りしが時勢の變遷か夷谷座同様いつとなく其一座は解散し後ち布袋座となりて川上燕などの壯士演劇ありしが是れも續かず朝日座となりて二〇加なを興行せしが後ち現今の一座にて引續き好評を博し居れり、元の和泉式部の西側が▲浪花節の寄席第一福眞亭で其南の▲第二福眞亭は女義太夫の修業場で年中休みなしに興行して居る、こゝは元大黒座俗に東向と云

蛸薬師

ふ劇場跡へ新築したのである隣りが▲理髮師賢長館支店▲帽子商の中村薄利堂に▲丸島下駄店▲食料品雜詰の濱口珍品堂こゝの小路に▲マロヤスと云ふ牛肉料理がある▲うごんや萬歳▲大黒餅に▲花菱屋下駄店などで、朝日座の隣りに

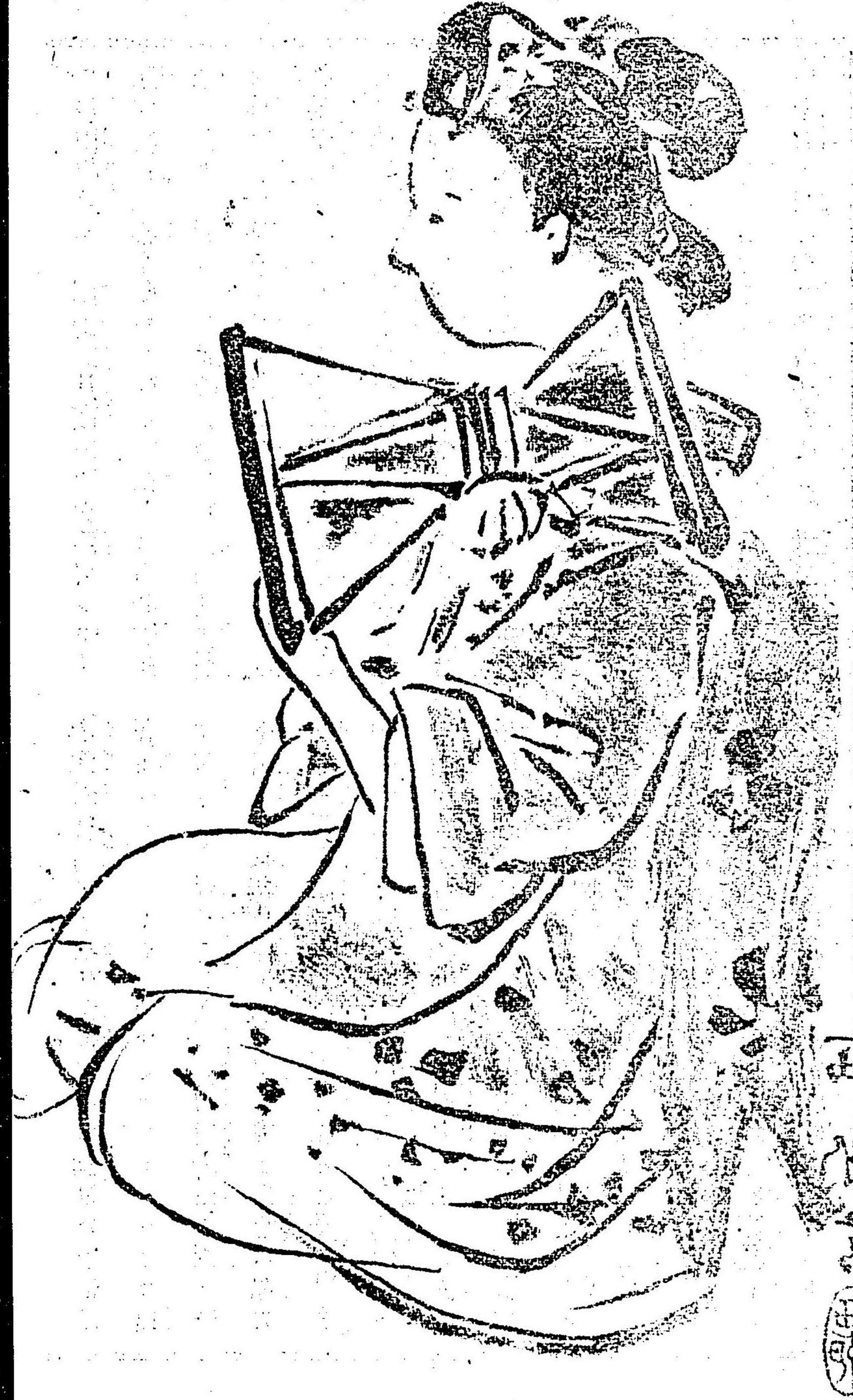
●蛸薬師 がある淨土宗にして永福寺と號し本尊は薬師如来の石像なり傳教大師の作と稱す、本堂の前に北向地藏尊と愛染明王あり、初め此石像は叡山の北谷にありしを後二條室町へ移し堂を營み水上薬師といひ又其境内に水澤あるを以て澤薬師といひしを後世現今の地へ移し、誤りて蛸薬師と呼びしといふ説と

一は普建仁寺の僧堂に小僧あり、北在所に住
 ひ母に事ふること篤つく、好物なる蛸を買
 毎夜在處へ運ぶ、此事現はれて一山僧侶の問
 題となり、或夜彼れが蛸を持運ぶ跡を追ふて
 取押へた處が不思議や蛸忽ち薬師如來となつ
 たども云ひ傳ふ隣が●寄席田村座にて金房冠
 二郎の劔舞又は猴芝居などの席である▲夫れ
 から働工場があつて角が▲佐野化粧品店であ
 る蛸薬師の向ひ角が▲小間物屋で●落語寄席
 の幾代亭は桂派の連中にて枝太郎、文吾、年
 史、三八、桃太郎、文樂なまの定連に浪花桂
 派の真打が必ず助けに来る、隣りが▲組紐商
 の村川勘藏▲一閑張文具商などで西に▲かし

わ屋の島政支店旭亭に▲蛸薬師の毒下し本舗
 の玉泉院 東に行けば北側に▲小谷寫真館▲
 暮部易學館に南側は▲東京にぎりすしの吾妻
 ▲高等牛肉料理の翁亭などである、元の新京
 極に戻り西角が▲帽子洋傘店の中村正價堂▲
 早川花簪屋などで▲講談定席の橋家席は
 名前がよく替る▲西川糸組紐店に▲るり文山
 内袴店に▲手輕料理の平和亭▲京土産の寫真
 商松本勝太郎裏には撮影場もある▲袋物商
 小川泰次郎に▲肩掛洋傘帽子店で鐵道の廣告
 に熱心して居るまけん堂河口庄太郎▲隣りが
 眞正のクリスチャンのワンピースショップ山
 本龜松花簪を隠ひで居るが日曜日はどんな



西
 洲
 画
 印



五ノ子
田

紋日でも店を閉めて御体み角は△裕正の浦田
清兵衛神戸にも支店を置き半衿リオンは流行
に魁がけて賣出して居る横町に△鳥新と云ふ
鶏肉料理屋がある、元の崎薬師へ戻り東側に
重立ちたるは△角にシヤッ腹掛の店がある夫
れから

●安養寺 あり淨土宗にして後深草院の勅願
處なり開基は恵心僧都の妹安養尼なり、本尊
阿彌陀佛は七葉の蓮華を倒にせる華臺に安ん
じ女人濟度の本願なり世に逆蓮華の彌陀とて
名高し

隣りに△大黒屋下駄店△山口文房具店△うど
ん屋の高砂●立江の觀世音わり隣りが△山岸

安養寺、錦天神社

砂糖店△食料品とキリンビールと千枚漬を賣
る大藤傳次郎△帽子屋の田中正榮堂に△田毎
はうとんとば井などに勉強し座敷も一寸した
處隣りの路次が△錦座で講談の定席となり伯
鶴琴書などが居付の様になつて居る△次さが
電氣館は活動寫真で好評を得て居る此邊に近
々大虎座々主小林寅吉が大劇場を建築する目
論見ありて其設計をして居る由△犬印メリヤ
ス保険付元祖、位野花商店△眼鏡商池垣玉
善堂支店に△龜村菓子店などは立退くやも分
らぬ

●錦天神社 あり當社は元紫苔山觀喜光寺と
いふ時宗の寺院にて開基聖戒上人が河原院の

舊趾、今の積穀邸の處にありしを天正年中豊
 太閤の命にて當處に移せしものにて其寺内へ
 道實公の神靈を祀りありしが、明治四年神佛
 混合を禁せられしにより佛寺の付屬を離なれ
 て純然たる神祠となし社殿を造營した、神靈
 は菅公自筆の畫像である、境内末社に鹽竈神
 社と稻荷神社がある、茲の南の境内に
 ●十一面觀世音菩薩 が安置してある參詣人
 常に絶へず、表へ出ると北角に▲玉垣眼鏡店
 南角が▲一寸素人淨瑠璃が語れる勇すし▲玩
 具屋などありて

●大寅座 がある以前は『新聞二〇加やおは
 いりやす』と云て京極名物であつたが其時代

には先代馬鹿八、東玉、正玉、新玉、尾半、
 小半等の一座が時代の二幕跡は新聞二〇加
 を演じ非常に人氣に叶つたが、追々變り行く
 時勢に隨ふて二〇加ではパツとせぬ處から喜
 劇と改め俳優の鑑札を受けて現今は二代目馬
 鹿八、二代目正玉、茶好、東ノ貴等が奮發し
 て朝日座と對抗して技藝を磨いて居る隣に▲
 うきんそば屋がある横には小路があつて、一坏
 飲屋もあり行當りは

●金蓮寺 である時宗の本山で錦綾山と號し
 四條道場にて此邊全体を單に道場と稱したの
 である、本尊は阿彌陀如来にて開祖は淨阿上
 人なり又後伏見天皇をも開基とす、天皇の皇

后は三條河原にて上人より名號を戴きて安産
 してより深く歸依せられた、本堂の天井は極
 彩色の大伽藍なり、末寺は七十餘ヶ寺もある
 又た親慈地藏は連慶の作にて元鳥部野にあり
 父母を失ひし兒童か其前に哭泣せしより此名
 あり、門前の横に辨財天の祠あり巳の日と毎
 月二十四日には小兒の參詣多く虫ふうじの御
 祈禱がある、現今の住職は足利灌柔といひ裏
 千家の宗匠にて宗融と號し三八の日に茶道を
 教へ二七の日に松月堂古流の茶道を教授して
 居る、北の横手に▲玉次屋の金綾館と▲鶏肉
 料理のやつこ支店があるコッソリと行くには
 上々の處である、併し直は高い、元の京極へ

出ると▲左り馬メリヤス、シャツ屋の井上銀
 之助に▲松月と云ふ蕎麥屋茲は夏季は氷水屋
 で自家用電氣燈を使用してアーシ燈を点し、
 庭園には溜を拵へて夏尙寒くお多福につゞき
 し氷店である南角は

●歌舞伎座 である、茲は往昔より道場の芝
 居と稱して有名なりしが、十餘年以前改築を
 命せられし際、其頃花見小路に祇園館と稱し
 て御殿造の大劇場ありしが足場の遠さを爲め一
 向に振はざりしより茲へ移し常盤座と稱せし
 が後ち歌舞伎座と改稱せり、現今座付の俳優
 とてはあらざれども毎年十二月顔見世芝居並
 に一月初興行などには雁次郎、福助、右團

次、殿笑等の古老が乗り込みて賑はし其他女
 義大夫呂昇或は喜劇會我が家など乗込むこと
 あり京都屈指の槍舞臺の大劇場である
 夫から四條迄に目立つは▲帽子店の宮城薄利
 堂に▲精進料理の花遊軒は料理より益裁萬年
 青などで儲けて居る▲松浦硝子店に▲田中正
 榮堂の支居位のもので西側のかゝりは▲鹿の
 子半袴襦紗類の京土産を鬻ひで居る袴清事土
 岐清兵衛で北横を西へ入ると

●染殿地蔵 にして眞言宗なり本尊地藏菩薩
 は五尺餘の立像にして弘法大師の作なり染殿
 皇后深く傳信し給ひ、當院を建立し給ひしよ
 り染殿地蔵と稱す、傍に妙見堂あり境内に

名題の善哉屋丹金あり爰も時勢に連れて大に
 改良しハイカッタ麥酒等もあり夏は氷西瓜も
 ある元の京極へ戻り北角が▲澤田袋物店にて
 組紐等も賣つてうそなしやと自慢の正札店で
 ある、茲に二三軒玩弄品屋等あり▲龜村饅頭
 店年中繁昌して居る隣りの▲日本一うなぎ井
 かねよ支店安直であるので中々の繁昌、まづ
 京都一位にはなれるだろう▲履物店の越後屋
 浦崎支店に▲東京菓子西谷堂▲今井肩掛洋傘
 店の支店に▲奥田袋物店▲川本袋物店▲於こ
 の浦田このに▲さよ千鳥洗粉とルーデサツツ
 の千代の友を賣る古座谷龜壽堂▲粟津袋物店
 に▲玉一屋吳服店など重立つた店でこれで新

京極を一通り觀て廻つたのである、錦天神社
 を東へ移けると裏寺町へ出る、茲の通りは兩
 側ともに寺院多くして其間に待合席貸がある
 二本松などは一寸名高く俗にボン屋と云ふ北
 へ六角までは寺院と待合のみと云ふても差支
 へない、茲より河原町へ出て北に行くと三條
 南入る處に▲西洋料理店の東洋亭がある茲は
 室内整備して料理も巧みの方である一先づ、
 三條大橋西詰の處まで來る、京都府里程元標
 は茲に建てある處東は前に記してある此邊は
 旅館が軒を并べて居る、西に向ふて重立ちた
 るは▲會席料理のおやこである坐敷から東山
 三十六峯を見晴し料理より風景の方が御馳走

である、隣りが▲九錢五厘屋がある化粧品で
 も玩弄品でも何でも九錢五厘の均一にて四條
 栗山大膳堂の支店である▲棕桐細工の内藤佐
 太郎▲旅館布袋館▲旅館龜屋▲鴨川餅に▲新
 古美術品貿易商の蓬萊堂喜多虎之助▲京都新
 聞社位の者で南側の角が▲旅館目貫屋▲旅
 館日光屋に▲車の帳場▲矢野蒲團商會の支
 店▲扇子商の武久源次郎▲藤田三寶堂の佛畫
 肖像店▲菓子商の菊水堂位で三條小橋を西に
 渡り北詰が▲旅館の釘拔亭吉岡家に南側が▲
 山城屋旅館である西へ向ひて目立つ家は▲柳
 行李商の進藤熊一郎▲名物驚知らす屋▲賣藥
 卸商の櫻庭大壽堂▲萬屋旅館岡本猶吉は橋

村と號し中々の通人で文士と交際も多く、旅客の待遇は頗る誠實である、樵街に別荘を修築せり某名士が

京都鴨津別荘四時之圖

つよく柳はみさりの霞 祇園清水花の雲
庭を枕に涼みの床の水をすれ／＼飛ぶ雲
秋は紅葉の友 柳染よ三十六條一しぐれ
川はかれ／＼月折わたる夜明／＼になく千鳥

と云ふ端唄をせられた向ひに大同生命の支店長岸本傳吉▲大澤商會の貴金屬美術品時計自動車などの直輸入を爲し者實業の稱り會主は市参事會員、京都商業會議所副會頭等である▲向ひは煉羊羔の名物伏見駿河屋

カバン店は水枕や色々賣つて居る▲山田煙霞堂は煙草を賣つて居る南側に▲橋本賣藥店▲菓子商の山本熊吉▲戸田活版所位が目立つ所である爰が前に云ふた三條の寺町で北側に佐藤運送店▲書籍商山中勘次郎隣りが▲櫻井時計店▲紀州たびの清水商店▲帳簿製造の溝井商店南側に▲朝日新聞販賣局の太田權七▲毎日新聞支局位の者で▲西角が大谷仁兵衛と云ふ書籍店今は法律書多く地方行政學會をして居る▲本田洋服店は仕入洋服でも注文した品のやうにして呉れる▲澤田足袋店▲内國生命保險會 社出張所▲淺見自轉車商會▲朝日堂名刺台紙屋▲北側が聖書房に▲藤原忠

の支店▲加茂川餅に▲秋田家旅館の井上カネ▲みすや針の福永虎之助位のもので河原町へ出で東南角が▲化粧品賣藥店に▲金屋貿易商の村上竹次郎向に▲洋紙問屋の古川合名會社に▲宮内省御用達の時計貴金屬美術品商の喜多山茂助▲算盤商の小谷平兵衛▲みすや針の福井勝秀▲池田洋服店に▲戸田洋服店▲柳行李商の速水吉平向ひ側に▲庵原時計店▲古ひ物なら何んでもある時代屋骨蒸店▲島崎時計店▲唐木細工の今村龜之助▲十字屋樂器店にて種々な雜貨東京土物などを廻ひて居る北側に▲せんざい餅屋の永徳亭▲島新で雞肉料理の安直な店である▲名題の焼芋屋に▲福井

兵衛▲京華日報社位のもので鉄屋町の西角が▲大阪新報の支局▲丸善株式會社の支店▲大茂法衣店▲せいや足袋の西田清一▲美濃部呉服店に▲和洋紙商の高木太兵衛▲家邊徳之助は時計貴金屬蓄音機商などで名あり富小路の角が▲渡邊寫眞師▲西に行くに杉浦治兵衛縮緬類から袷紗も賣つて居る北側に▲橋本石橋聯合新聞賣捌店▲便利堂繪はがき店▲ロマイアの工場は新町夷川上る所に在る▲點林堂活版所は歐文専門にして居る▲有本洋服店▲向ひに京都羅紗合名會社▲繪具商の伊藤重之助▲川杉資善堂は賣藥問屋で特效散美聲散などは當店の調劑である向ひ角は京都青年會館



英女

を新築の工事中である西角が▲袋物店の奥田清古堂隣りが▲横濱火災運送信用保險會社支店である支店長植田倉吉氏が擔任して居らる
 ▲長谷川糸物店に▲株式現物賣買店の菱田百太郎▲堺町の角が糸物商の和田辨之助で北側が▲第四十九銀行の板園新築場處に▲發命膏の本舖平井祐喜▲縮緬問屋柴田源左衛門などが目立つ所である堺町の北角に▲日本火災保險會社の支店が新築出來て間もないやうである支店長は原田卯七郎氏執務されて居る▲書籍店にて舊家の出雲寺文次郎▲平井吳服商店の支店向ひ側が▲文房具屋の福田文適堂に▲蚊帳商のカヤ平、田中平兵衛▲東枝支店の

新聞賣捌店などて高倉の西北角に巍然たる建築は日本銀行出張所にて所長は麻布二郎氏である其向ひに▲第四十九銀行の假店が御粗末ながらある夫から▲新聞廣告取扱の萬年社支店に▲川島甚兵衛▲日本生命保險會社支店で支店長野村光貞氏が實直に執務せらるゝ其内に▲共同火災海上運送保險會社出張處あり主任鯉淵登喜男氏専ら手腕を振ふて居る▲笠原公證人に▲餅菓子屋の清福軒に▲エソ井テールブル生命保險支社に▲京都通信社と新聞廣告取扱の京華社がある夫から▲毛糸商中村友吉▲電話取扱合名會社に角が▲西洋料理の發靜軒である北側で目立つは蚊帳綿問屋

の高橋徳兵衛に▲日出新聞社と活版印刷合資
商報會社あり近々柳馬場二條南入る處へ
移轉し茲へ京都商業會議所が新築なるのであ
る隣りが▲京都郵便電信局の本局で局長は宍
戸省三氏監理課長は桑山鐵男氏電話課長西脇
吉久氏等である此辻は東洞院通にして南に
突當れば七條停車場に至る、三條より半丁南
に六角堂の入口がある

◎紫雲山頂法寺と號する、世に云ふ六角堂
である、西國十八番の札所にて宗旨は天台宗
にして聖徳太子の開基せられた處である、本
尊如意輪觀世音の像は往昔淡路國岩屋浦の海
中より獲たものである、長徳二年正月には花

紫雲山頂法寺

山法皇の行幸がわつた、眞宗の宗祖親鸞上人
は叡山から一百日間此堂へ參詣して本尊の靈
告により法然上人に隨持して、遂に眞宗を開
いたのだと云ふ、本堂は元治以降幾度か兵燹
に罹つて現今の堂は明治十年再建なつたので
ある、昔は堂の横に池があつて、其邊りに坊
があつて池の房といふ立花の家元で七夕立花
會の濫觴であるとうな、本堂の扁額に

わが恩ふ心のうちはむつの角

たいまるかれもいのるなりかり
東横に毘沙門堂ありこゝより元の三條へ戻れ
ば、南側に▲津の清饅頭店▲濱利化粧品店▲
合名會社中井商店の和紙店▲隣りの路次に中

井三郎兵衛の宅▲西隣りは洋紙店▲すしと仕出料理の井筒▲平儀履物店▲活版印刷の岸本源六等が重なる家で北側は▲カノン糸綴糸等を賣る岸田總次郎▲細辻伊兵衛は由良之助印裏地に名聲を博し居れり▲木綿問屋の北村芳兵衛▲染呉服商の關藤▲法衣商の草木商店に▲神官装束具を調げる荒木伊助に▲染呉服悉皆商の遠藤彌三郎位のものである、此附近は京都屈指の場所柄にして西陣織物帯地問屋に染呉服店、縮緬問屋など有名なる商店のみ軒を列ねて盛んに取引が出来て居る、烏丸より西には▲呉服仕入商の尾崎勇助▲向ひに縮糸紡績糸商の阪東久市郎に▲千總西村總左衛門南

店は染呉服を専業とし北店は刺繡友仙天鵝絨繪などの貿易店にして貴州の入洛に際し此陳列所へ一度は必ず御立寄りになるといふ名譽家である夫れから▲西村源助▲奥村延次郎▲和田忠茂などは何づれも西陣織物商にて名高染呉服商には▲中村常七▲齋藤萬七などで角に▲賣藥商の白井精品堂がある开處は室町通りにして後祇園會には南に鯉山、北に行者山などが立つ西角は▲帳簿和紙商の前田長五郎にて▲西陣織物呉服問屋には橋中儀一▲西村吉右衛門▲弘田八助▲千切屋西村治兵衛などにて同家は遠く慶長年間に開業し代々相繼ぎて今日に至れり西陣織物問屋と縮緬友仙と

を業とし染織物の開善を謀りて同業者に貢献したる事跡なからず、又た京都商業會議所會頭、市會議員、京都博覽協會幹事長をして公共の事務に當つて居らるゝ、染呉服悉皆商には▲荒木秀太郎▲山田清次郎などある衣棚を南に行く筋が了頓圖子と云ふ小路にして茲は東京日本橋木原店の如く多くの飲食床がある▲精肉料理の舞鶴▲湯屋▲理髮床▲お手輕料理のみの佐▲雞肉料理の五徳庵▲うごんそばやの二葉支店などがありて中京呉服問屋の人々が此邊の客筋である

三條へ出れば少し西の北側に▲千切屋秋山茶店がある自園は宇治にありて製茶をなす此店にては小賣もすれば黒人同士の仲買もあり輸出貿易も爲して大に勉強している、新町通り南に至れば後の祇園會の山鉾北觀音山、南觀音山が建つ七月十七日に鉾建てあり祇園囃しの宵山などある、元の三條新町の角に▲八百屋柴田青物店に▲呉服商の池田新兵衛▲鹿の子問屋の湯淺專太郎▲繪具染料品商の八田源七▲電話賣買の柴田商會▲千代椿香油の橋本定次郎▲茶湯浴の鑄造にて舊家の開へある大西清左衛門向ひに▲西陣織物商の由里本忠次郎▲西洋料理業の朝日亭は相變わらず繁昌して居る、西洞院西には▲醫師の小林久太郎▲銅器金鳳商の林七郎兵衛▲和洋紙店の伊勢

藤小谷藤七▲蒲團講で有名な岩田市兵衛は呉服商もして居る▲菓子商の後藤清助▲山本助次郎などありて、油小路を南へ二丁崩樂師を西に行く

◎空也寺 あり紫雲山極樂寺と稱して時宗である開基は空也上人で本堂には空也上人自作の像、脇士地藏、毘沙門を安置してある、當寺に彌念佛と稱するものは、有髪の僧數人皆禪衣をつけ鉦或は瓢箪を叩き住持の調經に隨ひて踊舞念佛をするのである、總して此派の僧は一種異様の風を爲し塗笠を被り腰に瓢を下げ鉦を叩きて往來するを常とす、往時鉢叩き茶筌賣など唱ふる僧の出でしも此寺なり

◎空也上人は延喜帝第一皇子なり塵外の志ありて遂に出家して北山に入り、鹿を友とす一日、平定盛なるもの遊獵して此鹿を討つ上人悲歎して其皮を裁とし其角を柱杖にはさみて常に之を携へ玉ふ定盛も上人に歸入して有髮ながら衣を着し上人自作の和服を譲ふて市中を化導す今猶其子孫のこり寺中に住して鉢叩きと稱す

元の三條へ戻り西に向ひ自立ちし家は油小路の南角が▲松前屋足袋の中川武平に▲大丸家料理店は座敷を改築して料理にも勉強し向ひ側に雜貨店も出して居る▲櫻井時計商會の支店▲糸組物編物肩掛商の今井商行は嶺新なる意匠を考案し卸小賣ともに勉強して居る▲梅鉢饅頭の堀儀平は中に繁昌して居る▲醬油

味噌商の丹波屋窪田エン等が目立つのである茲に堀川通りと稱する小川がある東沿岸は電車が常に北野、七條停車場、二條停車場の間を往復して居る、茲の沿岸及び附近には染業者多く居住し、此流水を利用し友仙染、紅染、茶染などの染上げ物を洗ふて居るこれより北へ二三丁にて

和洋シヤツ

京都四條御旅町

龜村本店

◎二條離宮 がある舊二條城と稱し霞の城とも云ふ永祿十二年織田信長創めて此城を築き其後光秀が信長を弑殺せし時、信忠を攻め、圍みを焼たれば一時荒廢に歸せしを、慶長七年徳川家康再び茲を修築し

て入城あり寛永三年後水尾天皇の行幸を仰ぎ天下の諸侯を率ひ御前に盟ひ、同十一年には將軍家光三十萬の兵を率ひ上洛して茲に駐紮し二百餘年後將軍家茂上洛の時も亦た爰に入り、維新前將軍慶喜が大政返上の表を草せしも、明治元年今上天皇の親征の詔を頒ち玉ひしも皆此所にてせられた、往昔は天主閣もあつたが寛延三年雷火に罹り本丸は天明八年京師の大火に類焼し燼餘の建物僅かに存するのみと雖も建築の良材室内の名畫名刺は徳川全盛の當時を相見するに足る、然るに維新の

際暫く太政官を置き又た京都府廳の事務を茲にて扱ひし爲め荒涼の姿となりしを、明治十七年大修築を加へて離宮となし、宮殿宏壯崇嚴にして林泉は加茂川の水を引き、奇石怪岩を點綴して偉觀を呈せり。左れば誰にても拜觀をすることは出来ぬ、外壕の堀には蓮を植べあり、初夏の頃咲出で、見事なり

○霞の城 往昔は此城の北に所司代屋敷あり、南に公家屋敷、大目付屋敷、東町奉行所など、西に小畑代官の屋敷、西町奉行所、其他城番屋敷、十二層敷などありしを總て其跡なく皆、善善々の田圃となり、秋は徒らに桑山子の影のみなりしに、今は京師鐵道附けてより、惣て變じて再び人家楹比して大内裏朱雀大踏の昔を想はる、許りになりたり

南の辻を西へ三四丁大宮西へ入る所に

●神泉苑 あり桓武天皇以來歷代の天子遊覽の林苑で、桓武帝遷都の時清泉湧出せし故此名あり、往古は二條以南三條以北大宮以西壬生以東に跨り、境域頗る廣大にして方八丁の林泉あり、弘仁三年池邊の乾臨閣に觀花の御遊あり、是れ花宴節會の初めである、其后大に荒廢し元和年間にては舊跡殆んど滅絶せんと爲せしを、僧覺雅深く之れを惜み、幕府に請ひて漸く其一部を修補し眞言の靈場を開られ今は僅かに其面影を存するのである、門内に碧池あり法成就池と稱し池中に島あり、善女龍王、辨財天女を祭る、天長年間弘法大

師請雨の時勘請ありしなり、小野小町雨を祈りたる故事もありし、近時壬生狂言が分離して五月一日頃より十日間念佛狂言ありて大に賑ふ

ちはやふる神の泉のそのかみや 宗時

花をみゆきのはじめなりけり

茲より西へ千本に至れば二條停車場あり

◎花園御宝風山 風山は京都の遊覽地の内で、最も俗化されてゐるだけに嵐映館(一名温泉)三軒屋、三友樓等、其他數多くの一寸とした料理屋があつて、漣皮のむいた給仕女も見ゆる、従つて便利のよい所から京阪神の紳商等が近來別荘を造る建てるやうになつた、大黒閣と云ふのは大堰川の上流保津川急流を既壁して舟行を便にした大土木家

角倉了意の畫を祭つたもので、嵯峨には大覚寺、釋迦堂、二尊院、嵐山燒、天龍寺納豆、櫻のメナツキ、團子等ある、南二十丁程行くと松尾神社、梅の宮の名所がある

古へ茲に諸司代千本屋敷火見櫓のありし跡なりといふ千本三條以南は木材問屋軒を井べり重なるは▲西新三郎▲大藪常次郎▲長谷川政一▲京丹製材會社▲光川彦兵衛などにて何れも材木は多く兩丹地方より來る物を賣ぐのである、茲の西部京鐵線路以西は多く製織會社のみにして▲京羽商會の諸系織▲内藤合名會社のやまと毛斯倫工場▲京都綿子ル會社の工場などありて何づれも盛んに製織なし居る四條千本西に

◎京都綿子ル會社、あり明治三十一年の創業にして近來捺染綿子ルの需用激増したる爲め漸時隆盛の域に達し加ふるに清韓輸出も盛んと成り、工場も増築して英佛兩國式特色の粹を扱きたる器械のみを設備し捺染機、染色機其他完備せり京都織物界の雄鎮である支配人は小林銀三氏なり

千本の南一丁計り綾小路の西端に葛野郡大内村字壬生と云ふ所がある開處に

◎壬生寺、あり寶曆三味院と號し眞言戒律の二宗兼學で正曆二年江州三井寺の快賢僧都の開基である、本尊地藏菩薩は佛師の名工定朝が一刀三禮の彫刻にして、定朝期するに一千

日を以てし、成るに及んで相好嚴端恰も生身に向ふが如し長三尺餘の座像なり、快賢革堂を建て之れを安置す、白河帝鳥羽帝後白河帝行幸あらせ給ひし事あり、世に壬生狂言と云へるは、當寺中興の祖圓覺上人の創始せし大念佛にして毎年四月二十一日より十日間之れを施行す、桶取、花盗人、紅葉狩等二十五番の猿樂あり、無言にて少しも言語を用ひず、形容手振を以て意を示すいと古風素朴のものである、境内は頗る雑踏して、假面、刀、槍等の玩具店飲食店櫛比し、近郊は菜花黄にして、ガンデンの鉦の音の響くなどいと面白く、節分には疫除祈禱の爲め參詣者群を爲



壬生寺
田